

千葉大学

大学院看護学研究科・看護学部

年報 2019

[2019.4～2020.3]

Annual Report 2019
Graduate School of Nursing / School of Nursing
Chiba University



目 次

I. 組織	1
1. 教員組織と構成員.....	1
2. 学部生数および大学院生数.....	2
1) 学部生数.....	2
2) 大学院生数.....	2
II. 教育	3
1. カリキュラム.....	3
1) 看護学部看護学科.....	3
2) 大学院看護学研究科.....	5
2. 新たな教育の取り組み.....	10
1) 看護学部.....	10
2) 大学院看護学研究科.....	12
3. 研究科学位論文一覧.....	13
III. 研究	16
1. 教員の研究業績（領域別）.....	16
2. 科研費・競争的資金取得一覧.....	64
3. 共同研究.....	66
1) 国際共同研究.....	66
IV. 社会貢献活動	69
1. 学協会等への貢献.....	69
2. 国及び地方公共団体等への貢献.....	69
3. メディア・報道等を通じた貢献.....	70
4. 公開講座.....	70
V. 国際交流	72
1. 海外への渡航者数.....	72
2. 海外からの来訪者数.....	73
3. 海外の大学との協定.....	74
1) 大学間協定.....	74
2) 部局間協定.....	75

I. 組織

1. 教員組織と構成員

専攻	講座	教育研究分野	専門領域	教授	准教授	講師	助教・助手	特任／技術	
看護学	先端実践看護学	高度実践看護学	看護病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子	
			小児看護学	中村 伸枝			仲井 あや 下屋 聡平 中水流 彩		
			成人看護学	眞嶋 朋子 増島 麻里子			楠 潤子		
		高齢社会実践看護学	老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		山崎由利亜 佐々木ちひろ 森 麻未	(特任准教授) 大原 裕子 (特任研究員) 林 弥江 (特命助手) 中原 美穂	
	生活創成看護学	健康増進看護学	生体看護学	小宮山政敏	田中 裕二		雨宮 歩	(特任研究員) 松嶋絵里奈	
			リハビリテーション看護学	森 恵美	岩田 裕子		木村佳代子 遠山 房絵	(特任准教授) 前原 邦江	
			健康管理看護学	北池 正	池崎 澄江				
		地域創成看護学	精神看護学				野崎 章子	館 祥平	
			地域看護学	石丸 美奈				鈴木 悟子 坂井 文乃	
			訪問看護学	諏訪さゆり	辻村真由子			湯本 晶代	
	文化創成看護学	文化看護学	理論看護学	山本 利江	斉藤しのぶ		飛世真理子		
		専門職育成学	看護教育学	中山登志子				(技術職員) 鹿島嘉佐音	
		看護政策・管理学	看護管理学	(吉本 照子) (酒井 郁子) (野地 有子) (和住 淑子)					
	看護学	災害看護学	災害看護学	宮崎美砂子	佐藤 奈保			(特任研究員) 霜越多麻美	
	看護システム管理学	看護システム管理学	病院看護システム管理学	手島 恵					
			地域看護システム管理学	吉本 照子		飯野 理恵			
ケア施設看護システム管理学			酒井 郁子			カズノブダビッド			
附属看護実践研究指導センター	ケア開発研究部	ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子			(特任教授) 藤田 比左子 (特任研究員) 炭谷 大輔 (特任研究員) 相原 綾子		
		政策・教育開発研究部	和住 淑子	銭 淑君	今村恵美子		(特任准教授) 大原 裕子		
附属専門職連携教育研究センター							(特任准教授) 井出 成美 (特任講師) 臼井いづみ (特任研究員) 高橋 在也 (特命助手) 馬場由美子		
計				18	4	4	16	16	
外部資金等講座				特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員	
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン								(特任研究員) 國武由香里	
看護学教育CQIモデル開発と活用推進									
計								1	

2. 学部生数および大学院生数

(2019年4月現在)

1) 学部生数

学 部 (入学定員)		在校生(留学生再掲)	卒業生累計 (2018年度迄)
看護学部看護学科 総数 (80名+若干名)		334 (2) (編入生2名を含む)	3488
在 校 生 内 訳	1年	84 (1)	
	2年	88	
	3年	79	
	4年	83 (1) (編入生2名を含む)	

2) 大学院生数

専 攻	課 程 (入学定員)	在校生(留学生再掲)	修了生累計 (2018年度迄)
大学院生 総数		171 (11)	1154
看護学	博士前期課程 (25名)	52 (4)	806
	博士後期課程 (12名)	62 (3)	205
	国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0	5
	国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	4 (4)	2
看護システム 管理学	修士課程 (12名)	43 (0)	136
共同災害 看護学	5年一貫性博士課程 (2名)	10 (0)	0

II. 教育

1. カリキュラム

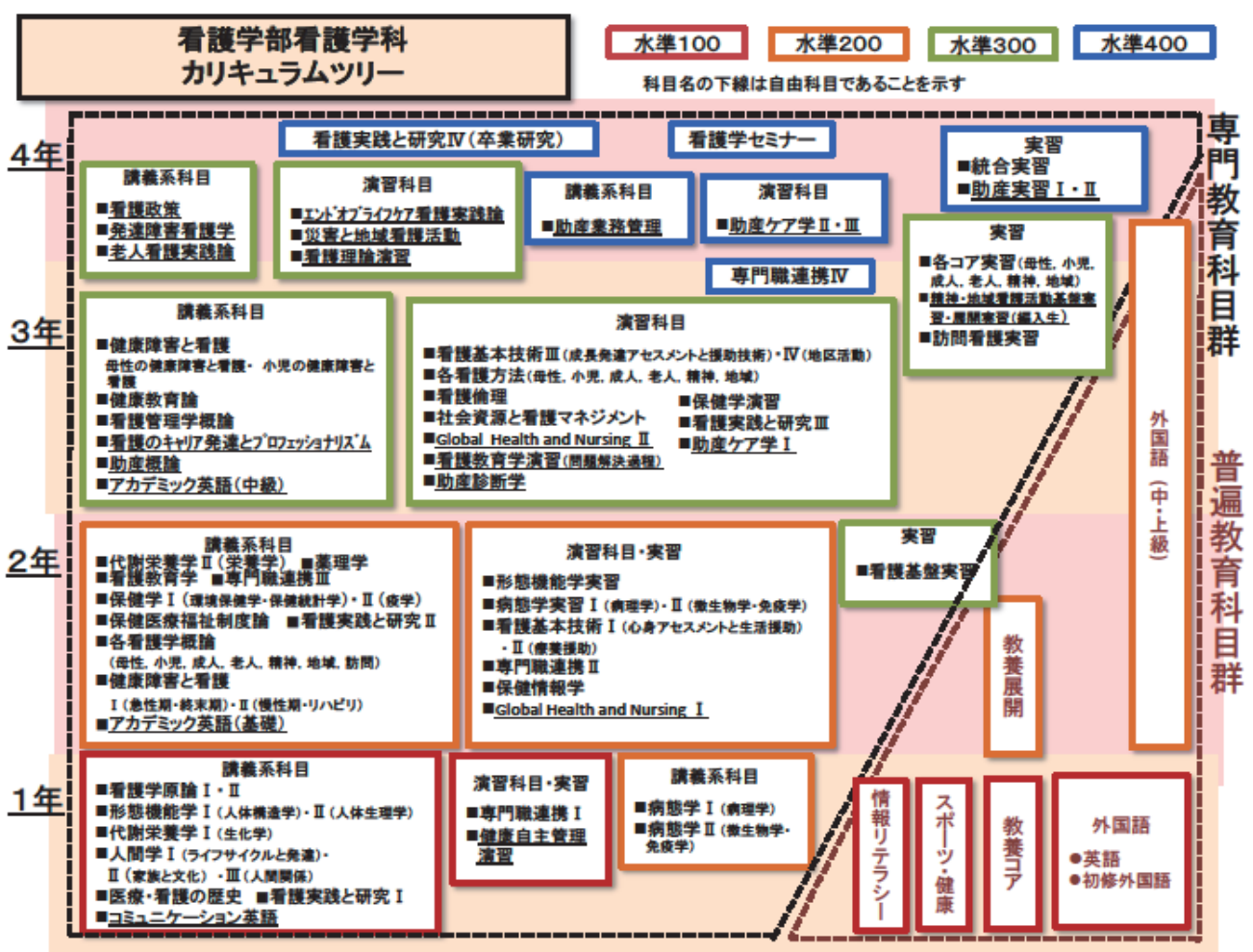
1) 看護学部看護学科

(1) 看護学科の教育課程の構成と特徴

本学科の4年間の教育課程は、看護学の基礎を教授するという観点から、次のように授業科目を体系的に整えている。すなわち、看護学の専門分野を紹介・導入し、博士課程への準備を整えるための専門科目とこれらの基礎となる専門基礎科目から構成される「専門教育科目」をおく。更に、看護専門職に不可欠な、深い人間理解につながる能力、広い視野を持つ判断能力、科学的問題解決能力ならびにこれらの学習を支える基礎学力の育成のために「普遍教育科目」をおく。

卒業時には、「学士(看護学)」の学位が授与され、保健師、看護師の国家試験受験資格が、また一部所定の科目を履修した場合、助産師の国家試験受験資格が与えられる。

なお、本学科は、社会人入試入学生、私費外国人留学生、3年次編入学生、科目等履修生などを受け入れている。このように様々な経験を有する者とともに学習する機会を多くしている。



(2) 臨地実習協力施設一覧

<病院>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県がんセンター
- ・千葉県こども病院
- ・千葉県精神科医療センター
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉メディカルセンター
- ・千葉市立海浜病院
- ・愛和病院
- ・学而会木村病院
- ・成田赤十字病院
- ・船橋市立医療センター
- ・船橋中央病院
- ・翠明会山王病院

<高齢者施設>

- ・JCHO 千葉病院介護老人保健施設
- ・介護老人保健施設おゆみの

<助産院>

- ・葛飾赤十字産院
- ・おおた助産院
- ・若草助産院
- ・モーハウス

<市町村>

- ・市原市
- ・鎌ヶ谷市
- ・白井市
- ・船橋市
- ・松戸市
- ・千葉市中央保健福祉センター
- ・千葉市花見川保健福祉センター
- ・千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市美浜保健福祉センター
- ・千葉市若葉保健福祉センター
- ・千葉市稲毛健康福祉センター

<県>

- ・安房健康福祉センター
- ・夷隅健康福祉センター
- ・市原健康福祉センター
- ・君津健康福祉センター
- ・長生健康福祉センター
- ・野田健康福祉センター

<訪問看護ステーション>

- ・看護協会ちば訪問看護ステーション
- ・いちかわ訪問看護ステーション
- ・てんだい訪問看護ステーション
- ・ふたわ訪問看護ステーション
- ・さわやか訪問看護ステーション
- ・みなみはま訪問看護ステーション
- ・しらはた訪問看護ステーション
- ・まくはり訪問看護ステーション
- ・訪問看護サボテン
- ・訪問看護ステーションゆうこう
- ・千葉メディカルセンター訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションかがやき
- ・みやのぎ訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションあすか
- ・土気訪問看護ステーション
- ・かしわど訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションひとみ
- ・花見川訪問看護ステーション
- ・なごみの陽訪問看護ステーション
- ・緑が丘訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーション稲毛
- ・訪問看護ステーションさくら
- ・匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里
- ・茂原市長生郡医師会訪問看護ステーション
- ・白十字訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションあいゆう
- ・訪問看護ステーションコスモス

<地域包括支援センター>

- ・十条高齢者あんしんセンター
- ・医療法人社団 慶勝会 館山市地域包括支援センターいちご

<小中学校>

- ・千葉市立新宿中学校
- ・千葉市立誉田中学校
- ・千葉市立幕張本郷中学校
- ・千葉市立小倉小学校
- ・千葉市立幕張東小学校
- ・千葉市立蘇我小学校
- ・千葉市立畑小学校
- ・千葉市立高洲小学校
- ・千葉市立小中台南小学校
- ・千葉市立弥生小学校
- ・千葉市立草野小学校
- ・千葉市立高浜第一小学校
- ・千葉市立轟町中学校
- ・千葉市立花園小学校
- ・千葉市立大椎小学校
- ・千葉市立稲丘小学校
- ・千葉市立さつきが丘東小学校
- ・千葉市立大森小学校
- ・千葉市立稲毛第二小学校
- ・千葉市立本町小学校
- ・千葉市立仁戸名小学校
- ・千葉市立小中台小学校
- ・千葉市立鶴沢小学校
- ・千葉市立検見川小学校

<保育園>

- ・たいよう保育園
- ・みつわ台保育園
- ・旭ヶ丘保育園
- ・若竹保育園
- ・千葉寺保育園
- ・今井保育園
- ・作草部保育園
- ・稲毛保育園
- ・幕張海浜こども園

<その他>

- ・公益財団法人 ちば県民保健予防財団
- ・NPO 法人けやきと仲間
- ・NPO 法人山友会
- ・あやめ台住宅管理組合
- ・スペースぴあ茂原
- ・森永エンゼル 110 番
- ・株式会社アメジストラボ

(敬称略、順不同)

2) 大学院看護学研究科

(1) 看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程：国際プログラム）

① 教育目的および特徴

看護学専攻では、看護師の行う実践の諸活動に科学的根拠を与える基礎的理論とその応用を体系的に教授研究し、国民の健康生活を守ることでできる看護支援方法の研究・開発が自立して推進できるナース・サイエンティストを育て、我が国の精神文化にふさわしいヒューマンケアの基盤を確立させることを目指している。

本専攻は、博士前期課程2年と後期課程3年に分けられており、前期課程では、研究者としての基礎的能力を育て、後期課程では、看護学分野の調査研究を独立して実施でき、かつ知識の蓄積・拡大・精選・伝達等に貢献できる能力を養う。

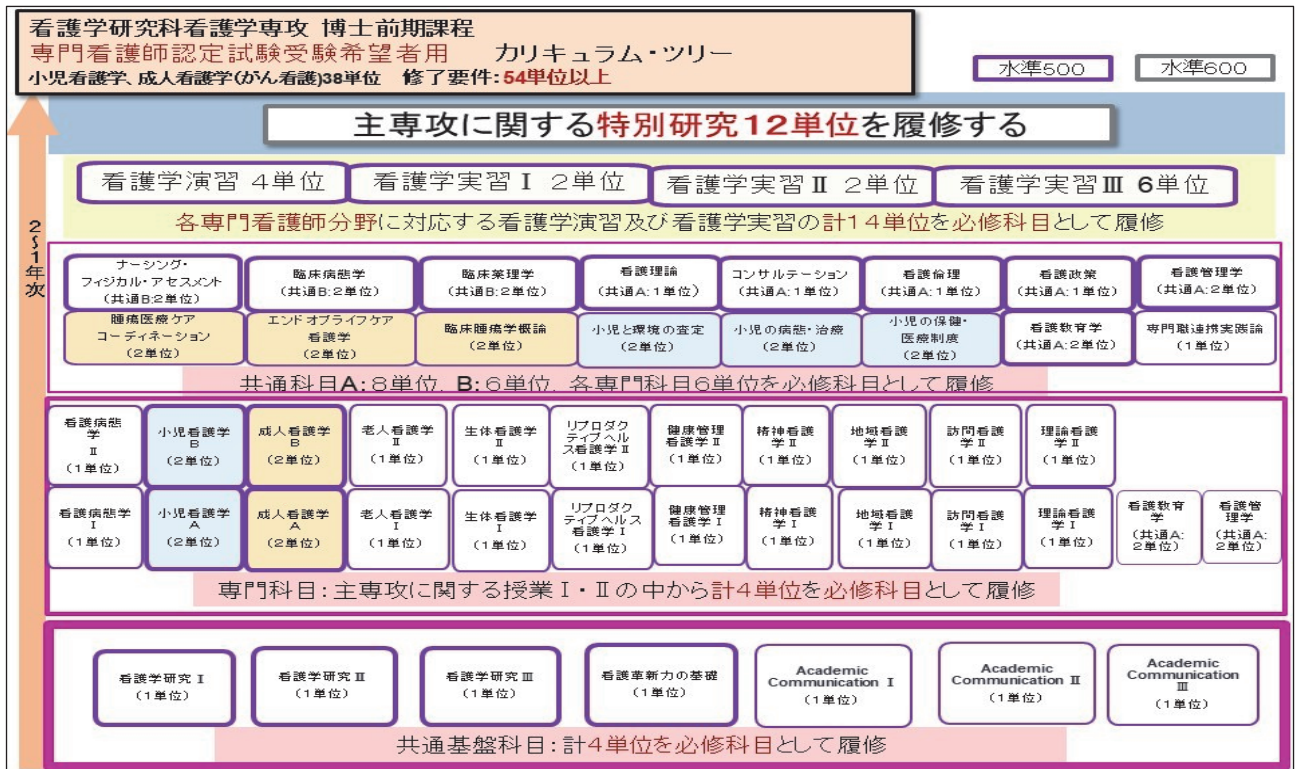
本専攻では、看護学研究発展の長期的展望に立ち、看護学固有の課題、すなわち、看護専門職の行う援助技術の発展に直結した研究課題を重視し、かつ看護学の学術的基盤を確実に発展させるために、医学や保健学など健康科学の広範な領域の研究手法、さらには人文・社会科学系、自然科学系の研究手法の応用にも重点をおいており、したがって複数の教員研究分野の指導教員から研究指導が行われる。

なお、看護実践のための技術研究を推進するに際しては、研究者自身の臨床経験が重要な意味をもつので、臨床経験を配慮した教育課程となっている。

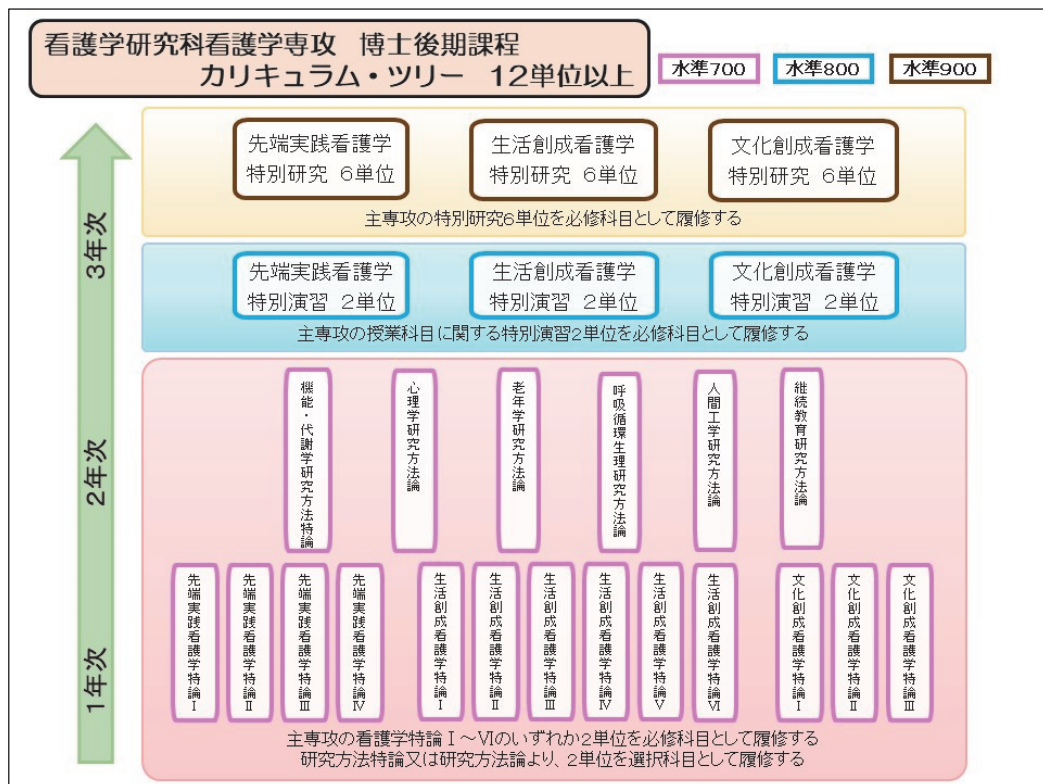
〔博士前期課程〕



〔博士前期課程・専門看護師認定試験受験希望者コース〕



〔博士後期課程〕



② 臨地実習協力施設一覧

<病院・診療所>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉市立海浜病院
- ・聖隷佐倉市民病院
- ・東京女子医科大学附属八千代医療センター
- ・おゆみのクリニック
- ・千葉県こども病院
- ・初富保健病院
- ・小田原市立病院
- ・立正佼成会附属佼成病院
- ・おおた小児科

<その他>

- ・訪問看護ステーションフレンド
- ・みつわ台保育園
- ・横浜市下永谷地域ケアプラザ

(敬称略、順不同)

(2) 看護システム管理学専攻（修士課程）

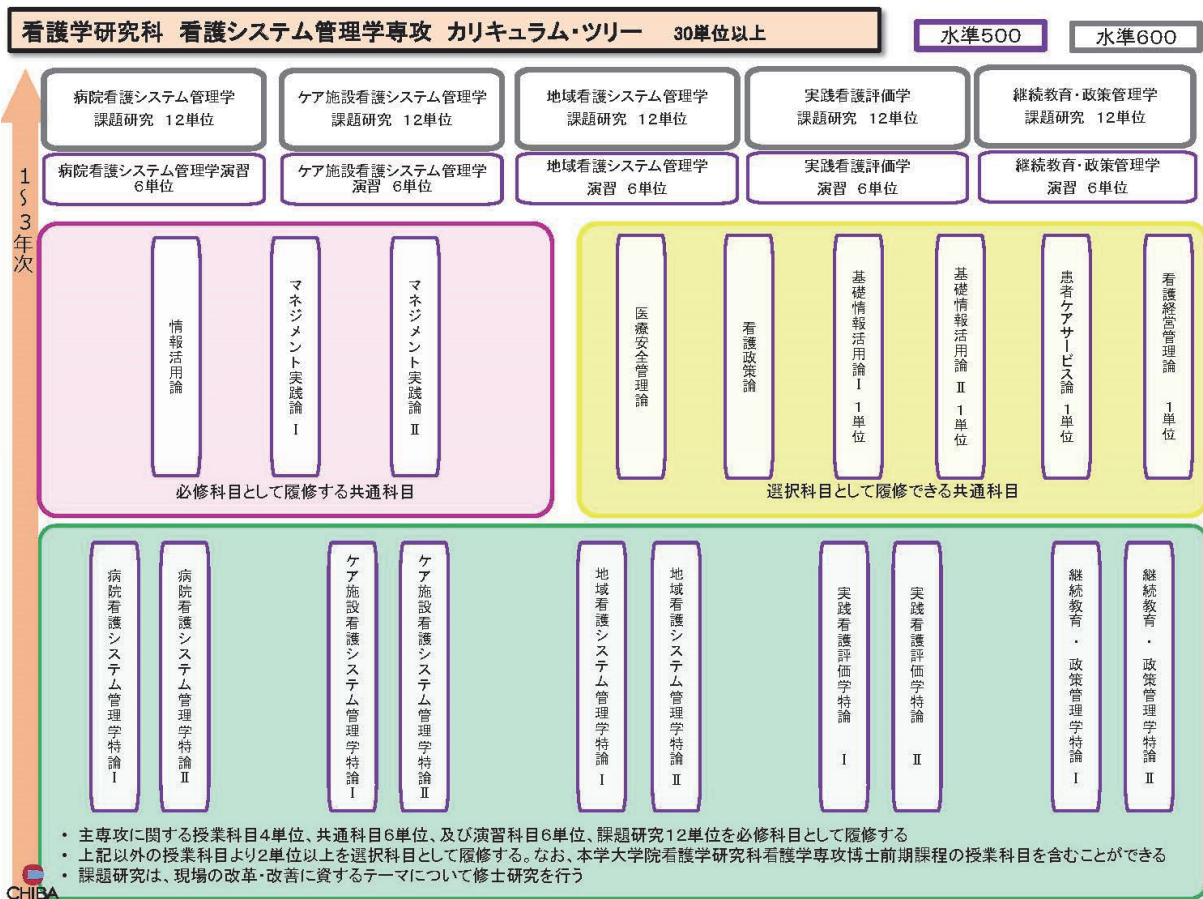
① 教育目的および特徴

看護システム管理学専攻では、国民一人一人の自己実現を含めた健康生活に対する多面的・多様な支援を連携・協働の精神に基づき強化・促進すること、すなわち、「看護」を組織的・社会的に推進する人材を養成することを理念とし、看護管理にあたる看護職者に対して、看護を通して新たな社会的価値を生み出す高度問題解決能力及び保健医療福祉の変化の状況を俯瞰し、変革的に行動する能力の付与を目標としている。

本専攻は、看護実践能力に加えて、看護実践の場を国民のニードと医療の高度化に対応して改革する意欲とこれを実践的に検証しうる立場を持っている現職の看護管理者を対象としており、看護実践と学業の両立を前提とした教育課程となっている。

本専攻の特徴は、以下の如くである。

- 看護管理者を現職のまま受け入れる。
- 在学期間を3年間の長期在学としている。
- 現職のまま職場の問題を取り上げ、修士研究として課題研究を行う。



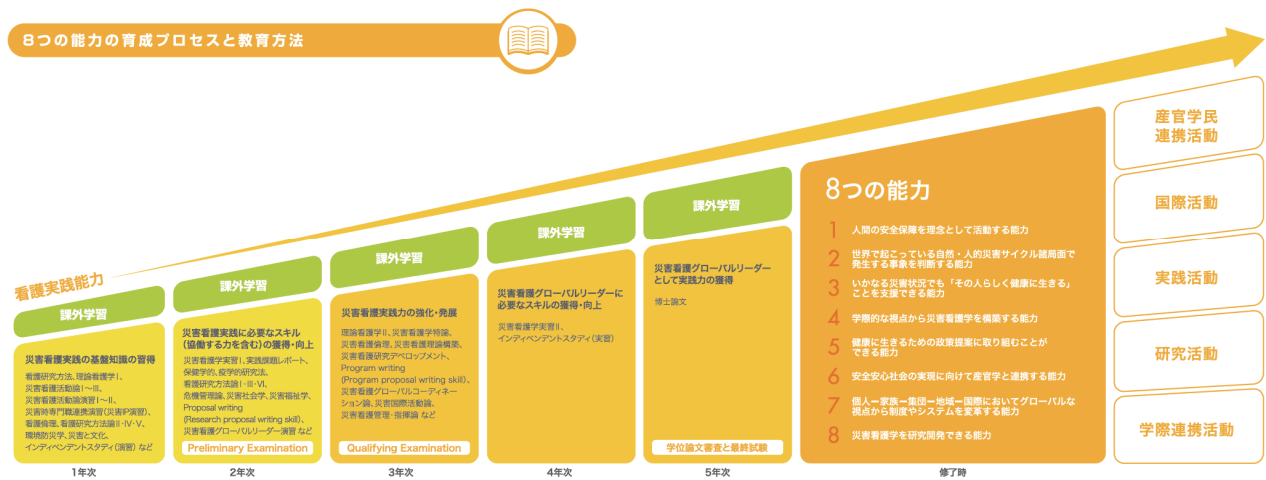
(3) 共同災害看護学専攻（5年一貫制博士課程）

① 教育目的および特徴

共同災害看護学専攻は5年一貫制の博士課程であり、高知県立大学、兵庫県立大学、千葉大学、東京医科歯科大学及び日本赤十字看護大学（以下、構成大学）の5大学によって設置される、共同教育課程^(*)である。本専攻は、人間の安全保障の進展に寄与することを目的とし、求められている災害看護に関する多くの課題に的確に対応し解決できる、高度な実践能力かつ研究能力を兼ね備え、学際的・国際的指導力を発揮する災害看護グローバルリーダーを養成することを目標とする。

教育課程は、看護学を基盤として、災害に関連する諸学問と相互に連携しつつ、学術の理論及び応用について産官学を視野に入れた教育研究を行い、その深奥を極めることを目指す。目標に基づいた6科目群（看護災害看護学演習、災害看護学実習、及び災害看護学に関する研究支援科目群）を編成し、先端的なICTであるTV会議システムとラーニングマネジメントシステムを用いた遠隔授業、遠隔および集合による高度なシミュレーション教育、国内外における研究及び実践活動のフィールドワーク、産官学協働の短期・長期インターンシップ等の方法を効果的に用いてグローバルリーダーとしての能力を培う。また博士論文を、全構成大学の教員による幅広く多面的な研究指導体制の下で作成する。

^(*) 高等教育機関の連携協力による教育・研究・社会貢献機能の充実・強化を一層促進すること等を目的に、複数の国公私立大学が相互に教育研究資源を有効に活用し、共同で教育課程を編成するものである。



2. 新たな教育の取り組み

1) 看護学部

(1) Global Health and Nursing II

① 担当教員

◎酒井郁子、

ダビッド・カズノブ、眞嶋朋子、辻村真由子、岩田裕子、野崎章子、舘祥平、仲井あや

② 概要

本取り組みは、千葉大学 ENGINE 推進という背景のもと、多様な価値、信念、医療看護の精度を理解し、文化的感受性を涵養することを目的に実施している。本取り組みは、2018年度から取り組みを始めた千葉大学看護学部・看護学研究科の連続的な専門英語科目群の一部であり、学部学生が異なる社会文化的環境に身を置き、日本の看護学と世界の看護学の両方の発展について考察し社会文化的配慮に基づいた看護が提供できるための異文化感受性を高めることを期待している。また IPE プログラムのグローバル化を視野にいたしたトライアルを同時に行っている。

③ 本年度の取り組み

本年度は、T6 にアラバマ大学、レスター大学、シンバイオス大学に合計 19 名の学生を送り、コンケーン大学、香港大学から合計 5 名の学生を受け入れた。また同時に、グローバル IPE の実施を見据えて、モナシュ大学、グリフィス大学、トロント大学、オタワ大学、ライプツィヒ大学、シャリテ大学、などに対して、医学部、薬学部の教員とともに調整中である。

④ 資金

ENGINE (グローバル IPE)、亥鼻キャンパス高機能化構想、大学の世界展開力強化事業 COIL

(2) 診療参加型 IPE (クリニカル IPE)

① 担当教員

(専門職連携教育研究センター)

◎酒井郁子 井出成美 白井いづみ 馬場由美子

② 概要

亥鼻 IPE (専門職連携教育 Inter Professional Education) は1年から4年までの学年積上げ型3学部必修の IPE として Step1～Step4 までの段階的プログラムを実施しているが、基礎教育の最終段階として、臨床の場で実践的な専門職連携実践力を向上させるプログラムが求められることを踏まえ、2015年度から試行事業として実施している。いずれは Step5 としての科目構築のための課題と対応を検討しているところである。

③ 本年度の取り組み

本年度は、7月16日(火)～19日(金)に、大学病院の8病棟10診療科において医学部5年生14名・薬学部5年生17名と看護学部4年生14名の合計45名が、3～4名ずつのチームを組み、受け持ち患者の診療ケア計画を共同で立案し実施評価を行うという実習を実施した。各診療科の医師13名、各病棟の看護師13名、薬剤師14名が指導に当たった。学生のリフレクションシートからは、Step1～4 までで培ったコミュニケーション力やチームビルディング力、チームへの貢献や自分の役割の発揮を実践の場で実行でき、専門職連携実践への自信と自己効力感が獲得できたことが伺われた。少数の選択した学生だけでなく、3学部すべての学生に平等にこうした学習の場を提供するには、日程、実習場所、指導者の確保等に課題があり、検討中である。

④ 資金

IPERC 事業費 (亥鼻高機能化推進費)

2) 大学院看護学研究科

(1) 博士前期課程新カリキュラムの開始

① 担当教員

◎諏訪さゆり (研究科目群責任者)

酒井郁子 (アカデミック・コミュニケーション科目群責任者)

和住淑子 (看護革新力形成科目群責任者)

② 概要

看護学専攻では、カリキュラムの具体をより良いものへと改善することに常に取り組んできた。2019年度は、大学院生が研究者として基盤となる確かな研究力、学際性、国際発信力を獲得できるようになることを目的として、博士前期課程については新カリキュラムをスタートさせた。2021年度からの博士後期課程新カリキュラムの授業科目についても、開講準備に取り組んだ。

③ 本年度の取り組み

研究科目群の「看護学研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において、大学院生は修士論文に取り組むための基礎的研究力を獲得した。看護革新力形成科目群の「看護革新力の基礎」では、社会を変革しうる看護学と看護職者の役割について熟考した。また、アカデミック・コミュニケーション科目群の「Academic CommunicationⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、国内外の学術誌等に主体的に発信する力を高めた。さらに博士後期課程新カリキュラムとして準備していた一部の科目を、2020年度から開講することになった。

④ 資金

なし

(2) 2020年度からの全員留学を見据えた教育基盤の整備

① 担当教員

大学院カリキュラム検討部会

◎諏訪さゆり 酒井郁子 和住淑子 黒田久美子 増島麻里子 カズノブ・ダビッド

② 概要

2020年度からの全員留学を見据えて、3専攻のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを改訂した。また、大学院生の留学に関する授業科目での位置づけ、留学を促進するためのスマートラーニング科目について、開講準備に取り組んだ。

③ 本年度の取り組み

3専攻のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが改訂され、全員留学の目的や意義、具体的方法が明確に示すことができた。また、共通基盤科目である看護学研究Ⅰ・Ⅱについて、スマートラーニング科目としてのシラバス改訂、コンテンツ作成等が開始された。これら2科目は、2020年度4月に開講する。

④ 資金

なし

3. 研究科学位論文一覧

令和元年度千葉大学大学院看護学研究科学位論文一覧

〔博士論文（甲号）〕

専門領域	論文名	氏名	指導教員
看護病態学	消化管手術患者における術後体温管理のためのケアプロトコルの作成と評価	亀田 典宏	岡田 忍
リプロダクティブヘルス看護学	初めて親となる男性の父親役割適応を促す出生前看護介入プログラムの開発	森田 亜希子	森 恵美
地域看護学	発達障害児の親向け災害への備え促進プログラムの開発－レジリエンス向上による地域との繋がりづくりに着目して－	細谷 紀子	石丸 美奈
看護教育学	病棟看護師の実習指導役割自己評価尺度の開発と有効性の検証	伊勢根 尚美	中山登志子
成人看護学	セルフマネジメントを支える在宅心不全看護モデルの開発	佐野 元洋	眞嶋 朋子
老人看護学	高齢者ケア施設における看取りケアを遺族が評価する尺度の開発	永田 文子	正木 治恵
地域看護学	保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくり推進のための協働モデルの開発	松井 理恵	石丸 美奈
訪問看護学	認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション職が行う介入研究における倫理的配慮のためのガイドの開発	佐伯 恭子	諏訪さゆり
訪問看護学	都市部においてがんの妻との死別を体験する高齢男性への訪問看護ケア方法の開発 -独居となる生活の再構築に焦点をあてて-	森實 詩乃	諏訪さゆり
看護管理学	救急・集中治療領域において救命治療から終末期ケアへシフトした患者の家族支援の充実に向けた看護管理者の役割行動指標の開発	西開地 由美	吉本 照子
看護管理学	他者との関係性の中で在宅終末期がん療養者が主体性を発揮して納得できる療養生活を見出していく過程を支える訪問看護モデルの開発	飛田 篤子	吉本 照子
災害看護学	インドシナ難民定住者の子どものソーシャル・キャピタルの醸成とウェルビーイングに関する研究 - 日本におけるラオス難民の人的資本の育成の視点から-	中島 麻紀	宮崎美砂子

〔博士論文（乙号）〕

専門領域	論文名	氏名	指導教員
看護管理学	専門看護師の「根拠に基づく実践」のための文献的批判的吟味」に関する教育プログラムの開発と評価	友滝 愛	酒井 郁子

〔修士論文〕

専門領域	論文名	氏名	指導教員
リプロダクティブヘルス看護学	妊娠糖尿病後女性の産後3か月間における食生活の経験	森田 由香里	森 恵美
看護病態学	ディスポーザブルタオルによる清拭の効果を高めるための検討ータオルの形状、温度低下を防ぐ工夫に焦点をあててー	高橋 美咲	岡田 忍
成人看護学	緊急入院した心不全患者の急性期から回復期における苦痛の体験と死に対する態度	東辻 朝彦	眞嶋 朋子
成人看護学	周術期外来でオリエンテーションを受けた患者の手術に向けた対処	橋之口 園子	眞嶋 朋子
成人看護学	再発がん患者と家族のエンドオブライフケアに向けた話し合いの様相	胡谷 さやか	増島麻里子
老人看護学	慢性疾患を有しながら独居生活を送る男性前期高齢者の老いの体験	拝田 一真	石橋みゆき
老人看護学	慢性疾患の急性増悪により入院する高齢者の生活機能を支える看護援助	山崎 友宏	正木 治恵
老人看護学	看護職が関わる地域住民の集いの場において高齢者が経験している‘互助’	佐久間 葵	石橋みゆき
老人看護学	医療型療養病床に入院する高齢患者のその人らしい生活を支えるケアにつなげる看護師同士の語り合い	渡邊 裕子	石橋みゆき
老人看護学	特別養護老人ホームに入所中の認知症を有する高齢者の家族との面会の有り様	藤村 眞紀	石橋みゆき
老人看護学	急性期病院における高齢者個人の文化を生かす看護援助のありよう	石井 智恵理	正木 治恵
老人看護学	在日中国人高齢者の健康に関する思い	姚 利	正木 治恵
生体看護学	植物を用いた食卓の装飾が食事環境の印象および食欲と食事満足度に及ぼす影響	楊 貴	小宮山政敏
リプロダクティブヘルス看護学	患者のセクシュアリティに関する看護実践に伴う障壁及びその障壁を克服した経験	阿部 清香	森 恵美
リプロダクティブヘルス看護学	日本の父親は母乳育児の支援者となりうるのかー妊娠中の妻/パートナーを持つ男性を対象とした母乳育児の認識に関する質的研究ー	北 ありさ	森 恵美
リプロダクティブヘルス看護学	妊婦の日常生活における身体活動の体験	多賀 まりか	森 恵美
リプロダクティブヘルス看護学	切迫早産で入院した妊婦の夫の父親となる経験	谷井 千恵	森 恵美
健康管理看護学	病院に所属する専門看護師・認定看護師による在宅看護を支援する活動の実態と要因	芥田 ゆみ	池崎 澄江
健康管理看護学	二次救急医療機関における救急外来で勤務する看護師のマネジメント能力に関連する要因	小松 亮	池崎 澄江
健康管理看護学	急性期病院における看護師の認知症高齢者へのケアに対する困難感とケア対処可能感の関連	松嶋 恭子	池崎 澄江
地域看護学	職場内教育(OJT)としての事例検討会における保健師の学習の構造	佐藤 太一	石丸 美奈
訪問看護学	介護老人保健施設に入所している高齢者の睡眠の特徴と影響因子	周 璐	諏訪さゆり

〔修士研究報告書〕

領域	研究題目	氏名	指導教員
病院看護システム 管理学	看護管理能力開発の仕組みづくり-本部と病院の協働による継続教育強化-	開保津 貴子	手島 恵
病院看護システム 管理学	中堅看護師の教育支援プログラムの再構築	田中 聡美	手島 恵
病院看護システム 管理学	看護補助者の能力開発と協働促進に向けての取り組み	山田 楼子	手島 恵
病院看護システム 管理学	働きやすい職場づくり —救命救急センターにおけるワーク・エンゲイジメントに着目した取り組み—	大内 明	手島 恵
地域看護システム 管理学	4市共同立総合病院附属看護学校における看護師育成のための訪問看護実習の再構築	福地 明美	飯野 理恵
地域看護システム 管理学	教職員の健康管理を担う健康推進室における平時の災害保健活動を行うための取り組み	中原 真理子	飯野 理恵
地域看護システム 管理学	自ら支援を求めない高齢者や家族に対する地域包括支援センター専門職の役割行動指標の作成	手塚 早苗	吉本 照子
地域看護システム 管理学	A 訪問看護ステーションにおける管理者と外部支援者の協同による訪問看護師の排便ケアの質保証のしくみづくり	梶原 敦子	吉本 照子
地域看護システム 管理学	病棟看護師による退院支援の質保証に向けた退院前訪問指導の仕組みづくり	嵯峨 美和	吉本 照子
ケア施設看護システム 管理学	重症心身障害児病棟の個別支援計画および療育計画の連動した充実のための仕組みづくり	星 美千子	酒井 郁子
ケア施設看護システム 管理学	回復期リハビリテーションの推進を目指した固定チームナーシング体制の再構築	横山 真由美	酒井 郁子
ケア施設看護システム 管理学	精神科単科病院における地域包括ケアシステムに対応した院内教育プログラムの構築	愛川 由美子	酒井 郁子
実践看護評価学	特定機能病院における「キャリア自律」を推進し相互に支援する組織づくりに向けて —「人を育てる」から「人が育つ」ことへの取り組み—	松田 美智代	野地 有子
継続教育・政策 管理学	がん患者の持つ力を見出し支援できる看護師の育成	清水 多嘉子	和住 淑子

Ⅲ. 研究

1. 教員の研究業績（領域別）

[看護病態学]

〈2019年1月～2019年3月〉

[学会発表抄録]

1. 小川 俊子, 西尾 淳子: 高齢療養者の眼脂中の細菌に関する現状調査 療養病床を有する病院及び介護老人福祉施設での抗菌薬使用歴・ケア調査と細菌検査, 日本環境感染学会総会プログラム・抄録集 34回, 703, 2019.
2. Amos Nyamadzwo, Shinobu Okada, Junko Nishio : Prevalence of nasal carriage of *Staphylococcus aureus* among nursing personnel at a tertiary teaching hospital in Zimbabwe. 22nd EAFONS. Singapore. Singapore.

〈2019年4月～2020年3月〉

[原著]

1. 魚田典宏*, 西尾淳子, 小川俊子, 岡田忍: 腸管処置を伴う開腹消化器手術における電気メスの細菌学的汚染状況, 日本環境感染学会誌, 34(2), 88-94, 2019

[研究報告（査読付き）]

2. 小川俊子: 介護拒否のある療養者に対する食用ゴマ油を用いた口腔清拭手法の確立と効果の評価. 平成29年度研究報告書第34回一般研究奨励事業, 公益財団法人総合健康推進財団, 2019

[学会発表抄録]

3. 高橋美咲**: 急性期病院における清拭方法, 工夫および清拭に用いるタオルに関する看護師の評価に関する聞き取り調査. 千葉看第25回学術集会講演集, 35, 2019
4. 岡田忍, 小池潤: 漢方の講義・演習に対する学生の反応と臨地実習における活用状況. 千葉看第25回学術集会講演集, 42, 2019
5. 小川 俊子, 西尾 淳子: 介護に嫌悪を示す療養者に対する食用ゴマ油を用いた口腔清拭手法の効果の評価. 老年歯科医学 34(2), 239, 2019
6. Khudazi Aulawi***, Junko Nishio, Shinobu Okada: Relationship Between Nurses' Hand Hygiene Compliance and Their Nasal Carriage of *Staphylococcus Aureus*. 3rd International Joint Conference on Nursing Science and International Conference Postgraduate Symposium Conference Postgraduate Symposium, , Yogyakarta, Indonesia, 2019

* : 2019年9月博士後期課程修了

** : 2020年3月博士前期課程修了

*** : 2018年9月博士後期課程修了

[小児看護学]

〈2019年1月～2019年3月〉

[学会発表抄録]

1. Miho Hashimoto: Literature review of characteristic eating behaviors of school-aged children with food allergies and their parents' efforts, and the roles of nurses. 22nd EAFONS, Singapore.
2. Katsuhiko Hiratsuka*, Nobue Nakamura, Naho Sato : Process of Parents' Handing Over of Medical Care Responsibility to Adolescents and Young Adults Surviving Biliary Atresia: The Meaning of the Possibility of Living Donor Liver Transplant. 22nd EAFONS, Singapore.
*2019年3月博士後期課程修了

〈2019年4月～2020年3月〉

[原著]

1. Aya Nakai, Nobue Nakamura: Observed Progression of Parents' Understanding of Preterm Infants' Behavioral Signs at 33 to 35 Weeks Corrected Age. *Advances in Neonatal Care*. 2020 Jan 27. doi:10.1097/ANC.0000000000000700
2. 下野純平* : 脳性麻痺発症のリスクが高い早産児の父親役割遂行に向けた父親の調整過程. 千葉看会誌, 25(1), 57 - 65, 2019.
3. 中水流彩 : 先天性心疾患手術を受ける幼児の主体的なレディネス発達を促進する看護援助の考案. 千葉看会誌, 25(2), 1 - 11, 2020.

[研究報告 (査読付き)]

4. 出野慶子, 高山充, 河上智香, 天野里奈, 中村伸枝, 金丸友 : インスリンポンプを使用している小学生の学校生活の現状. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 23(1), 18 - 24, 2019.
https://doi.org/10.24616/jaden.23.1_18
5. 中村伸枝, 仲井あや, 出野慶子, 金丸友, 谷洋江, 薬師神裕子, 高橋弥生 : 1型糖尿病をもつ年少児の糖尿病セルフケアに向けた親のかかわり尺度の開発. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 23(1), 100 - 107, 2019. https://doi.org/10.24616/jaden.23.1_100

[学会発表抄録]

6. Aya Nakai : Enriched family-enhanced care for protecting brainstem maturation, a review. The Council of the Neonatal Nurses Conference 2019, New Zealand.
7. 丸山志帆**, 佐藤奈保, 中村伸枝 : 先天性心疾患をもつ学童の学校生活と他者との関わりに関する子どもと保護者の認識. 第66回日本小児保健協会学術集会講演集, 214, 2019.
8. 出野慶子, 高山充, 天野里奈, 中村伸枝, 金丸友 : インスリンポンプを使用している幼児の園生活状況と就学における課題. 第66回日本小児保健協会学術集会講演集, 192, 2019.
9. 厚美彰子, 橋本美穂, 古屋千晶, 池田浩美, 伊藤龍子 : 看護系大学における小児看護学実習前のPBLに基づいたシミュレーション教育導入の検討(第1報). 第66回日本小児保健協会学術集会講演集, 182, 2019.
10. 中水流彩 : 先天性心疾患手術を受ける幼児の主体的なレディネス発達を促進する学習材の考案. 第55回日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集, 2019.
<https://confit.atlas.jp/guide/event/jspccs55/subject/II-TRO02-02/detail>
11. 中村伸枝, 雨宮歩, 中島由紀子, 仲井あや, 下屋聡平, 出野慶子, 金丸友 : インスリンポンプを使用する小児の皮膚トラブルと要因 : 秋・冬季と夏季の比較から. 第25回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム抄録集, 33, 2019.

12. 仲井あや, 横山奈緒実, 吉村由美香, 金丸友: 家庭の浴室における小児の溺水防止に向けた事故発生要因の検討. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 154, 2019.
13. 酒井佳織, 中村伸枝, 佐藤奈保: NICU を退院した早産児をもつ親の子どもの成長発達の捉え - 出生から幼児期前期までに焦点を当てて -. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 119, 2019.
14. 丸山志帆**, 佐藤奈保, 中村伸枝: 先天性心疾患をもつ学童の学校生活と他者との関わり. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 73, 2019.
15. 湯口梓**, 佐藤奈保, 中村伸枝: 食物アレルギーを持つ学童のセルフケアの実際 - 低学年と高学年の比較から -. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 80, 2019.
16. 市川春香**, 佐藤奈保, 中村伸枝: 新たな医療的ケアを導入する重症心身障がい児の母親の在宅継続における生活調整. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 88, 2019.
17. 平塚克洋*, 中村伸枝, 佐藤奈保: 自己肝にて生存する胆道閉鎖症患者が療養生活を整えていくプロセス - 思春期・青年期に焦点を当てて -. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 206, 2019.
18. 下野純平*, 中村伸枝, 佐藤奈保: 脳性麻痺発症のリスクが高い早産児の父親役割遂行に向けた両親の調整過程の概念枠組みの作成. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 243, 2019.
19. 金丸友, 伊藤千穂, 中村伸枝, 出野慶子: 総合病院小児病棟に勤務する看護師の 1 型糖尿病の子どもと家族に対する診療時の看護. 第 24 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集, 99, 2019.
20. 雨宮歩, 中村伸枝, 中島由紀子, 仲井あや, 下屋聡平: CSII (持続皮下インスリン注入ポンプ療法) 実施中の小児における穿刺部位の皮膚バリア機能と細菌数の関連. 第 24 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集, 101, 2019.
21. 下野純平*, 中村伸枝, 佐藤奈保: 脳性麻痺発症のリスクが高い早産児の父親役割遂行に向けた両親の調整過程を支援する看護職の行動指標の作成第 39 回日看科会学術集会抄録集, 2019.
<https://confit.atlas.jp/guide/event/jans39/advanced?query=%E4%B8%8B%E9%87%8E%E7%B4%94%E5%B9%B3&searchType=subject>
22. Kaori Sakai, Nobue Nakamura, Naho Sato: Parents' perceptions of preterm infants' motor development after discharge from the NICU: From birth to 4 years. 23rd EAFONS, Thailand.
23. 酒井佳織, 中村伸枝, 佐藤奈保: NICU を退院した早産児をもつ親の成長発達の捉えと対処-出生から乳児期前期までに焦点を当てて. 第 44 回千葉県小児保健協会総会・学術集会プログラム, 1, 2019.
24. 清水祐美, 仲井あや, 中村伸枝: 発達上の課題がある子どもとクラスメイトの「育ち合い」を支える保育士による支援. 第 44 回千葉県小児保健協会総会・学術集会プログラム, 2, 2019.
25. 湯口梓**, 佐藤奈保, 中村伸枝: 食物アレルギーをもつ学童のセルフケアの実際と養育者の関わりに関する質的研究 - 学童期の発達段階に焦点を当てた分析と考察 -. 第 44 回千葉県小児保健協会総会・学術集会プログラム, 1, 2019.
26. Junpei Shimono*, Nobue Nakamura, Naho Sato: Developing an Evaluation Index for the Adjustment Process for Playing the Father's Role for Preterm Infants with High Risk of Developing Cerebral Palsy. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
* 2019 年 3 月博士後期課程修了
** 2019 年 3 月博士前期課程修了

[シンポジウム・招聘講演]

27. [会長講演] 中村伸枝: 身体から生活・人生をみる～成長していく子どもたちが教えてくれたこと～. 第 24 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集, 47, 2019.

[報告書]

28. 中村伸枝: 小児・思春期における糖尿病セルフケアの看護指針・評価指標の作成. 平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業 (基盤研究 C) 研究成果報告書, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

29. 中村伸枝：1型糖尿病を持つ児とその家族へのライフサイクル全般を通じた支援。こどもと家族のケア, 14(5), 8 - 12, 2019.

〔成人看護学〕

<2019年1月～3月>

〔原著〕

1. 佐野元洋, 岡田将, 永田絵里香, 眞嶋朋子, 小林欣夫: 訪問看護師を対象とした在宅心不全看護セミナーの評価と内容の改善, 医療職の能力開発, 6 (2), 71-76, 2019.

〔学会発表抄録〕

2. 岡本明美, 宮津珠恵, 田中優子, 小林成光, 眞嶋朋子: がん診療連携拠点病院のジェネリストナーズによる患者への就労支援の現状 病棟・外来・化学療法室・看護相談室における調査. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 225, 2019.
3. 荒井房子, 眞嶋朋子: 外来治療を受ける乳がん患者の子育てと治療継続中の体験. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 230, 2019.
4. 高須清子, 眞嶋朋子: 化学療法の副作用により脱水となり緊急入院となった大腸癌患者のセルフケアに関する看護支援. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 236, 2019.
5. 細矢美紀, 眞嶋朋子: 終末期がん患者の病棟看護師による退院支援質評価指標の開発(その1) 指標原案の作成と洗練. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 258, 2019.
6. 細矢美紀, 眞嶋朋子: 終末期がん患者の病棟看護師による退院支援質評価指標の開発(その2) 指標の適用可能性の検討. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 258, 2019.
7. Hideyuki Tsuruzoe, Mariko Masujima, Tomoko Ono*: Post-Surgical Employment Experiences of Cancer Patients with Permanent Gastrointestinal Stoma Construction by Miles Surgery. 22ndEAFONS, Singapore.
8. Naomi Matsuyama, Mariko Masujima: Meaningful way of life for patients with hematopoietic malignancies at the end-of-life, focusing on the middle-age of patients. 22ndEAFONS, Singapore.
9. 松山直美, 楠潤子, 増島麻里子: エンドオブライフ期にある造血器腫瘍患者の生き方の志向. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 153, 2019.
10. 齊藤 太樹, 渡邊 美和**、増島 麻里子: 苦悩から考える治療期にある AYA 世代がん患者の自立を支える看護. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 195, 2019.
11. 水流添秀行, 増島麻里子, 小野智子*: 永久的消化管ストーマを造設したがん患者の就労に関わる体験. 第33回日本がん看護学会学術集会学術集会講演集, 158, 2019.
12. 井沢知子, 高橋由美子, 鏡朋子, 増島麻里子, 奥朋子, 熊谷靖代: 「あなたの病院ではリンパ浮腫指導管理料、取ってますか?」～がん患者のリンパ浮腫発症を未然に防ぐために一般病棟の看護師に求められる患者指導を普及させる戦略～. 第33回日本がん看護学会学術集会講演集, 286, 2019.
13. 田中京子, 増島麻里子, 長澤昌子, 橋口周子, 神津三佳, 高屋敷麻理子, 水野俊美, 徳岡良恵, 倉持雅代, 中島和子, 入江佳子: 「超高齢社会のがん看護」～その人らしい意思決定の支援を考える～2019年度テーマ: 高齢がん患者の終末期への移行にまつわる意思決定を支えるケア. 第34回日本がん看護学会学術集会講演集, 296, 2019.

14. 増島麻里子, 土屋雅子, 森美紀, 高橋都, 加藤友康, 池田俊一, 清水千佳子, 木下貴之, 椎野翔, 鈴木牧子: 乳がん・婦人科がん術後患者におけるリンパ浮腫予防のセルフケアに関する知識調査, 第3回日本リンパ浮腫学会総会抄録集, 47, 2019.
15. 秋田新介, 吉田憲司, 大村眞朗, 本田瑤季, 山路佳久, 増島麻里子, 山口匡, 三川信之: 超音波を用いた下肢リンパ浮腫の評価; A preliminary study. 第3回日本リンパ浮腫学会総会抄録集, 23, 2019.
16. Mariko Masujima, Miwa Watanabe⁵⁾, Miyuki Ishibashi, Naho Sato, Takeshi Umezawa : Assessing the usability of a web-based advance care planning education tool for adults: a pilot study, The 7th advance care planning international(ACP-i) conference, 12, 2019.
17. Miwa Watanabe⁵⁾, Mariko Masujima : Changes in End-of-life Discussion between Patients with Advanced Cancer and their Family Members after Implementation of the Nursing Program, The 7th advance care planning international(ACP-i) conference, 59, 2019.
* 2019年3月まで本研究科特任研究員
**2019年3月まで本研究科教員

〔シンポジウム・招聘講演〕

18. 小林成光: 事例検討, がん暮らしの相談事業全国フォーラム 2019 in 東京, がん暮らしを考える会, 2019.

〔報告書〕

19. 増島麻里子, 酒井郁子, 石橋みゆき, 飯田貴映子, 池崎澄江, 石丸美奈, 佐藤奈保, 辻村真由子, 渡邊美和, 高橋在也, 井出成美, 藤沼康樹, 石川崇広, 小林美亜, 黒岩眞吾, 梅澤猛, 大武美保子, 秋田典子, 関谷昇, 川瀬貴之, 磯野史朗, 田口奈津子, 雨宮歩, 関根裕子: 千葉大学グローバルプロミネント研究基幹リーディング育成プログラム 超高齢社会における市民-専門職連携型エンドオブライフケア教育研究拠点報告書. 2019年3月.
20. 佐野元洋, 眞嶋朋子, 岡田将: 訪問看護を導入している慢性心不全患者と訪問看護の実態, 平成30年度循環器疾患看護研究助成研究業績報告集, 1-9, 2019.

<2019年4月~2020年3月>

〔原著〕

1. Mika Kozu, Mariko Masujima, Tomoko Majima : Experience of Japanese pregnant women with cancer in decision-making regarding cancer treatment and obstetric care. Jpn J Nurs Sci, 2019 Oct 16. doi: 10.1111/iins.12300, 2019.
2. Jeannine M. Brant, Regina M. Fink, Cara Thompson, Ya Huei Li, Maryam Rassouli, Tomoko Majima, Tomoko Otsuka 他: Global Survey of the Roles, Satisfaction, and Barriers of Home Health Care Nurses on the Provision of Palliative Care, J Palliat Med, 22(8), 945-960, 2019.
3. Majima T, Yamamoto T, Sakai I, Ikezaki S, Nagasaka I: Job satisfaction and related factors of nurses in university hospitals: Focusing on collaborative competency factors. J Nurs Manag, 2019 Oct ; 27(7) ; 1409-1415. doi: 10.1111/jonm.12822.

〔研究報告(査読付き)〕

4. 小林成光, 池原弘展, 友滝愛, 賢見卓也: 仕事とお金の個別相談に参加したがん患者とその家族が抱える経済的な悩み: テキストマイニングによる相談内容の分析. Palliative Care Research, 14(2), 139-144, 2019.
5. 佐野元洋, 秋葉七美, 広兼妙子, 網信子, 循環器専門病院におけるコメディカルスタッフの一次救命処置, 急変対応に関する現状ニーズ, 日本臨床救急医学会誌, 22(6), 817-822, 2019.

〔学会発表抄録〕

6. 大塚知子, 舘祥平, 野崎章子, 石井伊都子, 滝口裕一, 眞嶋朋子: がん性疼痛管理における医師・看護師・薬剤師の潜在的障壁に関する意識調査. *Palliative Care Research*, 14 (suppl.), S307, 2019.
7. 橋爪由樹, 増島麻里子, 小西美ゆき: 終末期がん患者とその家族が行ったエンドオブライフに向けた対話のテーマ. 第 39 回日看科会学術集会講演集, 143, 2019.
8. 小森直美, 伴佳子, 小林成光: 重症者支援ネットワークを活用した機能強化型訪問看護教育プログラムの開発. 第 39 回日看科会学術集会講演集, 83, 2019.
9. Masamitsu Kobayashi, Izumi Sezai, Takako Ishikawa: Psychological and educational support for return to work in cancer patients: a systematic review. 23rdEAFONS, Thailand.
10. 佐野元洋, 眞嶋朋子: 訪問看護を導入している心不全患者の実態: 第 16 回日本循環器看護学会学術集会プログラム・抄録集, 69, 2019.
11. 須田有美*, 楠潤子, 眞嶋朋子: 終末期がん患者のせん妄状況における看護師が捉えたチーム活動. 第 34 回日本がん看護学会学術集会, 東京.
* 2019 年 3 月博士前期課程修了
12. T. Tsuji, Y.Kumagai, M.Masujima, Y.Kimata, J.Maegawa, K.Takashima, I.Yoshizawa, H.Yagata, K.Tsugawa, K.Utsugi, H.Watari, Y.Yamamoto, K.Kondo, D.Sugihara, T.Oku, H.Tajiri, Y.Ogawa, H.Iwata, H.Sasaki, K.Kitamura: Promotion of lymphedema treatment in Japan: Education and training activities for lymphedema therapists, MASCC/ISOO 2019 Annual Meeting, San Francisco.

〔シンポジウム・招聘講演〕

13. Mariko Masujima: [Keynote Address] Interdisciplinary palliative care research, The Development of a web based End-of-Life care education tool for the elderly. All Ireland Institute of Hospice and Palliative Care 主催, All Ireland Seminar on Designing and Developing Technologies for Palliative Care, Dublin.
14. 増島 麻里子, 土屋 雅子, 武居 昌宏, 下村 義弘, 秋田 新介: 4 リンパ浮腫を早期発見するための予防指導における研究の展望と課題. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, デジタル抄録, 2019.
15. 東辻朝彦, 岡田将, 遠藤里佳, 藤澤陽子, 田口奈津子, 岩崎春江, 佐野元洋, 眞嶋朋子, 小林欣夫: 循環器疾患における緩和ケアの展望(メディカルスタッフ・チーム) 心不全 ACP 外来におけるプロトコルの開発と実践, 第 67 回日本心臓病学会学術集会抄録, S16-5, 2019.
16. 小林成光: 事例検討, がんと暮らしの相談事業全国フォーラム 2020 in 兵庫, がん暮らしを考える会, 2020.
17. 佐野元洋: 心不全患者の在宅生活継続を支える地域連携促進ツールの開発: 第 16 回日本循環器看護学会学術集会プログラム・抄録集, 61, 2019.

〔単行書〕

18. Tomoko MAJIMA, Tomoko Otsuka: Palliative Nursing in Japan: Practice and Research, Palliative care New development medical research. Michel Silbermann (Editor), *Palliative Care*. 2nd edition, NOVA, 305-316, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

19. 石橋みゆき, 増島麻里子 (監修・執筆): 患者さんと家族の“生きる”を支援するエンドオブライフケア. *ナーシング・キャンパス*, 7(9), 8-32, 2019.
20. 増島麻里子: エンドオブライフケアに関する用語を整理しよう, 1 エンドオブライフケアの概念, 2 エンドオブライフケアにおいて患者さんの意向を尊重するために. *Nursing Canvas* (2187-6622) 7(9), 9-14, 2019.

21. 増島麻里子 : 【在宅でがん患者を看取る-体調の変化の「ちょっと先」を予測し、備えよ】がん終末期にある在宅療養者へのケア 患者・家族と、何をどう話すか、訪問看護と介護, 24 (8), 562-565, 2019.
22. 東辻朝彦 : 【患者さんと家族の"生きる"を支援する エンドオブライフケア】事例からエンドオブライフケアについて考えよう 救急搬送後、家族が意思決定を行う事例, Nursing Canvas (2187-6622)7 (9), 21-25, 2019.
23. 東辻朝彦 : 事例と Q&A で解き明かす"心不全看護"のこんな時どうする?】事例編 心不全の終末期, 呼吸・循環・脳実践ケア 41 (1), 2-8, 2019.
24. 東辻朝彦 : 【事例と Q&A で解き明かす"心不全看護"のこんな時どうする?】Q&A 編 動脈圧・肺動脈圧・右心房圧を同時にモニタリングする場合に、どのような表示設定が妥当でしょうか?, 呼吸・循環・脳実践ケア 41 (1), 31-34, 2019.
25. Masamitsu Kobayashi, Jun Kako, Kohei Kajiwara, Yasufumi Oosono, Noto Hiroko : Comment on: "Predicting return to work among patients with colorectal cancer.". *British Journal of Surgery*, 107 (3), 318, 2020.
26. Masamitsu Kobayashi, Jun Kako, Kohei Kajiwara, Yasufumi Oosono, Noto Hiroko : Response to Levy et al., End of Life Dreams and Visions and Posttraumatic Growth: A Comparison Study. *Journal of Palliative Medicine*, 23 (3), 312, 2020.
27. Masamitsu Kobayashi, Jun Kako, Kohei Kajiwara, Yasufumi Oosono, Noto Hiroko : Response to: YouTube Videos as a Source of Palliative Care Education: A Review. *J Palliat Med.*, 2019 Dec ; 22(12) : 1495. doi:10.1089/jpm.2019.0396.

[受賞 (国内・国外)]

28. Motohiro Sano, Tomoko MAJIMA : Self-management of congestive heart failure among elderly men in Japan. *International Journal of Nursing Practice*, WILEY : Top Downloaded Article 2017-2018 paper has been recognized as a top 20 most read paper. 2019 June

[老人看護学]

〈2019年1月～2019年3月〉

[研究報告 (査読付き)]

1. 石橋みゆき, 雨宮有子, 伊藤隆子, 樋口キエ子, 丸谷美紀 : 退院支援看護師による退院支援システム構築の様相. 千大看紀要 41, 1-11, 2019.
2. 林 弥江, 正木 治恵, 桑田 美代子, 吉岡 佐知子, 西山 みどり, 石井 優香, 坂井 さゆり : 高齢者の臨死期における看取りケア—熟練看護師のナラティブから—. 千大看紀要, 41, 25 - 34, 2019.
3. 山崎由利亜, 正木治恵, 高橋良幸*, 小池潤, 銭淑君, 田中愛, 瀧澤文雄 : 看護学習者の身体観—看護基礎教育課程の学生と博士課程の学生へのインタビューから. 千大看紀要, 41, 45 - 55, 2019.

[学会発表抄録]

4. Nagata Ayako, Kawanishi Chiemi, Nagaya Yasuyuki: Lower limb lymphedema after gynecological cancer in adolescents and young adults: A literature review. 22nd EAFONS, Singapore.

〔シンポジウム・招聘講演〕

7. 石橋みゆき：看護教育のあるべき形．第5回 TOHO いえラボフォーラム，東京，2019.

〔報告書〕

6. 田中裕二，佐藤奈保，石橋みゆき，岡田忍：広報渉外委員会報告「健やかに老いる」ための基礎知識—ロコモ・フレイル・サルコペニア—. 千大看紀要 41, 109-110, 2019.
7. 正木治恵：高齢者ケアの継続・連携に関する質指標開発とシステム構築（課題番号 15H02584），平成 27～30 年度科学研究費（基盤研究（A））研究成果報告書，2019.

〔受賞（国内・国外）〕

8. 佐久間... 葵：第7回 ちばぎん学生版ビジネスアイデアコンテスト 奨励賞 「認知症フレンドリーな社会を作る！～世代間交流型・移動型店舗～」，2019年2月18日受賞（国内）

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. 清水なつ美，石橋みゆき，高橋良幸*，正木治恵：高齢者とその家族が在宅で腹膜透析を継続するために折り合いをつけている様相．千葉看会誌，25（1），29-36，2019.
2. 齋藤多恵子**，石橋みゆき，山下裕紀，正木治恵：急性期病院の認知症高齢者の退院支援過程において退院支援専任看護師が行う倫理的意思決定支援．千葉看会誌，25（1），47-56，2019.
3. 近藤... 絵美，山崎 由利亜，正木 治恵：内科一般病棟における豊かな存在としての高齢者のあり様が内包された看護実践．千葉看会誌 25（1），9-18，2019.
4. 山村岳央***，高橋良幸*，石橋みゆき，正木治恵：中等度慢性閉塞性肺疾患を有する人々の症状悪化予防と治療に関する生活調整．千葉看会誌，25（1），99-106，2019.
5. 大原裕子，河井伸子，黒田久美子，坂本明子，石井優香，正木治恵：高齢者ケアの継続に向けた急性期病院看護師のコーディネート機能（第1報：看護師の視点から）．日看科会誌，39，202-201，2019.
6. Miyake N. , Shibukawa S. , Masaki H. , Otake-Matsuura M. : User-Oriented Design of Active Monitoring Bedside Agent for Older Adults to Prevent Falls, Journal of Intelligent and Robotic Systems, 2019.
7. 青木美智子，高橋良幸，黒田久美子，正木治恵：自律神経障害を有する糖尿病患者が自分らしく生きるプロセスを支える外来看護援助ガイドの開発．日本糖尿病教育・看護学会、23(1)：115-127，2019.
8. Umeda E., Shimizu Y., Uchiumi K., Murakado N., Kuroda K., Masaki H., Seto N., Ishii H. : Characteristics of Diabetes Self-Care Agency in Japan Based on Statistical Cluster Analysis. SAGE Open Nursing. 6: 1-9, 2020. Doi/10.1177/2377960820902970

〔学会発表抄録〕

9. Aoi Sakuma, Yuria Yamasaki, Harue Masaki : Dignity of the elderly people in Japanese nursing: A concept analysis . 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/ Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics 2019, Taipei, Taiwan
10. 佐々木ちひろ，石橋みゆき，高橋良幸*，大原裕子，正木治恵：急性期病院のプライマリナースが行う退院支援に関わる看護援助：日本老年看護学会第24回学術集会 抄録集，172，2019.
11. 深澤... 友里，山崎 由利亜，山下 裕紀，正木 治恵：介護老人福祉施設に入所している認知症と慢性心不全を共に有する高齢者のセルフケアオレムのセルフケア理論を活用してー．日本老年看護学会第24回学術集会抄録集，132，2019.

12. 正木治恵, 大原裕子, 黒田久美子, 河井伸子, 坂本明子:「チーム医療を促進する看護師のコーディネート機能」実践ガイドの開発ー高齢者ケアの継続・連携に向けてー. 老年看護学会第 24 回学術集会, 2019.
13. 石橋みゆき, 雨宮有子, 伊藤隆子, 樋口キエ子, 林弥生, 吉田千文, 諏訪部高江, 平野和恵, 木暮みどり, 丸谷美紀, 神谷明美:療養の場の移行支援構築に向けた退院支援に係る看護技術の体系化. 第 24 回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 145, 2019.
14. Yuka Ishii, Yuri Fukazawa, Yuichi Osawa**, Yukie Toriumi, Harue Masaki: Literature Review: The Experiences of Hospitalization from Perspective of People with Dementia. 9th Hong Kong International Nursing Forum, China.
15. 石丸美奈, 坂井文乃, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 宮崎美砂子, 飯野理恵, 諏訪さゆり: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成ー看護実践能力向上を目指してー. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 153, 2019.
16. 鈴木悟子, 石丸美奈, 坂井文及, 宮崎美砂子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成ー状況設定の内容妥当性の検討ー. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 154, 2019.
17. 中村瑞希****, 石橋みゆき, 正木治恵: 独居の高齢糖尿病患者が療養生活を継続できる要因. 千葉看護第 25 回学術集会講演集, 40, 2019.
18. 小柳貴子, 深作千恵, 大原裕子: 地域中核病院と周辺地域の医療関係者が認識している「エンドオブライフケアを実践するうえでの課題」. 日本エンドオブライフケア学会第 3 回学術集会, 2019.
19. 石井彩, 堀江 篤也, 金塚 東: 1 型糖尿病患者におけるインスリン同一部位注射による腹部硬結の存在と HbA1c および空腹時血糖日差変動幅の関連. 糖尿病, 62 (Suppl. 1), S-215, 2019.
20. 石井彩, 鈴木 貴史, 五藤 良将, 石塚 俊治, 堀江 篤也, 金塚 東: インスリンボールへの注射が血糖コントロール不良の原因と考えられた 2 症例. 糖尿病, 62 (7), 450, 2019.
21. 石井彩, 青木美智子: 在宅自己注射を行う高齢糖尿病患者に対する外来看護師と訪問看護師の情報共有の取り組み 2 例. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 23 (特別号), 123, 2019.
22. 石橋みゆき, 森本悦子, 小山裕子: 中山間地域の一般病院に通院する後期高齢がん患者への療養支援における専門職連携の取組と課題ー複合的な外来看護支援モデル開発に向けてー. 日本ルーラルナースング学会第 14 回学術集会抄録集 65, 2019.
23. 永田亜希子, 石丸美奈, 坂上明子, 辻村真由子, 飯野理恵, 石橋みゆき, 佐藤奈保, 眞嶋朋子, 島村敦子: 領域横断型・積み上げ式・ディープ・アクティブラーニング地域包括ケア教材開発ー動画教材作成ー. 第 39 回日看科会学術集会講演集, PA-21-11, 2019.
24. 野村陽子, 石橋みゆき, 小山田恭子, 池田真理, 田中幸子, 巴山玉蓮: 看護基礎教育における“政策コンピテンシー”の明確化. 第 39 回日看科会学術集会講演集, O2-05, 2019.
25. 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵, 宮崎美砂子: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成ーシナリオの内容的妥当性の検討ー. 第 39 回日看科会学術集会講演集, O47-03, 2019.
26. 森本悦子, 石橋みゆき, 小山裕子: 地域密着型の一般病院に通院する後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデルの開発. 第 34 回日本がん看護学会学術集会プログラム集, P43-373, 2020.
27. Miyuki Ishibashi: Continuity nursing care between hospitals and community strategies focusing on health and long-term care for older people (Session for Knowledge Development and Practice by WANS members organization: Japan Academy of Community Health Nursing). The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
28. Huiching Yang, Harue Masaki: Providing comfort care in decision making for terminally ill older adult patients in the ICU: Assessing content and face validity of a nursing practical guide. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.

29. Yingjie Cai*, Harue MASAKI: Interventions of supportive care for women with breast cancer: A literature review. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
30. Yuri Fukazawa, Yuria Yamasaki, Yuki Yamashita, Harue Masaki: Dependence-support for self-care of older people with dementia and chronic heart failure in nursing homes. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
31. Ayako Nagata, Harue Masaki: Developing a Scale Evaluating End-of-Life Care in a Nursing Home in Japan: Face Validity Testing. The 6th International Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
32. Natsumi Shimizu, Ayako Nagata, Harue Masaki: Mastery of adapting to daily life in older patients. The 6th International Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.

[シンポジウム・招聘講演]

33. 正木治恵: 合同シンポジウム「高齢者の地域生活における権利擁護を考える」、高齢者の看護と倫理「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」日本老年看護学会の立場表明 2016. 第31回日本老年学会総会, 2019.
34. 正木治恵, 阿保順子: 理事会企画②身体拘束を行わない看護実践のために本会ができること. 日本精神保健看護学会第29回学術集会, 2019.
35. 正木治恵: 高齢社会における看護の貢献. 中華看護学会第22回高齢者看護学術交流会, 2019. 6. 27-29 中国(杭州).
36. 正木治恵: AI(人工知能)時代の看護の備えー超高齢社会に対応して. 大連医科大学, 2019. 10. 19, 中国(大連).
37. 石橋みゆき: 千葉大学経済人倶楽部・絆 主催公開講座 (第2回) 健やかに老いるために知っておきたいロコモ・フレイル・サルコペニア, 2020.
38. 石橋みゆき: 高齢がん患者看護の課題とがんプロ教育. 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン<包括的ライフステージサポート医療人養成コース>関東がん専門医療人養成拠点「明日の高齢者がん医療を考えるシンポジウム」, 2020.

[報告書]

39. Harue Masaki: Final report”People’s Republic of China: Development of Geriatric Nursing Policy Principles and Training Program in Liaoning Province”. Asian Development Bank, 2019.
40. 黒田久美子、清水安子、内海香子、銭淑君、正木治恵: 認知機能低下が生じた高齢インスリン療法患者・家族への援助指針、JSPS 科研費助成報告書、1-18、2020.
41. 栗田圭一、柏木一恵、佐古真紀恵、新田怜小、椎名貴恵、近藤康寛、山田悠佳、畠山啓、正木治恵、石川容子、枝広あや子: 認知症疾患医療センターの相談室で実施されている診断後支援、認知症疾患医療センターの質の管理及び地域連携の在り方に関する調査研究事業報告書 2019、令和元年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業、263-272、2020年3月.
42. 増島麻里子、酒井郁子、石橋みゆき、飯田貴映子、池崎澄江、石丸美奈、佐藤奈保、辻村真由子、渡邊美和、高橋在也、井出成美、藤沼康樹、石川嵩宏、小林美亜、黒岩眞吾、梅澤猛、大武美保子、秋田典子、関谷昇、川瀬貴之、磯野史朗、田口奈津子、雨宮歩、関根祐子: 超高齢化社会における市民・専門職連携型エンドオブライフケア教育研究拠点(Centre of Excellence for End-of-Life Care:Cooperation with the public and professionals in an aging society)報告書, 2019.

[単行書]

43. 正木治恵: 森淑江, 山田智恵里, 正木治恵編: 看護学テキスト NiCE 国際看護, 第II章 看護と文化, 28-33, 南江堂, 2019.

44. 正木治恵：深堀浩樹，酒井郁子，戸村ひかり，山川みやえ編：認知症 plus 退院支援 一般病棟ナーースのための Q&A, Q43 認知症の人の安心と安全を保障する倫理的配慮とは何ですか？, 100-101, 日本看護協会出版会, 2019.
45. 正木治恵：序章 1 慢性疾患と看護, 2 慢性疾患をもつ人のセルフケア, 3 慢性疾患看護の援助技術, 5 身体機能の障害に応じた看護方法. 正木治恵, 井上泰 編著. 慢性疾患をもつ人の看護 (第 1 巻) 慢性疾患看護と疾病論, 医歯薬出版,1-18, 21-25, 2020.
46. 石橋みゆき：序章 4 慢性疾患看護における移行支援とチーム医療/チームケア. 正木治恵, 井上泰 編著. 慢性疾患をもつ人の看護 (第 1 巻) 慢性疾患看護と疾病論, 医歯薬出版株式会社,18-21, 2020.
47. 正木治恵,真田弘美編：看護学テキスト NiCE 老年看護学概論(改訂第 3 版), 正木治恵, 第 I 章 老年看護学を理解するための基盤, 第 4 節 高齢者の権利擁護. 55-56, 第 II 章 老年看護の理念と目標, 第 1 節 老年看護の理念と目標. 62-63, 第 III 章 老年看護の対象となる人々の特徴, 第 1 節 対象特性. 66-72, 第 5 章「健やかに老い,安らかに永眠する」を支える看護, 第 1 節 老いること、死ぬことの意味と備え. 172-177, 第 2 節「豊かな生」の創出・支援. 178-185, 第 XI 章 老年看護学の課題, 第 1 節 保健医療福祉制度の変革の中で変化する老年看護の役割. 358-362, 第 4 節 老年看護学研究の発展. 374-375, 南江堂, 2020.
48. 正木治恵,真田弘美編：看護学テキスト NiCE 老年看護学概論(改訂第 3 版), 石橋みゆき, 第七章 高齢者の療養生活の支援, 第 5 節 地域連携における退院時の看護. 237-241, 南江堂, 2020.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

49. 正木治恵：10 周年記念企画：鼎談「文化看護学会の 10 年とこれから」. 文化看護学会誌, 11(1) : 81-82, 2019.
 50. 酒井郁子, 金森琢也, 山川みやえ, 深堀浩樹, 石川容子, 森山祐美, 正木治恵, 亀井智子, 北川公子: 老年看護政策検討委員会活動報告 外来診療における認知症患者に対する看護師の役割に関する展望. 老年看護学, 24(1) : 87-91, 2019.
 51. 大原裕子：事例で学ぶ看護過程 (第 3 回) 2 型糖尿病による合併症. Nursing Canvas, 7(6), 45-73. 2019.
 52. 大原裕子：糖尿病と私 節目の数字 人があってこそ価値づく 15. 糖尿病ケア, 16(5), 385, 2019.
 53. 石橋みゆき, 増島満里子監修・執筆：患者さんと家族の“生きる”を支援するエンドオブライフケア. Nursing Canvas, 7(9), 8-32. 2019.
 54. 石橋みゆき：特集 平成を振り返る 平成における看護教育の振り返り—大学における看護教育の変遷を中心に— 病院設備, 61 (4), 44-49, 2019.
 55. 石橋みゆき：退院支援の現場を歩く vol. 6「退院支援を主テーマに掲げる研究者」を訪ねる. あいらいふ 2019 年 8 月号, 16-19, 2019.
 56. 石橋みゆき：特集 老年看護の専門家が考える「老人ホームの本当の実力を知る着眼点」. あいらいふ 2020 年 3 月号, 16-19, 2020.
- *2018 年 3 月まで本研究科教員
**2018 年 3 月博士前期課程修了
***2018 年 3 月看護学部看護学科卒業
****2019 年 3 月看護学部看護学科卒業

〔生体看護学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. Yuji L. Tanaka, Yume Sasaki[†], Ayumi Amemiya, Hisayoshi Sugawara, Ryutaro Kase: Physiological effects of two types of sitting positions on the brain and autonomic nerve activities. The Journal of Physiological Sciences, 69(Supplement 1): S140, 2019.
[†]2018年3月看護学部卒業
2. Ryutaro Kase, Yuji L. Tanaka, Hisayoshi Sugawara, Erina Matsushima*, Masatoshi Komiyama, Ayumi Amemiya: Relationship between dehydration and amount of drinking water before shifts: a preliminary study. The Journal of Physiological Sciences, 69(Supplement 1): S272, 2019.
*2019年3月博士前期課程修了
3. 實石達也, 廣野誠一郎, 山本達也, 北城敬子, 小宮山政敏, 岩立康男, 山口 淳: 背側と腹側の視覚伝導路を連絡する神経伝導路の白質解剖. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 188, 2019.
4. 坂本 昇, 小宮山政敏, 宮宗秀伸, 菅田陽太, 森 千里, 清水栄司, 松野義晴: 解剖見学後のアンケートから導かれたパラメディカル専門分野による人体構造への関心部位の違い—有効な解剖学指導を目指して. 第124回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 212, 2019.

〔単行書〕

5. 田中裕二: 第1部 急性期看護概論, 2. 急性の状態にある患者の身体的・心理的反応, B. 患者が体験する侵襲. 林直子, 佐藤まゆみ (編), 看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護 I—概論・周手術期看護. 改訂第3版, 南江堂 (東京), 7-14, 2019.
6. 田中裕二: 第1部 急性期看護概論, 2. 急性の状態にある患者の身体的・心理的反応, C. ショック. 林直子, 佐藤まゆみ (編), 看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護 I—概論・周手術期看護. 改訂第3版, 南江堂 (東京), 14-17, 2019.
〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕
7. 田中裕二, 佐藤奈保, 石橋みゆき, 岡田 忍: [広報渉外委員会報告]「健やかに老いる」ための基礎知識—ロコモ・フレイル・サルコペニア—, 千大看紀要, 41, 109-110, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. Ayumi Amemiya, Mizuki Aoki, Yukie Tahara: Relationship between in-shoe external forces and step length in young healthy subjects. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
2. Erina Matsushima*, Ayumi Amemiya, Ryutaro Kase, Keiko Saito, Toshio Tsuyuguchi, Yuji L. Tanaka, Masatoshi Komiyama: Quantitative index of bowel preparation for colonoscopy using stool color. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
3. Yukie Tahara, Ayumi Amemiya, Ryutaro Kase, Yuka Kitagawa, Sadahisa Ogasawara, Yoshihiko Ooka, Naoya Kato, Masatoshi Komiyama: Skin conditions worsen following tyrosine kinase inhibitor treatment: a case report of two patients. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
4. Chikoto Suzuki, Hastoro Dwinantoaji, Ryutaro Kase, Mami Nojima, Maki Nakajima, Noyuri Yamaj: Exchange meeting of graduate students: Sharing information about various research

- field and collaboration in doctoral nursing research. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
5. 田中裕二：フランスの意識障害患者に対するケア技術の検討ー神経病院とリハビリテーション病院の比較. 日本看護技術学会第 18 回学術集会講演抄録集, 115, 2019.
 6. 雨宮 歩, 中村伸枝, 中島由紀子, 仲井あや, 下屋聡平, 西尾淳子, 岡田 忍：CSII（持続皮下インスリン注入ポンプ療法）実施中の小児における穿刺部の皮膚バリア機能と細菌数の関連. 第 24 回日本糖尿病教育・看護学会 学術集会, 6, 2019.
 7. 雨宮 歩, 原田秋子^{††}, 加瀬竜太郎, 菅原久純：静電容量センサによる点滴等自己抜去防止システムの開発. 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 21, 2019.
 8. 松島絵里奈*, 雨宮 歩, 加瀬竜太郎, 齋藤景子, 露口利夫, 田中裕二, 小宮山政敏：大腸内視鏡検査における色による前処置判定の検討. 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 30, 2019.
 9. 田原由紀恵, 雨宮 歩, 加瀬竜太郎, 田中裕二, 小宮山政敏：足底に手足皮膚症候群（Hand-foot skin reaction）が発生した肝臓がん患者の外力に着目した検討. 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 35, 2019.
 10. 加瀬竜太郎, 田中裕二, 菅原久純, 齊藤大介, 大内 明, 松島絵里奈*, 萬 弘子, 雨宮 歩：経験年数の違いによる看護師における勤務後の脱水状態と関連要因の検討. 第 7 回看護理工学会学術集会, 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 38, 2019.
 11. 菅原久純, 雨宮 歩, 加瀬竜太郎, 田中裕二, 小宮山政敏：異なる睡眠段階で行う体位変換が生体に与える影響. 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 42, 2019.
 12. 松村彩^{††}, 加瀬竜太郎, 雨宮 歩：素材別インナーキャップを使用した医療用ウィッグの暑熱感の検証. 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 22, 2019.
 13. 菅原久純, 海野歩実^{††}, 雨宮 歩, 田中裕二, 小宮山政敏：健常成人におけるチェンブランクットの使用が睡眠に与える効果と最適な重量の検討. 日本睡眠学会第 44 回定期学術集会プログラム・抄録集, 280, 2019.
 14. 酒井郁子, 雨宮 歩, 小松...亮, 桜庭唱子, 石川崇広, 磯野史朗：非接触非侵襲型モニタによる特別養護老人ホーム入所者の体調の長期的把握方法の検討 体重変化に焦点を当てたモニタリング方法の評価. 日本老年看護学会第 24 回学術集会, P-197 , 2019.
 15. 中村伸枝, 雨宮 歩, 中島由紀子, 仲井あや, 下屋聡平, 出野慶子, 金丸友：インスリンポンプを使用する小児の皮膚トラブルと要因：秋・冬季と夏季の比較から. 第 25 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会, OR1-4, 2019.
 16. 佐竹真結菜^{††}, 田中裕二：好みの音楽による聴覚刺激が生理反応および心理反応に及ぼす影響. 日本看護研究学会第 45 回学術集会講演集, 252, 2019.
 17. 加瀬竜太郎, 田中裕二, 菅原久純, 齊藤大介, 大内 明, 松島絵里奈*, 萬 弘子, 雨宮 歩：看護師における脱水状態と関連要因の検討. 第 23 回日本看護管理学会学術集会プログラム・予稿集, O31-2, 2019 年 8 月 24 日（新潟）.
 18. 菊池可南子[†], 菅原久純, 楊 貴, 雨宮 歩：新人看護師を示すマークが患者の身体に及ぼす影響. 第 23 回日本看護管理学会学術集会プログラム・予稿集, P7-1, 2019 年 8 月 24 日（新潟）.
 19. 山田悦子, 田中裕二, 茂野香おる：熱布バックケアが自律神経活動に及ぼす影響. 日本看護技術学会第 18 回学術集会講演抄録集, 59, 2019.
 20. 菅原久純, 雨宮 歩, 田中裕二, 小宮山政敏：褥瘡予防のための姿勢変化の定量評価指標の検討. 千葉看第 25 回学術集会講演集, 44, 2019.
 21. Ikuko Sakai, Shiro Isono, Takahiro Ishikawa, Ayumi Amemiya, Ryo Komatsu, Syoko Sakuraba : Development of a bed sensor system for detecting changes in physical condition of residents of long-term care facilities. 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019, 2019.

22. 松島絵里奈*, 雨宮 歩, 加瀬竜太郎, 田中裕二, 小宮山政敏: 大腸内視鏡検査における屈折率による前処置完了判定の検討. 第 39 回日看科学学術集会講演集. PB-29-14, 2019 年 12 月 1 日 (金沢).
23. 木村八恵^{††}, 菅原久純, 雨宮 歩, 田中裕二, 小宮山政敏: 褥瘡予防のための姿勢変化量の検討. 第 39 回日看科会学術集会講演集. PC-32-10, 2019 年 12 月 1 日 (金沢).
24. 青木美月^{††}, 田原裕希恵, 雨宮 歩: 健常者の靴着用時における歩行速度が足底部にかかる外力に及ぼす影響. 第 39 回日看科会学術集会講演集. PC-36-06, 2019 年 12 月 1 日 (金沢).
25. 實石達也, 菅田陽太, 森 千里, 山口 淳, 小宮山政敏: 反転解剖を用いた前腕の皮神経の定量化. 第 125 回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 2020. (3/25-3/27, 山口県宇部市)
 - *2019 年 3 月博士前期課程修了
 - †2018 年 3 月看護学部卒業
 - ††2019 年 3 月看護学部卒業

[シンポジウム・招聘講演]

26. 雨宮 歩: 学会企画Ⅲ「若手研究者による看護理工学の取り組み」. 第 7 回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 2019.
27. 野口博史, 雨宮 歩: MEMS 3 軸力センサの看護応用としての糖尿病患者における歩行時に足底にかかる力の計測. 第 58 回日本生体医工学会大会. 2019 年 6 月 6 日-8 日 (沖縄).

[総説・短報・実践報告・資料・その他]

28. 雨宮 歩, 磯野 史朗, 酒井 郁子: 在床状態見守りシステム. 特許公開 2019-051097.
29. 雨宮 歩, 菅原久純, 加瀬竜太郎, 酒井郁子, 山下仁: 接近検知システムおよび接近検知方法. 特許出願 2019-011892.

[受賞 (国内・国外)]

30. 雨宮歩, 原田秋子^{††}, 加瀬竜太郎, 菅原久純: 第 7 回看護理工学会学術集会 研究奨励賞 (国内)
 - ††2019 年 3 月看護学部卒業

[リプロダクティブヘルス看護学]

〈2019 年 1 月～2019 年 3 月〉

[原著]

1. 前原邦江, 森恵美, 岩田裕子, 坂上明子*, 玉腰浩司: 高年初産婦に特化した産後 1 か月までの子育て支援ガイドラインの有用性の評価. 母性衛生, 59 (4), 842-852, 2019.
 - *2018 年 3 月まで本研究科教員
2. 森恵美, 前原邦江, 岩田裕子, 坂上明子*: 高年初産婦の産後 4 か月における子育て生活体験. 日本母性看護学会誌, 19 (1), 23-30, 2019.
 - *2018 年 3 月まで本研究科教員
3. 稲桂**, 森恵美, 坂上明子*: 初産婦による仕事復帰後のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた心理社会的・実践的準備. 母性衛生, 59(4), 745-753, 2019.
 - * 2018 年 3 月まで本研究科教員
 - **2018 年 3 月まで本研究科研究員

4. 木村佳代子, 森恵美, 坂上明子*: 後期早産児出産後の初産婦における母親役割獲得過程. 日本母性看護学会誌, 19(1), 31-38, 2019. .
*2018年3月まで本研究科教員

〔研究報告（査読付き）〕

5. 岩田裕子, 森恵美, 前原邦江, 小坂麻衣*, 木村佳代子: 超高齢妊産婦への支援と多職種連携に関する保健医療専門職の認識: 自由記述の内容分析. 千大看紀要, 41, 35-44, 2019.
*2019年3月まで本研究科教員
6. 青木恭子*, 森恵美, 坂上明子*, 前原邦江, 岩田裕子: 「高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン」の現場適用における困難と対処. 日本母性看護学会誌, 19(1), 47-55, 2019.
*2018年3月まで本研究科教員
7. 遠藤俊子, 上澤悦子, 長坂桂子, 佐藤陽子, 松原まなみ, 成田伸, 工藤美子, 町浦美智子, 森恵美: [研究報告] 専門看護師（母性看護 CNS）の施設での活用実態と教育機関のかかえる課題. 日本母性看護学会誌, 19(1), 31-38, 2019.

〔学会発表抄録〕

8. Maehara K, Mori E, Iwata H, Saito A**, Kosaka M***, Kimura K, Sakajo A*: Interprofessional collaboration in perinatal care for women of very advanced maternal age: A nationwide survey in Japan. The 22nd EAFONS, Singapore.
*2018年3月まで本研究科教員
**2019年3月まで本研究科特任研究員
***2019年3月まで本研究科教員

〔受賞（国内・国外）〕

9. The 22nd EAFONS Poster award competition 第3位（国外）, (Maehara K, Mori E, Iwata H, Saito A**, Kosaka M***, Kimura K, Sakajo A*: Interprofessional collaboration in perinatal care for women of very advanced maternal age: A nationwide survey in Japan. The 22nd EAFONS, Singapore.)
*2018年3月まで本研究科教員
**2019年3月まで本研究科特任研究員
***2019年3月まで本研究科教員

〈2019年4月～2020年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. 上原朋子, 森恵美, 小坂麻衣*: 35歳以上で第二子を出産した女性が夫に望む産後一年間のサポート. 第37回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, 4, 2019.
*2019年3月まで本研究科教員
2. 叶雅子, 森恵美, 小坂麻衣*: 助産師が行う第一子を迎える夫婦に向けた夫婦関係への支援. 第37回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, 4, 2019.
*2019年3月まで本研究科教員
3. Mori E, Maehara K, Iwata H, Kimura K, Kosaka M***, Saito A****, Ina K**, Sakajo A*: Development of web-based parenting education program to promote parental adaptation in older expectant primiparous women and their partners. The 14th International Family Nursing Conference, USA.
*2018年3月まで本研究科教員

**2018年3月まで本研究科特任研究員

***2019年3月まで本研究科研究員

****2019年3月まで本研究科特任研究員

4. 前原邦江, 坂上明子*, 岩田裕子, 森恵美: 高度生殖医療を受けた妊娠初期の女性の不妊・治療経験の想起を促す看護方法の検討.第17回日本生殖看護学会学術集会プログラム・講演集, 40, 2019.
*2018年3月まで本研究科教員
5. 宮崎智絵*, 森恵美, 岩田裕子: 無痛分娩を選択した産婦へ実践している分娩期のケア.第60回日本母性衛生学会総会・学術集会抄録集(母性衛生 60巻 3号), 306, 2019.
*2019年3月博士前期課程修了
6. Iwata H, Mori E, Maehara K, Harada N, Saito A*: Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asia: a quantitative systematic review. The 23rd EAFONS, Thailand.
*2019年3月まで本研究科特任研究員
7. Mori E, Maehara K, Kosaka M***, Iwata H, Saito A**, Kimura K, Sakajo A*: Physicians' experiences in interprofessional collaboration during the pregnancy, childbirth, and postnatal period in women of very advanced maternal age (≥ 45). The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Japan.
*2018年3月まで本研究科教員
**2019年3月まで本研究科特任研究員
***2019年3月まで本研究科教員

[シンポジウム・招聘講演]

8. 森恵美: 教育講演 超高齢出産・育児を多職種で支える. 第17回日本生殖看護学会, 2019.
9. 森恵美: 招聘講演 高齢妊産婦に寄り添った支援. 令和元年度松戸市乳児家庭全戸訪問従事者研修会, 2019.
10. 森恵美: 招聘講演 高齢初産婦に対する支援の在り方 令和元年度浦安市母子保健担当者研修会、2020.

[総説・短報・実践報告・資料・その他]

11. Mori E, Iwata H, Maehara K, Sakajo A*, Ina K**, Harada N: Effectiveness of parenting education for expectant primiparous women in Asian countries: a quantitative systematic review protocol. JBI Database of Systematic Reviews and Implementation Reports,2019 17(6): 1034-1042,2019.
*2018年3月まで本研究科教員
**2018年3月まで本研究科研究員
12. Maehara K, Iwata H, Kosaka M*, Kimura K, Mori E: Experiences of transition to motherhood among pregnant women following assisted reproductive technology: a systematic review protocol of qualitative evidence. JBI Evidence Synthesis,2020 18(1), 74-80, 2020.
*2019年3月まで本研究科教員

[受賞(国内・国外)]

13. The 14th International Family Nursing Conference Poster award competition 第3位(国外), (Mori E, Maehara K, Iwata H, Kimura K, Kosaka M*, Ina K***, Sakajo A** : Development of web-based parenting education program to promote parental adaptation in older expectant primiparous women and their partners. The 14th International Family Nursing Conference, USA.)
*2019年3月まで本研究科教員
**2018年3月まで本研究科教員

***2018年3月まで本研究科特任研究員

14. 第17回日本生殖看護学会学術集会優秀賞(国内), (前原邦江, 坂上明子*, 岩田裕子, 森恵美: 高度生殖医療を受けた妊娠初期の女性の不妊・治療経験の想起を促す看護方法の検討. 第17回日本生殖看護学会学術集会プログラム・講演集, 40, 2019.)

*2018年3月まで本研究科教員

15. 日本母性看護学会第13回学術論文賞(国内), (遠山房絵, 森恵美, 坂上明子*: 第2子誕生を迎える第1子のレディネスを高めるための親役割行動. 日本母性看護学会誌, 18(1), 9-16, 2018.)

*2018年3月まで本研究科教員

16. 令和元年度日本母性衛生学会学術論文賞(国内), (前原邦江, 森恵美, 岩田裕子, 坂上明子*, 玉腰浩司: 高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドラインの有用性の評価. 母性衛生, 59(4), 842-852, 2019.)

*2018年3月まで本研究科教員

〔健康管理看護学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. Kieko Iida, Sumie Ikezaki, Mayuko Tsujimura: End-of-Life care competency for Nurses Working in Long-term care facilities: A Delphi study in Japan. 22nd EAFONS, Singapore.

〔シンポジウム・招聘講演〕

2. 池崎澄江: 趣旨説明. 第4回エンドオブライフケア国際シンポジウム 高齢者施設のエンドオブライフケアにおける看護職のコンピテンシー End-of-life Care Competency for Nurses Working in Long-Term Care Facilities (東京), 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. Fujita J, Fukui S, Ikezaki S, Tsujimura M: Evaluation of the elements of interprofessional education for end-of-life care among homecare nurses, care managers, and head care workers: A cluster-randomized controlled trial. J Interprof Care.1-8, 2019.
2. Fukui S, Fujita J, Ikezaki S, Nakatani E, Tsujimura M: Effect of a multidisciplinary end-of-life educational intervention on health and social care professionals: A cluster randomized controlled trial. PLoS One. 2019 Aug 19;14(8):e0219589
3. Majima T, Yamamoto T, Sakai I, Ikezaki S, Nagasaka I: Job satisfaction and related factors of nurses in university hospitals: Focusing on collaborative competency factors. J Nurs Manag. 27(7), 1409-1415, 2019.

〔研究報告(査読付き)〕

4. 路璐, 北池正, 池崎澄江: 千葉県内の病院における看護研究の支援状況の実態と課題. 日本看護研究学会雑誌, 42(2), 241-248, 2019.
5. 路璐, 北池正, 池崎澄江: 中国の中堅看護師における専門職的自律性と看護研究活動との関連. 日本看護研究学会雑誌, 42(5), 871-879, 2019.

〔学会発表抄録〕

6. 池崎澄江, 辻村真由子, 飯田貴映子: 高齢者施設で働く看護職に求められるエンドオブライフケアコンピテンシー デルファイ報調査第1報 研究職と実践職との相違. 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 188, 2019.
7. 飯田貴映子, 池崎澄江, 辻村真由子: 高齢者施設で働く看護職に求められるエンドオブライフケアコンピテンシー デルファイ報調査第2報 現任教育における難易度の検討. 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 189, 2019.
8. 路璐, 北池正, 池崎澄江: 病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの開発, 日本看護研究学会第45回学術集会講演集, 42 (3), 425, 2019.
9. 姫野雄太: 周術期外来における看護師の役割認識. 千葉看第25回学術集會集録, 29, 2019.
10. Kieko Iida, Sumie Ikezaki, Mayuko Tsujimura, Sunghee H Tak, Woonseon Jung, Siriphan Sasat, and Wasinee Wisersith : Developing an end-of-life care competency framework for long-term care nurses in Asia: A comparative study in Japan, South Korea, and Thailand. IAGG(The International Association of Gerontology and Geriatrics) 11th Asia/Oceania Regional Congress(Taipei, Taiwan). 2019.
11. 池崎澄江, 石橋智昭, 高野龍昭: 特別養護老人ホームにおける看取りのための医療体制. 日本医療・病院管理学会誌 (日本医療・病院管理学会学術総会演題抄録集), 56 (Suppl.) 199, 2019.
12. 千葉宏毅, 池崎澄江, 伊藤道哉, 岡田美保子, 折井孝男, 加藤多津子, 根東義明, 相馬孝博, 前田光哉, 山下哲郎, 山本光昭, 伊藤弘人: 日本医療・病院管理学会重点用語事典の利用状況と改定の方向性 学会員対象アンケート調査より. 日本医療・病院管理学会誌, 56 (Suppl.), 237, 2019.
13. 池崎澄江, 酒井郁子, 谷本真理子, 黒河内仙奈: 特別養護老人ホームにおける「看取り介護指針・説明支援ツール」に基づく看取り介護の実施状況. 第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 100, 2019.
14. 路璐, 北池正, 池崎澄江: 病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの効果の検証. 第39回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 113, 2019.

〔シンポジウム・招聘講演〕

15. 北池正: 高齢者の健康管理—看護職のICT活用の方向性. 中華看護学会第22回全国高齢者看護学術交流会 (中国・杭州), 2019 (招聘講演).

〔精神看護学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. 鶴丸雅子, 森下典子, 小原泉, 谷口隆雄, 野崎章子, 後澤乃扶子, 笠井宏委, 吉村健一, 遠藤一司, 山本晴子, 楠岡英雄: 臨床研究コーディネーター (CRC) の熟達化の関連要因に関する質的研究. 日本臨床試験学会第10回学術集会総会, プログラム・抄録集 120, 1月25日 - 26日, 東京, 2019.
2. 井崎京子, 小早川里恵, 野崎章子: 日本の看護師のメンタルヘルスに関する文献研究: メンタルヘルスの現状と介入に焦点をあてて. 第38回日本社会精神医学会, 2月28日 - 3月1日, 東京, 2019.

〔報告書〕

3. 野地有子, 溝部昌子, 近藤麻理, 小寺さやか, 野崎章子, 相原綾子, 炭谷大輔, 米田礼, 10年後を見据えたグローバル人材育成・国際交流の推進 コンテンツ報告書 Vol.3, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践指導センター, 2019.
4. 野地有子, 野崎章子, 溝部昌子, 飯島佐知子, 近藤麻理, 小寺さやか, 炭谷大輔, 米田礼, 科研事業中間報告書 FY2017-2018 国際シンポジウム・セミナー, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

5. 井崎京子, 小早川里絵, 野崎章子: 日本の看護師のメンタルヘルスに関する文献研究-メンタルヘルスの現状と介入に焦点を当てて. 日本社会精神医学会誌, 28(3), 314, 2019.
6. 野地有子, 野崎章子, Bankar A, 福田淳子, 炭谷大輔, 大島紀子, 米田礼: メディカルツーリズムのトレンドと看護教育の主要課題, 千大看紀要, 41, 67-73, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. 小原泉, 野崎章子, 吉村健一, 森下典子, 鶴丸雅子, 谷口隆雄, 遠藤一司, 後澤乃扶子, 笠井宏委, 山本晴子, 楠岡英雄: 臨床研究コーディネーターの熟達度評価尺度の開発. 臨床薬理, 50(5), 221-227, 2019.
2. Marutani T, Chhim S, Nishio A, Nosaki A, Fuse-Nagase Y: (2020) Quality of life and its social determinants for patients with schizophrenia and family caregivers in Cambodia. PLOS ONE 15(3):e0229643. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0229643>

〔学会発表抄録〕

3. Noji A, Nosaki A, Kondo M, Iijima S, Kotera S, et al.: The current situation and problems of nursing care in hospitals caring for international patients in Japan - To make a policy recommendation from the viewpoint of nursing administration. ICN Congress 2019 Singapore, 27 June - 1 July 2019.
4. Nosaki A, Moriuchi K, Kohara I: Describing the Characteristics and Scope of Nursing Practice in the Psychiatric Department of Special Functioning Hospitals in Japan - Research Protocol. 19th WPA World Congress of Psychiatry, Lisbon, 21-24, August. 2019.
5. 野崎章子, 森内加奈恵: 特定機能病院精神科病棟の特性-業務報告書およびウェブサイトに関するレビュー. 第32回日本総合病院精神医学会総会, 岡山, 11月16-17日, 2019.
6. 森内香奈恵, 野崎章子: 特定機能病院精神科病棟における心理社会的介入プログラム作成の取り組み. 第32回日本総合病院精神医学会総会, 岡山, 11月16-17日, 2019.
7. 野崎章子, 森内加奈恵, 小原泉: 特定機能病院精神科病棟における看護実践状況に関する横断的研究. 第39回日本看護科学学会学術集会, 石川, 11月30日-12月1日, 2019.
8. 野地有子, 野崎章子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子: 看護職の多文化対応能力研修ベーシックコースの開発と評価 第1報 研修コース開発のプロセスと構造. 第39回日本看護科学学会学術集会, 石川, 11月30日～12月1日, 2019.
9. 大塚知子, 舘祥平, 野崎章子, 石井伊都子, 滝口裕一, 眞嶋朋子: がん性疼痛管理における医師・看護師・薬剤師の潜在的障壁に関する意識調査. 第24回日本緩和医療学会学術集会, 神奈川, 6月21日～6月22日, 2019.
10. 大塚知子, 舘祥平, 野崎章子, 眞嶋朋子: 看護師のがん性疼痛管理の満足度に影響する要因の検討. 第39回日本看護科学学会学術集会, 石川, 11月30日～12月1日, 2019.
11. Noji A, Kondo M, Kotera S, Iijima S, Mizobe A, Nosaki A, Matsuoka H, Hamasaki Y, Sumitani D, Aihara A: Study on Evaluating a Cultural Competence Training Program in Japan. The 6th

〔単行書〕

12. 野崎章子：第7章 精神障害をもつ人への看護 III 事例で学ぶ：精神疾患／障害を持つ子どもへの看護 A 自閉症スペクトラム障害. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 312-317, 2019.
13. 野崎章子：第7章 精神障害をもつ人への看護 III 事例で学ぶ：精神疾患／障害を持つ子どもへの看護 B 注意欠如・多動性障害. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 318-323, 2019.
14. 野崎章子：第7章 精神障害をもつ人への看護 III 事例で学ぶ：精神疾患／障害を持つ子どもへの看護 C 強迫性障害. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 324-329, 2019.
15. 野崎章子：第7章 精神障害をもつ人への看護 III 事例で学ぶ：精神疾患／障害を持つ子どもへの看護 D 神経性やせ症摂食制限型. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 329-332, 2019.
16. 野崎章子：第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 I 地域生活の再構築と社会参加 A 日本における精神障害者へのケアシステムと支援に関する法制度. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 352-359, 2019.
17. 野崎章子：第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 I 地域生活の再構築と社会参加 B 地域生活への移行と生活支援(衣食住と医職住). 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 359-364, 2019.
18. 野崎章子：第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 I 地域生活の再構築と社会参加 C 社会参加への支援. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 364-367, 2019.
19. 野崎章子：第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 I 地域生活の再構築と社会参加 D 当事者の力を生かす相互支援. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 367-369, 2019.
20. 野崎章子：第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 I 地域生活の再構築と社会参加 E 誰もが暮らしやすい地域づくり. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 370-372, 2019.
21. 野崎章子：第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 II 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 B 多職種連携による地域生活支援. 岩崎弥生, 渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護. 第5版, メヂカルフレンド社, 377-381, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

22. 青木勉, 手林佳正, 野崎章子, 丸谷俊之, 篠原慶朗, 青木利江子, 宮本圭, 窪田彰：カンボジアのメンタルヘルス支援—カンボジアにおける地域精神保健包括ケア活動モデル作り. こころと文化, 18(2), 152-160, 2019.
23. 野崎章子：カンボジア現地スタッフへの教育的支援活動と経験に関する考察—精神看護・異文化看護の視点より. こころと文化, 18(2), 161-168, 2019.

〔地域看護学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔原著〕

1. 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討(第1報)ー発達障害児の親の自然災害への備えの実情ー, 千葉看護学会誌, 24(2), 31-41, 2019.
2. 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子: 災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討(第2報)ー発達障害児の親の地域社会生活におけるレジリエンスー, 千葉看護学会誌, 24(2), 43-53, 2019.
3. 姫野雄太, 石丸美奈, 飯野理恵, 宮崎美砂子: 別居の娘による親に対する介護の内容, 千葉看護学会誌, 24(2), 55-63, 2019.

〔学会発表抄録〕

4. 荒木田美香子, 石丸美奈, 遠藤雅幸, 岡本玲子, 臺有 桂, 高橋勇太: ワークショップー日本に在住する外国人への健康支援を考えるー, 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会抄録集, 102, 2019.

〔報告書〕

5. 石丸美奈, 久保田健太郎: 地域活動における認知症の対応を学びあうシミュレーション学習教材ー千葉市民との協働による開発ー, 平成30年度千葉市・千葉大学共同研究成果報告書, 1-55, 2019.
6. 石丸美奈, 久保田健太郎: 地域活動における認知症への対応を学びあうシミュレーション学習教材ー千葉市民との協働による開発ー【概要版】, 平成30年度千葉市・千葉大学共同研究成果報告書, 1-6, 2019.

〔単行書〕

7. 石丸美奈: 第1章 発達段階の特性に応じた活動論, II 成人・高齢者保健福祉活動, 1.健康づくり活動, 2.生活習慣病予防活動, 最新公衆衛生看護学第3版(2019年版)各論1(宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 83-129, 2019
8. 佐藤 太一: 第1章 公衆衛生看護学概論 I 公衆衛生看護とは何か 4. 公衆衛生看護の活動目標 事例 1 生活保護を受ける親子の社会生活を豊かにするための保健師の取り組み, 最新公衆衛生看護学第3版(2019年版), 総論(宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 10, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

9. 高橋秀治, 前田純子, 押方秀樹他: 日之影町の地域別にみた住民の健診・医療受診状況及び生活習慣の状況ー国道・河川による地域分類からの分析ー.宮崎県立看護大学看護研究・研修センター事業年報, 8号, 10-19,2019.
10. 佐藤太一, 小柳淳, 藏田純子, 楠城香織, 櫻本万紀子, 山田万里, 藤巻嘉須美, 高橋郁美: 新宿区保健センターでの発達障害に関連する「ちょっと気になる」についての保護者向けパンフレットの有効性の評価. 日本公衆衛生雑誌, 66(12), 737-745, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. Sayuri Suwa, Mayuko Tsujimura, Hiroo Ide, Naonori Kodate, Mina Ishimaru, Atsuko Shimamura & Wenwei Yu: Home-care Professionals' Ethical Perceptions of the Development

〔学会発表抄録〕

2. 永田 亜希子, 石丸 美奈, 鈴木 悟子, 佐藤 太一, 坂井 文乃 : 地域活動における認知症への対応を学びあうシミュレーション学習教材の開発 , 日本看護学教育学会誌 29(学術集会講演集), 135 , 2019
3. 石丸美奈, 坂井文乃, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 宮崎美砂子, 飯野理恵, 諏訪さゆり : 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成—看護実践能力向上を目指して—, 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 153, 2019
4. 鈴木悟子, 石丸美奈, 坂井文乃, 宮崎美砂子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵 : 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成—状況設定の内容的妥当性の検討—, 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 154, 2019
5. 坂井文乃 : 育児の情報探索におけるヘルスリテラシーに関する文献検討, 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 157, 2019
6. 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子 : 発達障害児の親向け災害への備え促進プログラムの作成—親のレジリエンス向上による地域との繋がりづくりに着目して—, 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 198, 2019.
7. 佐藤 太一, 石丸 美奈, 鈴木 悟子 : 人材育成の観点から見た保健師が行う事例検討会の効果とその評価方法に関する文献検討. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 138, 2019.
8. 宮崎美砂子, 霜越多麻美, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 杉田由加里, 時田礼子, 佐藤太一 : 保健師の人材育成における On The Job Training—文献レビューからみたタイプ, 開発能力, 職場環境—, 日本地域看護学会学術集会講演集第 22 回, 142, 2019
9. 石丸美奈, 永田亜希子, 坂井文乃, 鈴木悟子, 佐藤太一, 辻村真由子, 諏訪さゆり : 地域活動における認知症への対応を学びあうシミュレーション学習教材の内容, 千葉看護学会第 25 回学術集会講演集, 31, 2019
10. 石田美由紀, 石丸美奈 : 地域包括支援センターに対する後方支援担当保健師の果たす役割, 千葉看護学会第 25 回学術集会講演集, 37, 2019
11. 瀬戸葵, 宮崎美砂子, 坂井文乃 : 震災後仮設住宅で暮らす独居高齢者の避難先でのコミュニティ形成におけるプロセス, 千葉看護学会第 25 回学術集会講演集, 33, 2019
12. 佐藤太一, 三宅智也, 原真澄, 豊田美由紀, 山村龍平, 石丸美奈 : 交流集会—若手保健師にとっての職場を超えた学び場の意義—相互に学びあうために必要な要素とは—, 千葉看護学会第 25 回学術集会講演集, 46, 2019
13. 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵, 宮崎美砂子 : 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成—シナリオの内容的妥当性の検討—, 第 39 回日本看護科学学会学術集会講演集, 535-536, 2019
14. 坂井文乃, 石丸美奈, 鈴木悟子, 永田亜希子, 佐藤太一, 久保田健太郎 : 地域活動における認知症への対応を学びあうシミュレーション学習教材の有用性の検証, 日本公衆衛生学会総会抄録集 78回, 452, 2019
15. 細谷紀子*, 石丸美奈, 宮崎美砂子 : 発達障害児の親に対する災害への備え促進プログラムの有効性検証—地域との繋がりづくりに対する質的影響の評価, 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 14, 2020.
16. 泰羅万純**, 石丸美奈, 鈴木悟子 : 新任保健師の支援対象者との関わりにおける困難経験の特徴, 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 171, 2020
17. Taichi Sato, Mina Ishimaru, Satoko Suzuki : Learning in case discussions for public health nurses: A case study. 23rd East Asian Forum Of Nursing Scholars Abstract book, 734, 2020.

18. 臺有桂, 遠藤雅幸, 高橋勇太, 石丸美奈, 岡本玲子, 荒木田美香子: ワークショップー日本で暮らす外国人の親子保健〜文化・コミュニケーションの壁をどう超えるかー, 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会, 104, 2020.
19. Mina Ishimaru, Seiko Iwase: Elements necessary for developing social resources related to health and welfare in the community: a literature review. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, Japan, 2020.
20. Seiko Iwase, Mina Ishimaru: Ethical issues encountered by municipal public health nurses during natural disasters: a qualitative analysis based on individual descriptions. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, Japan, 2020.
21. Shuji Takahashi, Mina Ishimaru: Literature review of content of social networks and social support related to health behavior of middle-aged men. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
*2019年度9月博士後期課程修了生
**2018年度博士前期課程修了生

[シンポジウム・招聘講演]

22. 久保田健太郎, 石丸美奈, 村井早苗, 大塚真理子: (都市部の取組み) 東千葉地域の和・輪・環の会の歩み, 地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム, 39, 2019.

[単行書]

23. 石丸美奈: 第1章 発達段階の特性に応じた活動論, II 成人・高齢者保健福祉活動, 1.健康づくり活動, 2.生活習慣病予防活動, 最新公衆衛生看護学第3版(2020年版)各論1(宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 83-129, 2020.
24. 佐藤 太一: 第1章 公衆衛生看護学概論 I 公衆衛生看護とは何か 4. 公衆衛生看護の活動目標 事例1 生活保護を受ける親子の社会生活を豊かにするための保健師の取り組み. 宮崎美砂子他(編) 最新公衆衛生看護学 第3版(2020年版), 総論(宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 10, 2020.

[総説・短報・実践報告・資料・その他]

25. 荒木田美香子, 石丸美奈, 遠藤雅幸, 岡本玲子, 臺有桂, 高橋勇太: 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップ報告ー日本に在住する外国人への健康支援を考えるー, 日本公衆衛生看護学会誌, 8(3), 189-191, 2019.
26. Kieko Iida, Mina Ishimaru, Mayuko Tsujimura, Ayumi Wakasugi :Experiences of advance care planning for community-dwelling older people—a qualitative systematic review protocol—. JBI Evidence Synthesis.2020 February 14;doi: 10.11124/JBISRIR-D-19-00129

[訪問看護学]

〈2019年1月～2019年3月〉

[原著]

1. 久長正美*, 諏訪さゆり, 辻村真由子: 介護付有料老人ホームに勤務する看護職者が入居者と家族への支援において重要視していること. 千葉看会誌, 24(2), 65-74, 2019.

〔学会発表抄録〕

2. Iida K, Ikezaki S, Tsujimura M: End-of-life care competency for nurses working in long-term care facilities: A Delphi study in Japan. 22nd EAFONS East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, Singapore, 2019.
3. Kodate N, Yumoto A, Sugiyama Y, Taneda K. How do frontline staff report, discuss and learn from incidents? The case of two hospitals in Japan. International Forum on Quality and Safety in Healthcare, Glasgow, United Kingdom, 2019.

〔シンポジウム・招聘講演〕

4. Tsujimura M: Current EOLC situation in Asian LTCFs and EOLC competency for nurses: Towards refining and education. End-of-Life Care (EOLC) Competency for Nurses Working in Long-Term Care Facilities (LTCFs). The 4th End-of-Life Care International Symposium, MARUBIRU HALL & Conference Squire, Tokyo, Japan, March 2019.

〔報告書〕

5. 増島麻里子, 酒井郁子, 石橋みゆき, 飯田貴映子, 池崎澄江, 石丸美奈, 佐藤奈保, 辻村真由子, 渡邊美和, 高橋在也, 井出成美, 藤沼康樹, 石川嵩宏, 小林美亜, 黒岩眞吾, 梅澤猛, 大武美保子, 秋田典子, 関谷昇, 川瀬貴之, 磯野史朗, 田口奈津子, 雨宮歩, 関根祐子: 超高齢化社会における市民-専門職連携型エンドオブライフケア教育研究拠点(Centre of Excellence for End-of-Life Care: Cooperation with the public and professionals in an aging society) 報告書, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

6. 佐伯恭子, 諏訪さゆり: 日本において認知症の人を対象に実施された介入研究の倫理的配慮の現状－原著論文に認められた倫理的配慮の分析から－. 千大看紀要, (41), 13-23, 2019.
7. 辻村真由子, 駒形朋子: 米国で開発された看護系大学教員育成チェックリストの日本での適用に向けた精練の試み. 千大看紀要, 41, 57-65, 2019.
8. 諏訪さゆり, 辻村真由子, Helli Kitinoja, 湯浅美千代: フィンランドの看護師とゲロノミの基礎教育における認知症看護・ケアの教育－セイナヨキ応用科学大学の先駆的な実践－. 千大看紀要, 41, 93-100, 2019.
9. 森實詩乃, 諏訪さゆり: 都市部においてがんの妻を看取った男性高齢者は生活を再構築していくプロセス. 千大看紀要, 41, 101-108, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. Suwa S, Yumoto A, Ueno M, Yamabe T, Hoshishiba Y, Sato M: Characteristics of care methods for daily life disabilities in Alzheimer's type dementia that respect autonomy and independence. Nursing Open, 6(3), 930-941, 2019. doi: 10.1002/nop2.283
2. Fujita J, Fukui S, Ikezaki S, Tsujimura M: Evaluation of the elements of interprofessional education for end-of-life care among homecare nurses, care managers, and head care workers: A cluster-randomized controlled trial, Journal of Interprofessional Care. 2019 Jul 22;1-8. doi: 10.1080/13561820.2019.1633291. [Epub ahead of print]
3. Fukui S, Fujita J, Ikezaki S, Nakatani E, Tsujimura M: Effect of a multidisciplinary end-of-life educational intervention on health and social care professionals: A cluster randomized

- controlled trial. PLoS One. 2019 Aug 19;14(8):e0219589. doi: 10.1371/journal.pone.0219589. eCollection 2019.
4. 犬山彩乃, 諏訪さゆり: 独居の認知症高齢者の在宅生活継続に影響する本人の要因. 千葉看会誌, 25(1), 7-46, 2019.
 5. 岩田尚子*, 諏訪さゆり: 外来看護師と訪問看護師が判断する外来化学療法を受ける高齢がん患者が訪問看護を導入する意義. 日本在宅ケア学会誌, 23(1), 74-82, 2019.
*2018年9月博士後期課程修了
 6. Yumoto A, Suwa S: Difficulties and associated coping methods regarding visual hallucinations caused by dementia with Lewy bodies. Dementia. 2019. DOI 10.1177/1471301219879541
 7. Iida K, Ishimaru M, Tsujimura M, Wakasugi A: Experiences of advance care planning for community-dwelling older people: a qualitative systematic review protocol. JBI Evidence Synthesis. 2020 February 14; doi: 10.11124/JBISRIR-D-19-00129
 8. Suwa S, Tsujimura M, Ide H, Kodate N, Ishimaru M, Shimamura A, Wenwei Yu: Home care professionals' ethical perceptions of the development and use of home-care robots for older adults in Japan. International Journal of Human-Computer Interaction. 2020. DOI:10.1080/10447318.2020.1736809

〔学会発表抄録〕

9. 辻村真由子, 諏訪さゆり, Helli Kitinoja, Jaakko Kontturi: 認知症者の生活障害へのケアフィンランドにおけるヒアリング調査. 第20回日本認知症ケア学会大会, 2019. 日本認知症ケア学会誌, 18(1), 178, 2019.
10. 山下由香, 高橋眞里奈, 諏訪さゆり: 認知機能障害のある高齢者の病みの軌跡の検討—排泄に焦点をあてて—. 第20回日本認知症ケア学会大会プログラム・抄録集, 18(1), 259, 2019.
11. 池崎澄江, 辻村真由子, 飯田貴映子: 高齢者施設で働く看護職に求められるエンドオブライフケアコンピテンシー—デルファイ法調査第1報 研究職と実践職の相違. 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 188, 2019.
12. 飯田貴映子, 池崎澄江, 辻村真由子: 高齢者施設で働く看護職に求められるエンドオブライフケアコンピテンシー—デルファイ法調査第2報 現任教育における難易度の検討. 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 189, 2019.
13. 湯本晶代, 諏訪さゆり: レビー小体型認知症療養者への支援における認知症ケアに精通した訪問看護師の困難, 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 167, 2019.
14. 岩田尚子*, 諏訪さゆり: 外来化学療法を受ける高齢がん患者と共に訪問看護の導入を検討するための指針の検証 「高齢がん患者に関する情報」に焦点を当てて. 日本老年看護学会第24回学術集会抄録集, 171, 2019.
*2018年9月博士後期課程修了
15. 岩田尚子*, 諏訪さゆり: 外来化学療法を受ける高齢がん患者と共に訪問看護の導入を検討するための指針の検証 「高齢がん患者へ訪問看護を導入する意義」に焦点を当てて. 第24回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 117, 2019.
*2018年9月博士後期課程修了
16. 上野まり, 諏訪さゆり: 復興期にある被災地でアウトリーチに携わる看護職のための行動指針 仮設住宅住民への支援活動準備時期に焦点を当てて. 第24回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 103, 2019.
17. 島村敦子, 諏訪さゆり, 仲畑圭悟, 兪文偉, 松島英介: 療養者とその自宅の生活環境を観察する熟練訪問看護師の注視順番の特徴 玄関からの退室場面に焦点を当てて. 第24回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 173, 2019.

18. 石丸美奈, 坂井文乃, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 宮崎美砂子, 飯野理恵, 諏訪さゆり: 当事者主体の社会資源創出に関する看護実践能力向上を目指したシナリオ学習教材の作成－看護実践能力向上を目指して－. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 153, 2019.
19. 鈴木悟子, 石丸美奈, 坂井文乃, 宮崎美砂子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成－内容的妥当性の検討－. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 154, 2019.
20. Ito R, Shimamura A, Amamiya Y, Tsujimura M, Kamei Y, Yoshida C, Ishigaki K, Fujita J, Matsuura S, Hishida K, Yoshida M: Ethical beliefs influencing the moral distress experienced in family care by Japanese Care Managers. 14th International Family Nursing Conference, Washington, DC, The United States of America, 2019.
21. 石丸美奈, 永田亜希子, 坂井文乃, 鈴木悟子, 佐藤太一, 辻村真由子, 諏訪さゆり: 地域活動における認知症への対応を学びあうシミュレーション学習教材の内容. 千葉看第 25 回学術集会集録, 31, 2019.
22. 湯浅美千代, 島田広美, 杉山智子, 諏訪さゆり, 辻村真由子, 永井優子: 看護基礎教育課程修了時に求められる一般病院での認知症看護実践能力の探索－フォーカスグループインタビューから－. 千葉看第 25 回学術集会集録, 36, 2019.
23. Kodate N, Donnelly S, Tsujimura M, Suwa S: Health and social care professionals' perceptions regarding home-care robots for older people in Ireland: A questionnaire study. 67th Annual and Scientific Meeting of the Irish Gerontological Society, Cork, Ireland, 2019. (Age and Aging, 48 (Supplement 3), iii2, 2019.)
24. Iida K, Ikezaki S, Tsujimura M, Tak SH, Jung W, Sasat S, Wisersith W: Developing an end-of-life care competency framework for long-term care nurses in Asia: A comparative study in Japan, South Korea and Thailand. 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress, Taipei, Taiwan. 2019.
25. 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵, 宮崎美砂子: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成－シナリオの内容的妥当性の検討－. 第 39 回日看科会学術集会講演集, 2019.
26. 永田亜希子, 石丸美奈, 坂上明子, 辻村真由子, 飯野理恵, 石橋みゆき, 佐藤奈保, 眞嶋朋子, 島村敦子: 領域横断型・積み上げ式・ディープアクティブラーニング地域包括ケア教材開発－動画教材作成－. 第 39 回日看科会学術集会講演集, 2019.
27. 岩田尚子*, 諏訪さゆり: 外来化学療法を受ける高齢がん患者へ訪問看護の導入を検討するための指針内容の重要性の検討. 第 39 回日看科会誌講演集, O19-01, 2019.
*2018 年 9 月博士後期課程修了
28. 吉本照子, 辻村真由子: 新人訪問看護師が事業所の一員として自律的に活動できるまでの学習過程と関連要因. 第 9 回日本在宅看護学会学術集会, 2019.
29. 辻村真由子, 吉本照子: A 県訪問看護ステーションの経営管理と人材育成に関する研修受講者の学びと継続学習ニーズ. 第 9 回日本在宅看護学会学術集会, 2019.
30. Uruma M, Tsujimura M, Suwa S, Yumoto A: Home palliative care by multidisciplinary team for older adults with terminal cancer in the United Kingdom. 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Abstract Book, 78, 2020.

[シンポジウム・招聘講演]

31. 諏訪さゆり: AI(人工知能)は超高齢社会の課題を救えるのか 超高齢社会でのケアの質向上に向けた AI への期待と課題. 日本老年医学会雑誌, 56(Suppl.), 11, 2019.
32. 諏訪さゆり: 終末期を生きる認知症の人の可能性とケア－生活障害のケアに焦点をあてて－. 日本認知症ケア学会 2019 年関東ブロック大会抄録集, 23, 2019.

33. Suwa S: Possibilities of home care robots in Japan. “Technology-supported Community Care in Japan and Ireland”, JSPS London UCD-Chiba Joint Seminar 2019, University College Dublin, Dublin, Ireland, September 2019
34. Yumoto A: Ageing society and community-based integrated care systems in Japan. “Technology-supported Community Care in Japan and Ireland”, JSPS London UCD-Chiba Joint Seminar 2019, University College Dublin, Dublin, Ireland, September 2019
35. Suwa S: Possibilities of home care robots in Japan. “Technology-supported Community Care in Japan and Ireland”, JSPS London UCD-Chiba Joint Seminar 2019, Tramore Coastguard Cultural Centre, Tramore, Co. Waterford, Ireland, September 2019
36. Yumoto A: Ageing society and community-based integrated care systems in Japan. “Technology-supported Community Care in Japan and Ireland”, JSPS London UCD-Chiba Joint Seminar 2019, Tramore Coastguard Cultural Centre, Tramore, Co. Waterford, Ireland, September 2019

〔単行書〕

37. 諏訪さゆり：「認知症の人が参加する研究の倫理」に関する提言—意思決定能力が低下した人を支援するために。日本臨床倫理学会「認知症の人が参加する研究の倫理」に関するワーキンググループ，へるす出版，2019.
38. 諏訪さゆり：1 倫理の原則と認知症高齢者のケアにおける倫理の課題。鈴木 みずえ（編）認知症 plus 転倒予防 せん妄・排泄障害を含めた包括的ケア。日本看護協会出版会，102-111，2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

39. 諏訪さゆり：終末期を生きる認知症の人の可能性と支援;医療と介護を再考する 終末期を生きる認知症の人の可能性とケア。日本認知症ケア学会誌，18(3)，629-638，2019.
40. 諏訪さゆり：地域包括ケアにおけるケアマネジメントの位置づけと今後の課題 見守りロボットの実証研究にかかわった経験から地域包括ケアにおけるケアマネジメントの課題を考える。日本在宅ケア学会誌，22(2)，37-41，2019.
41. 湯本晶代：【認知症高齢者に対する薬物療法と看護】DLB 高齢者の薬物療法と看護支援，臨床老年看護，26(4)，27-32，2019.
42. 諏訪さゆり，兪文偉：【日中における高齢者認知症の医療と介護】日本における認知症ケアの現状と課題，日中医学，34(4)，20-27，53-60，2020。※20-27 は日本語，53-60 は中国語です。

〔理論看護学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔原著〕

1. 飛世真理子，舟島なをみ，中山登志子：実習指導者の経験に関する研究—病院に就業する実習指導者に焦点を当てて—。看護教育学研究 28(1)，17-30，2019.

〔学会発表抄録〕

2. 橋内伸介，坂本史衣，田村富美子：VAE 患者群と臨床的 VAP 患者群の一致率に関する検討，第 34 回日本環境感染学会学術集会ワークショップ，2019.
3. 田中しのぶ，粕谷昌代，小山華子，橋内伸介，奥野史子，石渡真弓，田村富美子：A 病院 HCU における申し送り時間短縮化に向けた取り組みとその考察，第 46 回日本集中治療医学会学術集会 一般演題，2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. 山本利江:「看護覚え書」が受けとめた生命力と看護に対する考え方, ナイチンゲール研究学会抄録集, 1-6, 2019.
2. Shu Chun Chien, Toshie Yamamoto, Yuka Kanai*, Shinobu Saito, Yoshiko Wazumi .Impact of Lifestyle and Balance of Autonomic Nerves for Patients With Myoma of the Uterus. 45th Bienninal Convention of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing, WASHINGTON, DC, USA. 2019.
*2019年3月博士後期課程修了
3. Yoshiko Wazumi, Shinobu Saito, Toshie Yamamoto, Shu Chun Chien : Establishment of nursing discipline through analysis of change of the degree name in Japan. Nursing Education Research Conference, WASHINGTON, DC, USA. 2020.
4. 飛世真理子: 教育専従者として実習指導者に研究成果を用いて教育を提供した実際と今後の課題. 看護教育学研究, 28(2), 22-23, 2019.
5. 山崎圭祐, 佐藤かおり, 田中しのぶ, 橋内伸介, 田村富美子: 肺結核による人工呼吸器離脱困難患者の離脱に向けた取り組み～PICS に焦点をあてて～, 第46回日本集中治療医学会学術集会 一般演題, 2019.
6. 橋内伸介, 松本真由美, 安井陽子, 山本理恵, 脇川祐香, 小松崎朗子, 田村富美子: VAE (人工呼吸器関連事象) に関する知識向上に向けた学習会の効果, 第41回日本呼吸療法医学会学術集会 一般演題, 2019.

〔シンポジウム・招聘講演〕

7. 飛世真理子: 日本看護教育学学会シンポジウム「実践と研究の循環—質の高い看護・教育をめざして—」, 前橋文化会館, 2019.

〔看護教育学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔原著〕

1. 泉澤清枝, 中山登志子, 舟島なをみ: 学生が看護学実習指導の良否を決定づける基準の解明—病院に就業し実習指導に携わる看護師に着眼して—. 看護教育学研究, 28(1), 1-16, 2019.
2. 飛世真理子, 舟島なをみ, 中山登志子: 実習指導者の経験に関する研究—病院に就業する実習指導者に焦点を当てて—. 看護教育学研究, 28(1), 17-30, 2019.
3. 鹿島嘉佐音, 舟島なをみ, 中山登志子: 「職場の『働きやすさ』評価尺度—病院スタッフ看護師用—」の開発. 看護教育学研究, 28(1), 31-43, 2019.
4. 伊勢根尚美*, 舟島なをみ: 実習指導者が看護学実習中の学生による医療事故防止に向けて講じている対策. 看護教育学研究, 28(1), 57-70, 2019.

*2019年9月博士後期課程修了

〔学会発表抄録〕

5. Kentaro Watanabe, Toshiko Nakayama : "Teaching/learning material development method for continuing nursing education: A methodological review". 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) , Singapore, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. 中山登志子, 舟島なをみ : 「授業過程評価スケールー看護系大学院修士課程用ー」の開発. 千葉看会誌, 25(1), 67-75, 2019.
2. 南本ゆみ, 中山登志子, 舟島なをみ : 看護基礎教育機関を退学した学生の退学に至る経験. 看護教育学研究, 29(1), 11-24, 2020.
3. 佐藤栞, 中山登志子, 舟島なをみ : 手術看護に携わる看護師の学習ニーズの解明. 看護教育学研究, 29(1), 25-38, 2020.

〔学会発表抄録〕

4. Kasane Kashima, Naomi Funashima, Toshiko Nakayama : Identifying Staff Nurses' Perceptions of Work Environments in Japan. 30th International Nursing Research Congress, Calgary, Canada, 2019.
5. 山下暢子, 舟島なをみ, 松田安弘, 中山登志子 : 大学院修士課程に在籍し研究指導を受ける学生が知覚する教員の「良い研究指導」ー論文完成を旨とする学生の理解ー. 第50回日看会抄録(看護教育), 116, 2019.
6. 山下暢子, 舟島なをみ, 松田安弘, 中山登志子 : 大学院修士課程の学生が知覚する教員の「良くない研究指導」の解明ー学生と教員の健全な相互行為の展開に向けてー. 日看研誌, 42(3), 430, 2019.
7. 中山登志子, 舟島なをみ, 鹿島嘉佐音 : 新人看護師指導者のための医療安全行動自己評価尺度の開発. 日看研誌, 42(3), 424, 2019.
8. 南本ゆみ, 中山登志子, 舟島なをみ : 看護基礎教育機関を退学した学生の退学に至る経験の概念化. 看護教育学研究, 28(2), 8-9, 2019.
9. 佐藤栞, 中山登志子, 舟島なをみ : 手術看護に携わる看護師の学習ニーズの解明ー効果的な学習の促進に向けてー. 看護教育学研究, 28(2), 12-13, 2019.
10. 山下暢子, 舟島なをみ, 松田安弘, 中山登志子 : 大学院修士課程に在籍する学生が研究指導を評価する基準の解明. 第39回日看科会学術集会講演集, 155, 2019.
11. 鹿島嘉佐音, 中山登志子, 舟島なをみ : キャリア初期とキャリア中期にある看護師の職場の「働きやすさ」を決定づける基準の比較. 第39回日看科会学術集会講演集, 162-163, 2019.
12. 横山京子, 舟島なをみ, 中山登志子, 山下暢子 : 「教育ニーズアセスメントツールー小児看護に携わる看護師用ー」の開発. 第39回日看科会学術集会講演集, 595, 2019.
13. Shiori Sato, Toshiko Nakayama : Current Status of Research on Supporting Self-Directed Learning. 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) , Chiang Mai, Thailand, 2020.

〔シンポジウム・招聘講演〕

14. 中山登志子 : 【シンポジウム】修士課程の『研究指導』の改善に向けた研究成果の活用と看護卒後教育研究への着手. シンポジウム 実践と研究の循環ー質の高い看護・教育をめざしてー. 看護教育学研究, 28(2), 26-27, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

15. 植田満美子, 舟島なをみ, 服部美香, 伊勢根尚美, 亀岡智美, 金谷悦子, 鹿島嘉佐音, 宮芝智子, 山下暢子, 山澄直美:看護学教育における学術的執筆に関する海外文献の検討.看護教育学研究, 29(1), 1-10, 2020.

〔災害看護学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔原著〕

1. 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子:災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討(第1報)-発達障害児の親の自然災害への備えの実情-. 千葉看会誌, 24(2), 31-41, 2019.
2. 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子:災害時に支えとなり得る地域との繋がりを築いていくための支援の検討(第2報)-発達障害児の親の地域社会生活におけるレジリエンス-. 千葉看会誌, 24(2), 43-53, 2019.
3. 姫野雄太, 石丸美奈, 飯野理恵, 宮崎美砂子:別居の娘による親に対する介護の内容. 千葉看会誌, 24(2), 55-63, 2019.

〔研究報告(査読付き)〕

4. Megumi Arisaka, Maki Nakajima, Chikako Sugawara, Yuki Takamura, Yukimi Cho, Mayumi Kishino, Asuka Muroya : Information exchange to strengthen disaster nursing collaboration: Sharing information about various roles and activities during disaster nursing in Japan. Health Emergency and Disaster Nursing, 6(1) , 62-63, 2019.

〔学会発表抄録〕

5. Maki Nakajima : The Current Situation and Challenges of Refugee Children in Jordan. The 22nd East Asian Forum of Nursing Scholar, Singapore (Republic of Singapore) , 2019.
6. Yayoi Iwasaki*, Takae Sekiguchi, Maki Nakajima, Yuko Tsukada, Yuko Hatano, Manami Sato : Community Mental Health During the Disaster Recovery Phase. The 22nd East Asian Forum of Nursing Scholar, Singapore (Republic of Singapore) , 2019.
7. Yayoi Iwasaki*, Takae Sekiguchi, Maki Nakajima, Yuko Tsukada, Yuko Hatano, Manami Sato : Community mental health during the disaster recovery phase. The 22nd East Asian Forum of Nursing Scholar, Singapore (Republic of Singapore) , 2019.
(*2019年3月まで本研究科教員)
8. 奥田博子, 坪川トモ子, 宮崎美砂子:災害時の地域保健活動拠点別統括保健師が取り扱う情報の管理と活用に関する実態. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 121, 2019.
9. 松本珠実, 遠藤智子, 清田千種, 相馬幸恵, 森陽子, 築場玲子, 谷戸典子, 青柳玲子, 宮崎美砂子:地方自治体における災害時保健活動に関する訓練の体系化について. 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 198, 2019.

〔報告書〕

10. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金谷泰宏, 金吉晴, 植村直子:災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業(研究代表者 宮崎美砂子)平成30年度総括・分担研報告書, 2019.

〔単行書〕

11. 宮崎美砂子: 第3章公衆衛生看護管理活動論Ⅱ行政看護管理活動. 最新公衆衛生看護学第3版(2019年版)各論2(宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 194-217, 227, 2019
12. 佐藤奈保: 第10章子どもを取り巻く生活環境と心身の健康. 本郷一夫, 神谷哲司(編)子ども家庭支援の心理学, 103-113. 建帛社, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. 松澤明美, 涌水理恵, 西垣佳織, 藤岡寛, 佐藤奈保, 岩田直子, 岸野美由紀, 山口慶子, 佐々木美輝子: 在宅生活する学齢期の障がい児を育てる母親の就労とその関連要因. 小児保健研究, 78(4), 334-342, 2019
2. 中島麻紀: 東日本大震災で被災した宮城県の母親が認識した子どもの生活と生活環境の困難と工夫. 千葉看護会誌, 25(1), 77-86, 2019.

〔学会発表抄録〕

3. 宮崎美砂子, 霜越多麻美, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 杉田由加里, 時田礼子, 佐藤太一: 保健師の人材育成における On The Job Training—文献レビューからみたタイプ, 開発能力, 職場環境—. 第22回日本地域看護学会講演集, 142, 2019.
4. 石丸美奈, 坂井文乃, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 宮崎美砂子, 飯野理恵, 諏訪さゆり: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成-看護実践能力向上を目指して-. 第22回日本地域看護学会講演集, 152, 2019.
5. 鈴木悟子, 石丸美奈, 坂井文乃, 宮崎美砂子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成-状況設定の内容妥当性の検討-. 第22回日本地域看護学会講演集, 154, 2019.
6. 丸山志帆, 佐藤奈保, 中村伸枝: 先天性心疾患をもつ学童の学校生活と他者との関わり. 日本小児看護学会第29回学術集会講演集, 73, 2019.
7. 湯口 梓, 佐藤奈保, 中村伸枝: 食物アレルギーをもつ学童のセルフケアの実際—低学年と高学年の比較から—. 日本小児看護学会第29回学術集会講演集, 80, 2019.
8. 市川春香, 佐藤奈保, 中村伸枝: 新たな医療的ケアを導入する重症心身障がい児の母親の在宅生活継続における生活調整. 日本小児看護学会第29回学術集会講演集, 88, 2019.
9. 酒井佳織, 中村伸枝, 佐藤奈保: NICU を退院した早産児をもつ親の子供の成長発達の捉え—出生から幼児期前期までに焦点を当てて—. 日本小児看護学会第29回学術集会講演集, 119, 2019.
10. 下野純平, 中村伸枝, 佐藤奈保: 脳性麻痺発症のリスクが高い早産児の父親役割遂行に向けた両親の調整過程の概念枠組みの作成. 日本小児看護学会第29回学術集会講演集, 243, 2019.
11. Akiko Araki, Naho Sato, Ryuko Ito: The objective factors of maltreatment against children with disabilities in Japan: The literature review. 14th International Family Nursing Conference, Washington DC (USA), 2019.
12. 霜越多麻美, 宮崎美砂子: 組織学習理論を用いた地域組織活動の仮説的モデルの内的妥当性の検討. 千葉看護学会第25回学術集会講演集, 43, 2019.
13. 瀬戸葵, 宮崎美砂子, 坂井文乃: 震災後仮設住宅で暮らす独居高齢者の避難先でのコミュニティ形成におけるプロセス. 千葉看護学会第25回学術集会講演集, 33, 2019.
14. 伏見木綿子, 鈴木聡子, 中島麻紀, 塚田裕子, 増野園恵: 仮設住宅の住民を対象とした「熱中症予防と初期対応」の健康教室の実践報告: 日本災害看護学会誌 第21回年次大会講演集, 21(1), 142, 2019.

15. 佐藤真奈美：平成 28 年熊本地震で被災した女性が体験した生活上の困難への対処. 日本災害看護学会第 21 回年次大会講演集, 137, 2019.
16. 奥田博子, 宮崎美砂子, 春山早苗, 石川麻衣, 植村直子：災害時における保健師の受援の検証（第 1 報）－受援保健師へのインタビュー調査から. 第 78 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 2019.
17. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 植村直子：災害時における保健師の受援の検証（第 2 報）－応援派遣元自治体への紙面調査から. 第 78 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 2019.
18. 鈴木聡子：平成 28 年熊本地震で被災した妊産婦のレジリエンス発揮の様相：第 60 回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集, 60(3), 179, 2019.
19. Hiroko Okuda, Misako Miyazaki, Sanae Haruyama, Mai Ishikawa, Naoko Uemura, Yoshiharu Kim, Yasuhiro Kanatani : Roles and Competencies Required of Public Health Nurses (PHN's) for Collaborative Activities with External Supporters during Times of Disaster in Japan. the Asia Pacific Emergency and Disaster Nursing Network (APEDNN) Annual Conference, Hong Kong (China) , 2019.
20. 永田亜希子, 石丸美奈, 坂上明子, 辻村真由子, 飯野理恵, 石橋みゆき, 佐藤奈保, 眞嶋朋子, 島村敦子：領域横断型・積み上げ式・ディープアクティブラーニング地域包括ケア教材開発－動画教材作成－. 第 39 回日本看護科学学会, 金沢, 2019.
21. 下野純平, 中村伸枝, 佐藤奈保：脳性麻痺発症のリスクが高い早産児の父親役割遂行に向けた両親の調整過程を支持する看護職の行動指標の作成. 第 39 回日本看護科学学会, 金沢, 2019.
22. 細谷紀子, 石丸美奈, 宮崎美砂子：発達障害児の親に対する災害への備え促進プログラムの有効性の検証－地域の繋がりづくりに対する質的影響の評価. 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 141, 2020.
23. Naoko Uemura, Misako Miyazaki : Public Health Nurses' Capability of community group support. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiang Mai (Thailand), 2020.
24. Manami Sato, Naho Sato, Misako Miyazaki : Review of Literature on Adult Social Networks and Mental Health after Natural Disasters. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiang Mai (Thailand), 2020.
25. Satoko Suzuki, Manami Sato : Implementation and evaluation of disaster preparedness training for mothers in Japan. The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiang Mai (Thailand), 2020.
26. 鈴木聡子, 高以良仁, 小曾根京子, 山本宏一, 吉田一哉, 大山太, 山本泰美, 米田哲, 草間薫, 佐藤栄一, 富岡譲二：2019 年モザンビークサイクロン被害における国際緊急援助隊医療チームの活動：妊婦への支援：Japan Journal of Disaster Medicine, 24(3), 411, 2020.
27. 高以良仁, 尾川華子, 鈴木聡子, 大山太, 宮本純子, 菊田智子, 夏川知輝, 佐藤栄一, 中森知毅, 富岡譲二：2019 年モザンビークサイクロン被害における国際緊急援助隊医療チームの活動 診療効率化のための診療調整：Japan Journal of Disaster Medicine 24(3), 410, 2020.
28. 山本宏一, 吉田一哉, 小曾根京子, 鈴木聡子, 尾川華子, 仲村孝一, 高以良仁, 宮本純子, 小林泰一郎, 夏川知輝, 佐藤栄一, 中森知毅, 富岡譲二：2019 年モザンビークサイクロン被害における国際緊急援助隊医療チームの活動：搬送：Japan Journal of Disaster Medicine 24(3), 444, 2020.
29. 大山太, 佐藤栄一, 高以良仁, 中森知毅, 鈴木聡子, 吉田一哉, 米田哲：2019 年モザンビークサイクロン被害における国際緊急援助隊医療チームの活動：JDR-MOS(運用管理)：Japan Journal of Disaster Medicine 24(3), 296, 2020.
30. 米田哲, 佐藤栄一, 草間薫, 太田麻衣子, 高以良仁, 大山太, 鈴木聡子, 小曾根京子, 山本宏一, 吉田一哉, 山本泰美, 富岡譲二：モザンビークのサイクロン被災地におけるマラリアとコレラの迅速診断キットの使用経験：Japan Journal of Disaster Medicine 24(3), 427, 2020.
31. 小曾根京子, 太田麻衣子, 山本宏一, 高以良仁, 山本泰美, 菊田智子, 鈴木聡子, 吉田一哉, 齋藤拓也, 米田哲, 大山太, 草間薫, 中森知毅, 夏川知輝, 宮本純子：2019 年モザンビークサイクロン

- 被害における国際緊急援助隊医療チームの活動：感染予防・隔離： Japan Journal of Disaster Medicine 24(3), 410, 2020.
32. Akemi Matsuzawa, Rie Wakimizu, Kaori Nishigaki, Hiroshi Fujisawa Naho Sato, Naoko Iwata, Miyuki Kishino, Keiko Yamaguchi, Mikiko Sasaki : Employment status and health-related quality of life in single and married mothers caring for school-aged children with disabilities in Japan. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka (Japan), 2020.
 33. Junpei Shimono, Nobue Nakamura, Naho Sato : Developing an evaluation index for the adjustment process for playing the fathers' role for preterm infants with high risk of developing cerebral palsy. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka (Japan), 2020.
 34. Reiko Kato, Kafumi Komuro, Chieko Numaguchi, Naho Sato, Akemi Hara, Kumiko Watanabe, Nao Nishikawa, Atsushi Ohashi, Hitomi Katsuda : The effects of intervention with the “Disaster Preparedness Package for Challenged Children” tool for intellectually challenged children at special support schools. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka (Japan), 2020.
 35. Chikoto Suzuki, Maki Nakajima, Megumi Fujii, Kanae Tanaka, Akemi Hara, Yoko Nakayama, Hiroko Minami, Noriko Katada : Nursing practice and ethical issues during disasters in an out-of-hospital context: An integrated literature review. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka (Japan), 2020.

[シンポジウム・招聘講演]

36. 宮崎美砂子 : [基調講演] 災害時の保健活動を推進するための統括保健師の役割. 厚生労働省健康局大規模災害における保健師活動推進会議, 2020年. 港区, 東京都.
37. 宮崎美砂子 : [特別講演] 災害の備え・災害時の保健活動と人材育成. 千葉県公衆衛生学会, 2020年, 千葉市, 千葉県.
38. 宮崎美砂子 : [記念講演] 令和時代の市町保健師像とは. 山口県市町保健師研究協議会 40周年記念, 2020年. 山口市, 山口県.
39. 鈴木聡子 : 妊産婦の力を活かした避難生活の支援 : 第60回日本母性衛生学会総会学術集会抄録集 60(3), 101, 2019.
40. Chikoto Suzuki, Hastoro Dwinantoaji, Ryutaro Kase, Mami Nojima, Maki Nakajima, Noyuri Yamaji : Exchange meeting of graduate students, Sharing information about various research field and collaboration in doctoral nursing research. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, OSAKA, Japan, 2020.

[報告書]

41. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金吉晴, 植村直子 : 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 (研究代表者 宮崎美砂子) 令和元年度総括・分担研報告書, 2020. ...
42. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金吉晴, 植村直子 : 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 (研究代表者 宮崎美砂子) 令和元年度総合研究報告書別冊, 2020.
43. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 石川麻衣, 金吉晴, 植村直子 : 保健師の災害時の応援派遣及び受援のためのオリエンテーションガイド. 厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 (研究代表者 宮崎美砂子) 令和元年度総合研究報告書別冊, 2020.

44. 荒木暁子, 佐藤奈保, 伊藤隆子: 障害福祉サービス等報酬における医療的ケア児の判定基準確立のための研究. 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (身体・知的等障害分野) (研究代表者 田村正徳) 分担研究報告書 2019 年度, 2020.
45. 加藤令子, 小室佳文, 沼口知恵子, 勝田仁美, 佐藤奈保, 笹島宗彦: 障がいのある子どもが自然災害に備えセルフケア能力を高めるための支援構築. 2015~2019 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 基盤研究 B 研究成果報告書, 2020.

〔単行書〕

46. 宮崎美砂子: 第 1 章公衆衛生看護学概論 I 公衆衛生看護とは何か. 最新公衆衛生看護学第 3 版 (2020 年版) 総論 (宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 2-24, 2020.
47. 宮崎美砂子: 第 4 章公衆衛生看護学研究. 最新公衆衛生看護学第 3 版 (2020 年版) 総論 (宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 322-358, 2020.
48. 宮崎美砂子: 第 3 章公衆衛生看護管理活動論 II 行政看護管理活動. 最新公衆衛生看護学第 3 版 (2020 年版) 各論 2 (宮崎美砂子他編), 日本看護協会出版会, 194-217, 227, 2020.
49. 佐藤奈保: IV 難病・障害児保健福祉, 第 4 章 小児保健. 小林京子, 高橋孝雄 (編) 新看護体系 看護学全書 小児看護学①, メヂカルフレンド社, 2019.
50. 佐藤奈保: II 発達障害のある子どもと家族への看護, 第 2 章 在宅・地域において起こりやすい・直面しやすい状況と看護. 小林京子, 高橋孝雄 (編) 新看護体系 看護学全書 小児看護学②, メヂカルフレンド社, 2019.
51. 佐藤奈保: III 家庭で療養している慢性疾患のある子どもと家族への看護, 第 2 章 在宅・地域において起こりやすい・直面しやすい状況と看護. 小林京子, 高橋孝雄 (編) 新看護体系 看護学全書 小児看護学②, メヂカルフレンド社, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

52. 宮崎美砂子: 保健師のキャリアを考える-令和時代の保健師像とは. 保健師ジャーナル, 75(5), 378-382, 2019.
53. 佐藤奈保: コラム・小児のエンドオブライフケア. Nursing Canvas, 7(9), 32, 2019.
54. 佐藤奈保: 「障がいのある子どもの災害備えパッケージ」を用いた聴覚障害をもつ子どもへの介入効果と課題, 小児看護, 42(12), 1503-1508, 2019.
55. 山崎連枝, 城戸口親史, 福島芳子, 中島麻紀, 趙由紀美: 令和元年台風第 19 号に伴う千葉県内における先遣隊活動報告. 日本災害看護学会誌, 21(2), 120-125, 2020.
56. 荒木暁子, 佐藤奈保 (ファシリテーター): テーマセッション 10 地域における虐待予防と支援・連携を考える. 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 96, 2019.
57. 佐藤奈保 (話題提供者): 東日本大震災で被災した地域における子育て支援活動. テーマセッション 12 災害情報アップデート 災害時&災害の備えに有効なプラットフォームづくりを目指して, 日本小児看護学会第 29 回学術集会講演集, 98, 2019.

〔病院看護システム管理学〕

〈2019 年 1 月～2019 年 3 月〉

〔単行書〕

1. 手島恵 (監): 看護者の基本的責務 2019 年度版 - 定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

〔学会発表抄録〕

1. 前田佐知子*, ラウ優紀子, 手島 恵: がん患者の感染予防教育実践方法の新たな仕組みづくり-地域で暮らす患者を中心とした情報提供のあり方, 第23回日本看護管理学会 学術集会, 金沢.
*2018年度看護システム管理学修了

〔単行書〕

2. 井部俊子(監), 手島 恵(編): 看護管理学習テキスト第3版, 第3巻 人材管理論, 日本看護協会出版会, 2019.
3. 手島 恵(編): 地域密着型病院の看護管理能力向上 - 指針と実践 -, 日本看護協会出版会, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

4. 手島 恵, 循環器看護における患者 - 看護師関係と倫理, 日本循環器看護学会, 15(1), 4-5, 2019.

〔受賞(国内・国外)〕

5. 手島 恵: オーラル賞, 第23回日本看護管理学会学術集会(国内), 2019.

〔地域看護システム管理学〕

〈2019年1月～2019年3月〉

〔原著〕

1. 山口絹世*, 吉本照子: 経営の危機的状況の予防に着目した訪問看護ステーション管理者の経営管理行動指標試案の有用性・実用可能性の検証. 千葉看会誌, 24(2), 75-84, 2019.
*2019年3月まで研究生
2. 山口絹世*, 吉本照子: 訪問看護ステーション管理者の経営の危機的状況回避に向けた経営管理行動の構造化. 秀明大学看護学部紀要, 1(1), 23-34, 2019.
*2019年3月まで研究生
3. 姫野雄太, 石丸美奈, 飯野理恵, 宮崎美砂子: 別居の娘による親に対する介護の内容. 千葉看会誌, 24(2), 55-62, 2019.

〔学会発表抄録〕

4. 櫻井好枝, 野中由美, 山口智子, 吉本照子, 飯野理恵: 地域包括支援センターにおける要介護状態のハイリスク高齢者への健康維持・介護予防支援. 日本公衆衛生雑誌, 66(10(特別附録)), 234, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

5. 西開地由美, 吉本照子: 救急・集中治療領域の看護師が終末期患者の家族支援に対して困難を感じる状況に関する文献研究. 千葉看会誌, 24(2), 1-9, 2019.

〔受賞(国内・国外)〕

6. 山口絹世*, 吉本照子: 経営の危機的状況の予防に着目した訪問看護ステーション管理者の経営管理行動指標試案の有用性・実用可能性の検証. 千葉看会誌, 24(2), 75-84, 2019. (国内)
*2019年3月まで研究生

〈2019年4月～2020年3月〉

〔原著〕

1. 飛田篤子, 吉本照子: 在宅終末期がん療養者が他者との関係性の中で主体性を発揮して納得できる療養生活を見出していく過程 訪問看護師の語りから. 千葉看会誌, 25 (1), 19-27, 2019.
2. 西開地由美, 吉本照子: 救急・集中治療領域における終末期患者の家族支援の充実に向けた看護管理者の働きかけ 看護師の困難感を有する状況に着目して. 千葉看会誌, 25 (1), 107-116, 2019.
3. 能見清子*, 吉本照子: 急性期病院における中堅看護師の専門職組織人としての目標設定に向けた病棟看護管理者の支援行動指標の有用性の検証. 千葉看会誌, 25(2), 13-23, 2020.
*2019年3月博士後期課程修了
4. 上原たみ子*, 吉本照子, 杉田由加里, 飯野理恵: 高齢者虐待に対する地域包括支援センター看護職の支援行動指標の有用性・実用可能性の検証. 千葉看会誌, 25(2), 25-34, 2020.
*2020年3月まで研究生
5. 清水みどり*, 吉本照子: 摂食嚥下 機能低下 を認める特別養護老人ホーム入所者への経口摂取支援のための看護職役割行動指標の有用性・実用可能性の検証. 千葉看会誌, 25(2), 35-44, 2020.
*2020年3月まで研究生

〔学会発表抄録〕

6. 吉本照子, 辻村真由子: 新人訪問看護師が事業所の一員として自立的に活動できるまでの学習過程と関連要因. 第9回日本在宅看護学会学術集会プログラム、抄録集, 128, 2019.
7. 辻村真由子, 吉本照子: A 県訪問看護ステーションの経営管理と人材育成に関する研修受講者の学びと継続学習ニーズ. 第9回日本在宅看護学会学術集会プログラム、抄録集, 128, 2019.
8. 英香代子*, 吉本照子: 広域な訪問圏域の多様な医療ニーズを質的・量的に充足し続けるための訪問看護体制の再編. 第9回日本在宅看護学会学術集会プログラム、抄録集, 158, 2019.
*2019年3月修士課程修了
9. 和住淑子, 荒尾博美, 上野まり, 奥田玲子, 落合亮太, 叶谷由佳, 黒田久美子, 錢淑君, 武田淳子, 出貝裕子, 中村京子, 野地有子, 堀律子, 本間昭子, 松浦治代, 吉本照子, 渡邊典子: 社会の変化に即した看護系大学の臨地実習指導体制の改革に関する全国調査. 日本看護科学学会学術集会講演集, 39th-suppl, 2019.
10. 遠藤和子, 小川純子, 飯岡由紀子, 吉本照子, 松岡千代: 教育上の配慮が必要な学生の臨地実習における看護教員の対応とゆらぎ. 日本看護科学学会学術集会講演集, 39th-suppl, 2019.
11. 飯岡由紀子, 松岡千代, 吉本照子, 小川純子, 遠藤和子: 臨地実習における教育上の調整にかかわる組織的支援に関する看護系大学の実態調査. 日本看護科学学会学術集会講演集, 39th-suppl, 2019.
12. 佐々木真弓*, 吉本照子, 飯野理恵: 在宅療養者の誤嚥性肺炎予防に焦点を当てた訪問看護事業所における訪問看護師の力量開発のしくみづくり. 第19回 日本感染看護学会学術集会 講演集, 32-33, 2019.
*2019年3月修士課程修了
13. 能見清子*, 吉本照子: 中堅看護師の専門職組織人としての目標設定における 病棟看護管理者による支援行動指標の有用性と実用可能性の検証. 第23回日本看護管理学会学術集会 (電子媒体), 11350-111-42, 2019.
*2019年3月博士後期課程修了
14. 吉田靖子, 桑野雄介, 大西さゆり, 吉本照子, 杉田由加里: A 看護小規模多機能型居宅介護における「利用者基準」の作成～地域で効果的に看多機を活用するための取り組み～. 日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集, 1回, 383, 2019.
15. 柳澤尚代, 吉本照子, 清水洋子, 菅原京子: 時代が求める! 保健師記録の仕組みづくり! (第3弾) 記録学習から改善までの仕組みづくりの道筋と学習支援のあり方を考えてみましょう!. 第8回公衆衛生看護学会学術集会講演集, 93, 2020.

16. 宮崎美砂子, 霜越多麻美, 飯野理恵, 石丸美奈, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤紀子, 栗栖千幸, 土屋裕子, 杉田由加里, 時田礼子, 佐藤太一: 保健師の人材育成における On The Job Training—文献レビューからみたタイプ、開発能力、職場環境—. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 142, 2019.
17. 石丸美奈, 坂井文乃, 鈴木悟子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 宮崎美砂子, 飯野理恵, 諏訪さゆり: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成—看護実践能力向上を目指して—. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 153, 2019.
18. 鈴木悟子, 石丸美奈, 坂井文乃, 宮崎美砂子, 石橋みゆき, 辻村真由子, 諏訪さゆり, 飯野理恵: 当事者主体の社会資源創出に関するシナリオ学習教材の作成—状況設定の内容的妥当性の検討—. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 154, 2019.
19. 牛尾裕子, 宮芝智子, 松下光子, 塩見美抄, 大澤真奈美, 嶋澤順子, 田村須賀子, 飯野理恵, 山崎洋子, 安田貴恵子: 地域/公衆衛生看護演習プログラムデザインのためのモデルの検討—大学教員の意見調査をもとに—. 日本地域看護学会第 22 回学術集会講演集, 192, 2019.

[ケア施設看護システム管理学]

〈2019 年 1 月～2019 年 3 月〉

[原著]

1. Yasunori Ikenaga, Ikuko Sakai, Yui Sakurai, Tomoko Takayanagi: Changes in the Health Condition after Using a Service Dog of a Person with Complete C5 Spinal Cord Injury: A Qualitative Single Case Study. Progress in Rehabilitation Medicine, 4, doi.org/10.2490/prm.20190001, 2019.
2. 井上修一, 岩崎弓子, 酒井郁子, 杉山智子, 奥村朱美, 大河原啓文, 深堀浩樹: 介護付有料老人ホームにおける家族支援の特徴. 人間関係学研究, 大妻女子大学人間関係学部紀要, 20, 89—99, 2019.

[学会発表抄録]

3. Chizuko Yamazaki*, Ikuko Sakai: Characteristics of team structure and team process in rehabilitation ward with high team performance: A mixed methods study. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019. Singapore, 2019.
*2018 年 9 月博士後期課程修了
4. Yukari Sumiya, Ikuko Sakai: Effective strategies for reduction of physical restraint for Elderly Patients in Acute hospitals. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019. Singapore, 2019.

[シンポジウム・招聘講演]

5. 酒井郁子: 教育講演 情熱 7 障害ある人の最良の健康の回復と増進のための Nurse-led Interventions. 回復期リハビリテーション病棟協会第 33 回研究大会 in 舞浜・千葉抄録集. 36, 2019.

[報告書]

6. 柏木聖代, 江崎祐子, 岡芹正美, 川崎千鶴子, 九里美和子, 車陽子, 沼田美幸, 酒井郁子, 鈴木郁子, 武田庄司, 井上純子, 副原文徳: 特別養護老人ホーム等における看護体制強化のための調査研

究事業報告書. 平成 30 年度老人保健事業推進費補助金 老人保健健康増進等事業 (三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング). 2019.

〔単行書〕

7. 酒井郁子: 第 5 章 3 生活機能障害のある人への看護 (リハビリテーション看護). 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編集), 看護学テキスト 成人看護学 成人看護学概論. 南江堂, 229-237, 2019.
8. 酒井郁子: 第 6 章 3 専門職間の連携と協働. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編集), 看護学テキスト 成人看護学 成人看護学概論. 南江堂, 264-269, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

9. 酒井郁子: 特集 2 スペシャリストやチームに依存しない!一人ひとりが取り組む認知症看護 解説 1 認知症ケアの現状 加算算定に伴う体制整備の効果と課題. 勝又浜子, 和田幸恵, 森本一美, 長田晋一, 伊藤雄介 (編集), 看護, 71 (3), 日本看護協会出版会, 66-69, 2019.

〈2019 年 4 月～2020 年 3 月〉

〔原著〕

1. Tae Yamaguchi, Ikuko Sakai, The unlearning process of senior clinical nurses in rehabilitation wards. *Journal of Advanced Nursing*. 75(11), 2659-2672, <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jan.14050>. 2019.
2. Tomoko Majima, Takeshi Yamamoto, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Sumie Ikezaki : Job Satisfaction and Related Factors of Nurses in University Hospitals: Focusing on Collaborative Competency Factors. *Journal of Nursing Management*, 2019.Oct;27(7):1409-1415. doi: [10.1111/jonm.12822](https://doi.org/10.1111/jonm.12822). Epub 2019 Sep 1. PMID: 31237069
3. Ai Tomotaki, Hiroki Fukahori, Ikuko Sakai, : Exploring sociodemographic factors related to practice, attitude, knowledge, and skills concerning evidence-based practice in clinical nursing. *Japan Journal of Nursing Science*, 2020 Jan;17(1):e12260 DOI:10.1111/jjns.12260, 2019.
4. Hajime Kasai, Shoichi Ito, Hiroshi Tajima, Yukiko Takahashi, Yoriko Sakurai, Naoko Kawata, Harutoshi Sugiyama, Mayumi Asahina, Ikuko Sakai, Koichiro Tatsumi : The positive effect of student-oriented clinical clerkship rounds employing role-play and peer review on the clinical performance and professionalism of clerkship students. *Medical Teacher*, 2020 Jan ; 42(1):73-78. DOI:10.1080/0142159X.2019.1656330, 2019.

〔学会発表抄録〕

5. 酒井郁子, 石川崇広, 雨宮歩, 小松亮, 櫻庭唱子, 磯野史郎 : 非接触非侵襲型モニタによる特別養護老人ホーム入所者の体調の長期的把握方法の検討. 日本老年看護学会第 24 回学術集会抄録集, 226, 2019.
6. 岩本由美子, 太田由美, 森雪子, 渡辺和子, 小林晃子, 坂本祐子, 立川千代子 : 病院ナースの頃の自分に、今、伝えたい“認知症の看護” 施設認知症看護認定看護師になって気づいたこと. 日本老年看護学会第 24 回学術集会抄録集, 238, 2019.
7. 笠井大, 伊藤彰一, 田島寛之, 朝比奈真由美, 酒井郁子, 巽浩一郎 : ロールプレイとピア評価を活用した学生主導回診による診療技術, プロフェッショナルリズム向上効果の検証. 第 51 回日本医学教育学会大会予稿集, 医学教育, 50(suppl.) 90, 2019.
8. Izumi Usui, Tomoko Majima, Yoshihisa Tateishi, Ikuko Sakai, Mayumi Asahina, Masayuki Ishikawa : Research on the evaluation of secondary cardiopulmonary resuscitation training

- aiming at improvement of interprofessional collaborative competency. Conference for Education in Medicine and Simulation CEMS 2019, Taipei Medical University, Taipei (Taiwan), 2019.
9. Mayumi Asahina, Narumi Ide, Izumi Usui, Kana Kurokochi, Ikuko Sakai, Shoichi Ito : Aqualitative study on the impact of IPE in clinical clerkships on clinical educators . amee2019(An International Association for Medical Education) , Austria Center Vienna, Vienna (Austria), 2019.
 10. David Casenove : ジュラ紀のウミユリの研究紹介. 第 13 回ヤムシ研究集会, 2019.
 11. 山崎千寿子* : 回復期リハビリテーション病棟におけるチームが成果を上げるための看護管理者の実践. 第 23 回日本看護管理学会学術集会 93. 2019.
*2018 年 9 月博士後期課程修了
 12. 酒井郁子 : 看護師部会 リハビリテーションにおける尊厳あるケア. 第 9 回千葉県回復期リハビリテーション連携の会全県大会. 16, 2019.
 13. 佐藤多美子, 酒井郁子 : 総合リハビリテーションの展開を支える病棟スタッフの専門職連携実践能力の再獲得, 第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 28, 2019.
 14. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 酒井郁子 : 認知症にかかわる専門職の多職種共同研修プログラムの短期的効果の検証 第 2 報. 第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 56, 2019.
 15. 池永康則, 酒井郁子, 高柳友子, 櫻井友衣 : 頸髄損傷者とその家族との関係に介助犬が及ぼした変化 : ライフストーリーインタビュー研究. 日本補助犬科学研究 (日本身体障害者補助犬学会 第 12 回学術大会) 13(1), 77, 2019.
 16. 長谷川直, 瀬尾智美, 須藤知子, 横田久美, 村中晃, 宮崎尚, 酒井郁子 : 千葉大学医学部附属病院におけるせん妄予防のストラテジー 日本語版 4A 'STest (4AT-J) を用いて. 第 115 回日本精神神経学会学術集会, 精神神経学雑誌 2019 特別号, S621, 2019.
 17. Ikuko Sakai, Shiro Isono, Takahiro Ishikawa, Ayumi Amemiya, Ryou Komatsu, Syoko Sakuraba : Development of a Bed sensor system for detecting changes in physical condition of residents of log-term care facilities. The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress. 127.Taipei (Taiwan) .2019.
 18. 飯田直子*, 池畑久美子, 酒井郁子 : 総合リハビリテーション病院において多職種で取り組む退院支援のしくみづくり. 日本リハビリテーション看護学会第 31 回学術大会. 73.2019.
*2018 年度修士課程修了
 19. 深堀浩樹, 友滝愛, 酒井郁子 : 臨床看護師の「科学的根拠に基づく実践」に関連する属性要因 : 横断研究. 第 39 回日看科会学術集会プログラム集, 58, 2019.
 20. 池崎澄江, 酒井郁子, 谷本真理子, 黒河内仙奈 : 特別養護老人ホームにおける「看取り介護指針・説明支援ツール」に基づく看取り介護の実施状況. 第 39 回日看科会学術集会プログラム集, 100, 2019.
 21. Ai Tomotaki, Hiroki Fukahori, Ikuko Sakai, Kana Kurokochi : The development and validation of Evidence-Based Practice Questionnaire : Japanese version. 第 39 回日看科会学術集会プログラム集, 101, 2019.
 22. Mami Nemawari, Ikuko Sakai, David Casenove : Effect of Nurse-Led Interventions for Stroke Survivors: A Scoping Review School of Nursing, Chiba University, Japan.9th Hong kong International Nursing Forum Program book, 75, 2019.
 23. Tae Yamaguchi. Ikuko Sakai : Educational support by nurse managers for senior clinical nurses who transferred from acute to rehabilitation wards. 23rd East Asian Forum Of Nursing Scholars,76, 2020, Chiang Mai (Thailand) .
 24. Tae Yamaguchi. Ikuko Sakai : Relationship between the factors of unlearning and interprofessional collaborative competency of senior clinical nurses. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Abstracts Book, 382, 2020.

25. David Casenove : How Japanese nursing students co-learn about vulnerability in the English language classroom. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 102, 2020.
26. David Casenove, Steven Kirk : Rethinking the 4/3/2 Activity for Fluency and Accuracy Development. Hawai'i International Conference on English Language and Literature Studies (HICELLS 2020), Hilo (Hawaii) 2020.

〔シンポジウム・招聘講演〕

27. 酒井郁子: ランチョンセミナー 長期ケア施設における生活機能の維持拡大および体調管理にむけた生体情報の活用. 日本老年看護学会第 24 回学術集会抄録集, 119, 2019.6 月.
28. 酒井郁子: リハビリテーションにおける尊厳あるケア. 第 9 回千葉県回復期リハビリテーション連携の会 全国大会, 16, 2019.
29. 酒井郁子: ワークショップ IPE のための教員間連携ーなぜ学生にはできて教員には難しいのかー「IPE 導入の具体的手順と考え方ー千葉大学 IPERC の活動ー」. 第 12 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 56, 2019.
30. 酒井郁子: 特別講演 看護職に必要な専門職連携教育 医療者としてお互いにお互いからお互いについて学ぶために. 京都府看護学会集録, 9, 2020.

〔単行書〕

31. 酒井郁子: 連載 意外に知られていない高齢者の事故 (最終回) 高齢者の事故予防はケアの質の向上によって実現する. 看護技術, メヂカルフレンド社, 60-63, 2019.
32. 酒井郁子: I-5 高齢者ケアのエビデンスから見た回復期リハ病棟でのケア改善の必要性. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装. 医歯薬出版株式会社, 31-36, 2019.
33. 酒井郁子: II-1 回復期リハビリテーション看護の特徴. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 37-42, 2019.
34. 酒井郁子: II-2 回復期リハビリテーション看護に必要な実践能力. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 43-48, 2019.
35. 酒井郁子: III-4 専門職チームの構築と運営. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 84-93, 2019.
36. 酒井郁子: IV-3 EBP 実装プロジェクトの推進. 酒井郁子, 黒河内仙奈 (編集), 回復期リハビリテーション病棟における看護実践 看護の質を高める EBP の実装 医歯薬出版株式会社, 121-132, 2019.
37. 酒井郁子: 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A. 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかり, 山川みやえ (編) 日本看護協会出版会. 2019.
38. 酒井郁子: Q17 認知症の人の退院支援において一般病棟のナースは何をしますか? 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A. 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかり, 山川みやえ (編) 日本看護協会出版会. 40-41. 2019.
39. 酒井郁子: Q32 認知症の人の疾患の治療を効果的に行うためにナースが行うことは何ですか? 認知症 plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A. 深堀浩樹, 酒井郁子, 戸村ひかり, 山川みやえ (編) 日本看護協会出版会. 76-77. 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

40. 酒井郁子：Q2.治療方針や退院時期をめぐって医師と看護師が対立している場合、どうしたらよろしいでしょうか？総合診療 教えて！医師のためのビジネス・スキル，医学書院，1186－1188，2019
41. 長谷川直，瀬尾智美，横田久美，村中晃，須藤知子，平野成樹，山内厚史，宮崎尚，酒井郁子：千葉大学医学部附属病院におけるせん妄予防のストラテジー．千葉医学雑誌，95（4），137，2019.
42. 雨宮歩，磯野史朗，酒井郁子，在床状態見守りシステム，特許公開 2019.051097.
43. 雨宮歩，菅原久純，加瀬竜太郎，酒井郁子，山下仁：接近検知システムおよび接近検知方法，特許出願 2019-011892.
44. 酒井郁子，池西静江，渡部美保子：FOCUS（【座談会】『専門職連携教育ガイドライン』活用に向けて．看護教育，61（1），52-60，2020.

〔ケア開発研究部〕

<2019年1月～2019年3月>

〔原著〕

1. 野地有子，野崎章子，Anil Bankar，福田淳子，炭谷大輔，太島紀子，米田礼：メディカルツーリズムのトレンドと看護教育の主要課題，千大看紀要，41，67-73，2019.

〔学会発表抄録〕

2. 野地有子，野崎章子，溝部昌子，近藤麻理，小寺さやか，飯島佐知子：外国につながる人たちへの看護ケアー異文化との出会い 42 病院マップの開発と活用ー，第9回日本看護評価学会学術集会抄録集，54，2019.

〔シンポジウム・招聘講演〕

(セミナー主催)

3. 野地有子：第2回グローバルヘルス国際セミナー開催，シャリテ・ベルリン医科大学病院看護部長 Judith Heepe 氏の講演 Nursing in Germany，千葉大学ベルリンオフィス柏原誠客員研究員による「シャリテ医科大学紹介と千葉大学との連携について」，看護学研究科 講義・実習室，2019.
4. 野地有子：第4回センター共同研究員拡大会議にてシャリテ・ベルリン医科大学病院看護部長 Judith Heepe 氏の講演，1) Intercultural Competence Training 2) Patient Safety in Germany，TKP 東京駅カンファレンスセンター，2019.

〔報告書〕

5. 野地有子，吉本照子，和住淑子，野地有子，黒田久美子，錢淑君，稲垣朱美*：平成30年度看護学教育ワークショップ報告書 自大学の強みや使命を活かす CQI-自大学をとらえなおす・CQIへのエネルギーを得る，千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践指導センター，2019.
(*2019年3月31日まで本研究科教員)
6. 野地有子，溝部昌子，近藤麻理，小寺さやか，野崎章子，相原綾子**，炭谷大輔，米田礼：10年後を見据えたグローバル人材育成・国際交流の推進 コンテンツ報告書 Vol.3，千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践指導センター，2019.
(**2020年3月31日まで本研究科教員)

7. 野地有子, 野崎章子, 溝部昌子, 飯島佐知子, 近藤麻理, 小寺さやか, 炭谷大輔, 米田礼: 科研事業中間報告書 FY2017-2018 国際シンポジウム・セミナー, 2019.
8. 吉本照子, 和住淑子, 野地有子, 黒田久美子, 錢淑君, 上野まり, 稲垣朱美*: 平成 30 年度文部科学省委託事業大学における医療人養成の在り方に関する調査研究 学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践指導センター, 2019. (*2019年3月31日まで本研究科教員)
9. 吉本照子, 黒田久美子, 和住淑子, 野地有子, 錢淑君, 稲垣朱美*: 看護学教育の継続的質改善 CQI モデル Ver.1 ワークシート, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践指導センター, 2019.
10. 吉本照子, 野地有子, 和住淑子, 黒田久美子, 錢淑君他: 看護実践研究指導センター年報 No.37, 平成 30 年度.

〔単行書〕

11. 野地有子: 第 10 章公衆衛生看護の歴史, 米国と英国の公衆衛生の発達と公衆衛生看護活動の歴史, 標準保健師講座, 公衆衛生看護学概論, 医学書院, 248-256, 第 5 版第 1 刷, 2019.

〈2019 年 4 月～2020 年 3 月〉

〔学会発表抄録〕

1. 野地有子, 高橋遥香, 中島千佳, 田澤敦代, 曳地陵子, 野本尚子, 中野香名, 立麻志保, 米山晶子, 岡本美孝: 外来化学療法を受けているがん患者の食事と栄養面の支援について—第 2 報 通院治療室の管理栄養士と看護師および患者へのインタビューを通して—, 日本健康・栄養システム学会誌 Vol.19(1), 69, 2019.
2. 堤亮介, 高田健人, 浅見桃子, 藤川亜沙美, 長瀬香織, 田中和美, 遠又靖丈, 荻部康子, 宇田淳, 榎裕美, 大原里子, 加藤昌彦, 高田和子, 中村春基, 野地有子, 小山秀夫, 杉山みち子: 通所系サービス事業所における低栄養及び摂食嚥下の問題の実態 (I.事業所実態調査より), 日本健康・栄養システム学会誌 Vol.19(1), 74, 2019.
3. 浅見桃子, 堤亮介, 高田健人, 藤川亜沙美, 長瀬香織, 田中和美, 遠又靖丈, 荻部康子, 宇田淳, 榎裕美, 大原里子, 加藤昌彦, 高田和子, 中村春基, 野地有子, 小山秀夫, 杉山みち子: 通所系サービス事業所利用高齢者における低栄養と ADL/IADL 及び要介護度の関連 (II.利用者個別調査: 多変量解析より), 日本健康・栄養システム学会誌 Vol.19(1), 74, 2019.
4. 高田健人, 浅見桃子, 堤亮介, 藤川亜沙美, 長瀬香織, 田中和美, 遠又靖丈, 荻部康子, 宇田淳, 榎裕美, 大原里子, 加藤昌彦, 高田和子, 中村春基, 野地有子, 小山秀夫, 杉山みち子: 通所系サービス事業所利用高齢者における低栄養と ADL/IADL 及び要介護度の関連 (II.利用者個別調査: 主成分分析より), 日本健康・栄養システム学会誌 Vol.19(1), 76, 2019.
5. A.Noji, A.Nosaki, M.Kondo, S.Iijima, S.Kotera, A.Mizobe, nGlobe: The current situation and problems of nursing care in hospitals caring for international patients in Japan – To make a policy recommendation from the viewpoint of nursing administration –, International Council of Nurses Congress 2019, Marina Bay Sands Singapore, June 27-July 1, 2019.
6. 橋爪朋子, 野地有子: 日本赤十字社看護部における亜急性期の災害サイクル演習プログラムの開発及び実施評価—災害時病院支援に焦点をあてて—, 第 23 回日本看護管理学会学術集会電子抄録集, 2019.
7. 炭谷大輔, 野地有子: 位置情報ゲーム「Ingress」による健康増進効果—アート・デザインの視点から—, 日本健康科学学会第 35 回学術大会抄録集, 35(3), 190, 2019.
8. 大島紀子, 野地有子: 産業看護職における新入社員への健康管理研修の現状と課題, 日本健康科学学会第 35 回学術大会抄録集, 35(3), 196, 2019.

9. 野地有子, 野崎章子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 浜崎美子, 小林康司, 松岡光: 看護職の多文化対応能力研修ベーシックコースの開発と評価 第 1 報 研修コース開発のプロセスと構造, 第 39 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 98, 2019.
10. 溝部昌子, 野地有子, 大友英子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 野崎章子, 炭谷大輔, 相原綾子** : 看護職の多文化対応能力育成を目的とした研修プログラム開発過程について, 第 4 回国際臨床医学会学術集会プログラム抄録集, 41, 2019.
(**2020 年 3 月 31 日まで本研究科教員)
11. Atsuko Genda, Misato Ikeda, Jun Kawakami, Ariko Noji : Examination of Nursing Literature on Shared Decision Making in Japan, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
12. Takako Takahashi, Ariko Noji: Current State of Preoperative Oral Care in A Japanese Public Hospital, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
13. Kayoko Beppu, Ariko Noji: Current State and Problems of Hospitals Providing care for Foreign Patients by a literature, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
14. Ariko Noji, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, Akiko Nosaki, Daisuke Sumitani, Ayako Aihara** : Study on Evaluating a Cultural Competence Training Program in Japan, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
(**2020 年 3 月 31 日まで本研究科教員)
15. Hikaru Matsuoka, Sachiko Iijima, Ariko Noji, Mari Kondo: Evaluation of the quality of Nursing care in Japanese hospitals as seen from for foreign staying in Japan, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
16. Satoko Ueno, Sayaka Kotera, Ariko Noji: Immigrant patients' perceptions of Japanese nursing care , The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
17. <インフォメーション エクスチェンジ>Tong Ling, Ariko Noji: Perceived Transcultural Self-Efficacy Nursing in Third-class General Hospitals, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
18. <インフォメーション エクスチェンジ>Ariko Noji, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Nosaki, Hikaru Matsuoka, Judith Heepe, Koji Kobayashi, Yoshiko Hamasaki: Participatory approach in “a training program for enhancing nurses'capability of responding multicultural situations”, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Osaka, 2020.
19. 相原綾子**、野地有子、近藤麻理、小寺さやか、飯島佐知子、溝部昌子: 外国につながるのある人たちへの看護ケアー異文化との出会い 42 病院マップの開発と活用 第 2 報一, 第 10 回日本看護評価学会学術集会抄録集, 2020.
(**2020 年 3 月 31 日まで本研究科教員)
20. 鈴木里美, 野地有子: 看護師と医療通訳士が協働する際の課題ー看護師と医療通訳士の双方の視点からー, 第 10 回日本看護評価学会学術集会抄録集, 2020.
21. 飯島佐知子, 松岡光, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか、溝部昌子, 相原綾子** : HCAHPS を用いた日本に滞在する外国人と日本人の日本の病院での入院経験の質の比較, 第 10 回日本看護評価学会学術集会抄録集, 2020.
(**2020 年 3 月 31 日まで本研究科教員)

〔シンポジウム・招聘講演〕

22. (招聘講演/基調講演) Ariko Noji : Innovation for Future Nursing : Convergent Education IPE&W, Reserch Institute of Nursing Science, Hanyang University, 漢陽大学看護学研究所国際学術大会講演集,3-17, 2019.
23. (招聘講演) Ariko Noji: Nursing Education and Curriculum Design in Japan Now as the Forefront Aging Socity in the World, International Conference of the 40th Anniversary of AMS-KKU Foundation in Conjunction with the 4th Allied Health Sciences Symposium, Khon Kaen University, Thailand, 2019.
24. (シンポジスト) 野地有子: 食べることを治療の一環として支援するための視点と課題ー外来化学療法を受けているがん患者への管理栄養士と看護師の協働ー, 第39回食事療法学会, 2020.
(研修会における基調講演)
25. 野地有子: カルチュラルコンピテンス教育の背景と必要性, nGlobe 研修ベーシックコース千葉大学会場, 千葉大学 看護・医薬系総合教育研究棟, 2019.
26. 野地有子: カルチュラルコンピテンス教育の背景と必要性, nGlobe 研修ベーシックコース関西医科大学会場, 2019.
27. 野地有子: 看護職の多文化対応能力ー理論とわが国の現状, nGlobe 研修アドバンスコース, 千葉大学けやき会館, 2019.
28. 野地有子: nGlobe 研修の成果と課題, nGlobe 研修エキスパートコース, Webinar, 千葉大学及びドイツ・シャリテ医科大学, 2020.
29. (研修会講師) 野地有子: 外国人の方への医療提供を考えるー看護職としての心構えや準備ー, 山武健康福祉センター看護管理者研修会, 2019.
30. (研修会講師) 野地有子: 世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドラインー外国につながるのある人たちへの医療提供ー」都立広尾病院 JMIP 研修会, 2019.
31. (研修会講師) 野地有子: 組織論・組織分析/公的病院におけるエンド・オブ・ライフケア, 令和元年度国公立大学病院副看護部長研修 I, 2019.
32. (研修会講師) 野地有子: プレゼンテーション演習, 令和元年度国公立大学病院副看護部長研修 II, 2019.
33. (研修会講師) 野地有子: コミュニケーション・人間関係論演習, 令和元年度国公立大学病院副看護部長研修 II, 2019.
34. (研修会講師) 野地有子: 企画立案演習, 令和元年度国公立大学病院副看護部長研修 II, 2019.
(研修会主催)
35. 野地有子: nGlobe 研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース千葉大学会場, 2019.
36. 野地有子: nGlobe 研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース関西医科大学会場, 2019.
37. 野地有子: nGlobe 研修看護職の多文化対応能力研修アドバンスコース, 千葉大学 けやき会館, 2019.
38. 野地有子: nGlobe 研修看護職の多文化対応能力研修エキスパートコース, Webinar, 千葉大学及びドイツ・シャリテ医科大学, 2020.

〔報告書〕

39. 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 藤田比佐子, 炭谷大輔, 相原綾子**他: nGlobe 研修ベーシックコース・アドバンスコース・エキスパートコース コンテンツ報告書, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 2020.
(**2020年3月31日まで本研究科教員)
40. 野地有子, 和住淑子, 黒田久美子, 銭淑君, 大原裕子: 令和元年度看護学教育ワークショップ報告書, 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 2020.
41. 和住淑子, 野地有子, 黒田久美子, 銭淑君他: 看護実践研究指導センター年報 No.38, 令和元年度.

〔単行書〕

42. 野地有子 (監修) : クエスチョンバンク 保健師 国家試験問題解説 2020 第 12 版, メディックメディア, 2019.
43. 野地有子 (監修) : 保健師 国家試験のためのレビューブック 2020 第 20 版, メディックメディア, 2019.
44. 野地有子 : 看護学テキスト Nice 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために, 第 II 章 看護における文化, 3.文化ケアアプローチ, 南江堂, 42-49, 2019.
ISBN:978-4-524-25264-0
45. 野地有子 : 第 10 章公衆衛生看護の歴史, 米国と英国の公衆衛生の発達と公衆衛生看護活動の歴史, 標準保健師講座, 公衆衛生看護学概論, 医学書院, 248-256, 第 5 版第 2 刷, 2020.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

46. 野地有子 : 看護国際化ガイドラインに向けて : 看護管理の支援からの政策提言—多文化に育まれたシンガポールの ICN 大会に参加して, 看護, 71(11), 76-77, 2019.
47. 野地有子 : The Guide for How to Encounter with Different Culture 2018, English edition February 20, 2020.

〔政策・教育開発研究部〕

〈2019 年 1 月～2019 年 3 月〉

〔研究報告 (査読付き)〕

1. 山崎由利亜, 正木治恵, 高橋良幸, 小池 潤, 錢 淑君, 田中 愛, 瀧澤文雄 : 看護学習者の身体観—看護基礎教育課程の学生と博士課程の学生へのインタビュー. 千大看紀要, 41, 45-55, 2019.

〔報告書〕

2. 吉本照子, 野地有子, 和住淑子, 黒田久美子, 錢 淑君, 稲垣朱美 : 平成 30 年度 看護学教育ワークショップ報告書「自大学の強みや使命を活かす CQI—自大学をとらえなおす・CQI へのエネルギーを得る」. 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 2019.
3. 吉本照子, 黒田久美子, 和住淑子, 野地有子, 錢 淑君, 稲垣朱美 : 看護学教育の継続的質改善 CQI モデル Ver.1 ワークシート. 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 2019.

〈2019 年 4 月～2020 年 3 月〉

〔原著〕

1. 黒田久美子, 西山ゆかり, 三谷理恵, 和住淑子, 室屋和子, 鈴木康美, 杉原多可子 : 「新人看護師教育担当者能力自己評価票」 (SS-CNE) Ver.1 の信頼性・妥当性の検証. 日本看護管理学会誌, 23(1), 19-27, 2019.

〔学会発表抄録〕

2. 黒田久美子 , 清水安子, 内海香子, 正木治恵 , 錢 淑君 : 認知機能低下が生じた高齢インスリン療法患者・家族への援助指針の開発過程で得た事例のエピソード.第 24 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会.21th Sep.,2019.千葉 査読有.
3. 井下綾子, 樋口恵美, 和住淑子 : 急性期病院 ICU で夜勤リーダーを行う熟練看護師の判断過程. 第 50 回日本看護学会 (看護管理), 23rd Oct., 2019.
4. Shu Chun Chien, Yoshiko Wazumi, Toshie Yamamoto, Y. Kanai, Shinobu Saito : Impact of Lifestyle and Life Balance on Autonomic Nerves for Patients with Myoma of the Uterus. The 45st Biennial Conference of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing. 18 November 2019, Washington DC, USA.
5. 和住淑子, 荒尾博美, 上野まり, 奥田玲子, 落合亮太, 叶谷由佳, 黒田久美子, 錢 淑君, 武田淳子, 出貝裕子, 中村京子, 野地有子, 堀 律子, 本間昭子, 松浦治代, 吉本照子, 渡邊典子: 社会の変化に即した看護系大学の臨地実習指導体制の変革に関する全国調査. 第 39 回日本看護科学学会学術集会, 30th Nov., 2019.
6. Yoshiko Wazumi, Shinobu Saitou, Toshie Yamamoto, Shu Chun Chien : Establishment of nursing discipline through analysis of change of the degree name in Japan. Nursing Education Research Conference 2020 of Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing. 27th Mar. 2020, Washington DC, USA. (Conference canceled)

〔報告書〕

7. 吉本照子, 野地有子, 和住淑子, 黒田久美子, 錢淑君, 赤沼智子, 上野まり, 稲垣朱美 : 平成 30 年度看護実践研究指導センター年報. 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター, 2019.

〔総説・短報・実践報告・資料・その他〕

8. 今村恵美子 : 晩年期にある人に対するスピリチュアル・ケア～看護実践での活用と看護学生への教育～. 臨床老年看護, 27(1), 43-51, 2020.

〔附属専門職連携教育研究センター (IPERC)〕

〈2019 年 1 月～2019 年 3 月〉

〔報告書〕

1. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 高橋在也*, 馬場由美子編 : 文部科学省国立大学改革強化促進補助金 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 平成 30 年度事業報告書, 2019.

*2019 年度特任研究員

〔単行書〕

2. 酒井郁子 : 第 6 章 3 専門職間の連携と協働. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編集), 看護学テキスト 成人看護学 成人看護学概論. 南江堂, 264-269, 2019.
3. 井出成美 : 第Ⅲ章 3-B 地域包括ケア. 林直子, 鈴木久美, 酒井郁子, 梅田恵 (編集), 看護学テキスト 成人看護学 成人看護学概論 改訂第 3 版, 南江堂, 82-84, 2019.

〈2019年4月～2020年3月〉

[原著]

1. Tomoko Majima, Takeshi Yamamoto, Ikuko Sakai, Ikuyo Nagasaka, Sumie Ikezaki :Job Satisfaction and Related Factors of Nurses in University Hospitals: Focusing on Collaborative Competency Factors. *Journal of Nursing Management*.27(7),1409-1415, 2019.
2. 佐藤多美子, 酒井郁子:総合リハビリテーションの展開を支える病棟スタッフの専門職連携実践能力の再獲得. 第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 28, 2019.
3. 飯田直子, 池畑久美子, 酒井郁子:総合リハビリテーション病院において多職種で取り組む退院支援のしくみづくり. 日本リハビリテーション看護学会第31回学術大会, 73, 2019.
4. Tae Yamaguchi. Ikuko Sakai : Relationship between the factors of unlearning and interprofessional collaborative competency of senior clinical nurses. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Abstracts Book, 382,2020.

[学会発表抄録]

5. Izumi Usui, Tomoko Majima, Yoshihisa Tateishi, Ikuko Sakai, Mayumi Asahina, Masayuki Ishikawa : Research on the evaluation of secondary cardiopulmonary resuscitation training aiming at improvement of interprofessional collaborative competency. Conference for Education in Medicine and Simulation CEMS 2019, Taipei Medical University, Taipei (Taiwan), 2019.
6. Mayumi Asahina, Narumi Ide, Izumi Usui, Kana Kurokochi, Ikuko Sakai, Shoichi Ito : A qualitative study on the impact of IPE in clinical clerkships on clinical educators. amee2019(An International Association for Medical Education) , Austria Center Vienna, Vienna (Austria) , 2019.
7. 臼井いづみ, 井出成美, 馬場由美子, 酒井郁子:認知症にかかわる専門職の多職種共同研修プログラムの短期的効果の検証 第2報. 第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 56, 2019.

[シンポジウム・招聘講演]

8. 酒井郁子:ワークショップ IPEのための教員間連携ーなぜ学生にはできて教員には難しいのかー「IPE導入の具体的手順と考え方ー千葉大学IPERCの活動ー」. 第12回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 56, 2019.
9. 酒井郁子:特別講演 看護職に必要な専門職連携教育 医療者としてお互いにお互いからお互いについて学ぶために. 京都府看護学会集録, 9, 2020.

[報告書]

10. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 馬場由美子編:文部科学省国立大学改革強化促進補助金 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 令和元年度事業報告書, 2020.
11. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 馬場由美子編:文部科学省国立大学改革強化促進補助金 千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター 令和元年度事業報告書, 2020.

[総説・短報・実践報告・資料・その他]

12. 酒井郁子, 池西静江, 渡部美保子: FOCUS (【座談会】『専門職連携教育ガイドライン』活用に向けて. 看護教育, 61 (1), 52-60, 2020.
13. 酒井郁子:Q2.治療方針や退院時期をめぐる医師と看護師が対立している場合, どうしたらよろしいでしょうか?総合診療 教えて!医師のためのビジネス・スキル. 医学書院, 1186-1188, 2019.

[単行書]

14. 井出成美：第3章IV-3-2) 地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり．宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子(編集)，最新公衆衛生看護学総論 第3版(2020年版)，日本看護協会出版会，305-309，2020.
15. 井出成美：第IV章8 エンパワメント．正木治恵，真田弘美(編集)，看護学テキスト老年看護学概論 改訂第3版，南江堂，156-161，2020.

[受賞 (国内・国外)]

16. Izumi Usui, Tomoko Majima, Yoshihisa Tateishi, Ikuko Sakai, Mayumi Asahina, Masayuki Ishikawa : Research on the evaluation of secondary cardiopulmonary resuscitation training aiming at improvement of interprofessional collaborative competency. Conference for Education in Medicine and Simulation CEMS 2019, Taipei Medical University, Taipei (Taiwan), 2019. Award for Academic Excellence (E-poster) 優等 (3rdPrize) 受賞 (国外)

2. 科研費・競争的資金取得一覧

※千葉大学看護学研究科に所属する教員が研究代表者となっているものに限り、(2019年度)			
研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目	新規/継続
野地 有子	文科科研 基盤研究(A)	世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン	継続
森 恵美	文科科研 基盤研究(A)	高年初産婦とその夫に対する出産前教育プログラムの開発と検証	継続
和住 淑子	文科科研 基盤研究(B)	看護職の生涯にわたるキャリア発達を支援する体系的研修プログラムの構築	継続
石丸 美奈	文科科研 基盤研究(B)	地域包括ケアを担う看護職者育成のための住民と協働したシナリオ学習教材の開発	継続
増島 麻里子	文科科研 基盤研究(B)	慢性疾患高齢者の終末期の充実に向けた市民・医療をつなぐ対話支援プログラムの検証	継続
宮崎 美砂子	文科科研 基盤研究(B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJT 実用化研究	継続
諏訪 さゆり	文科科研 基盤研究(B)	認知症の人との コミュニケーション・チャンネルの開発による研究倫理の創成	継続
斉藤 しのぶ	文科科研 基盤研究(B)	看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発	新規
酒井 郁子	文科科研 基盤研究(B)	回復期リハビリテーション病棟におけるEBP 実装プログラムの検証	新規
池崎 澄江	文科科研 基盤研究(B)	特別養護老人ホームの終末期ケアにおける多職種連携とケアの質の評価に関する研究	継続
宮崎 美砂子	文科科研 基盤研究(B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJT 実用化研究	継続
楠 潤子	文科科研 基盤研究(C)	補完・代替療法に取り組むがん患者への看護支援モデルの展開-多職種との連携支援-	継続 (延長)
田中 裕二	文科科研 基盤研究(C)	高次脳機能障害患者に対する看護援助技術の神経生理学的解析と国際比較	継続 (延長)
辻村 真由子	文科科研 基盤研究(C)	訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の開発	継続 (延長)
小宮山 政敏	文科科研 基盤研究(C)	前腕における皮神経の走行-皮静脈穿刺による神経損傷の防止を目指して	継続
黒田 久美子	文科科研 基盤研究(C)	認知機能低下が生じた高齢インスリン療法患者・家族への援助指針の精練と実装化	継続
井出 成美	文科科研 基盤研究(C)	学生の専門職間連携能力の発展を促進するIPEプログラムの実装に有用な学習理論開発	継続
眞嶋 朋子	文科科研 基盤研究(C)	がん医療チームにおける看護師の臨床判断力を基盤にした連携教育プログラムの開発	継続
中山 登志子	文科科研 基盤研究(C)	「研究指導能力自己評価尺度-看護系大学院修士論文指導用-」の開発と有効性の検証	継続
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	看護業務基準の基礎教育における活用	継続

研究代表者	研究助成金の名称または科研費の研究種目	研究題目	新規/ 継続
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育	継続
銭 淑君	文科科研 基盤研究(C)	健康生成論を応用した青壮年期女性の生活クローンモデル及び健康支援アプリ開発	新規
中村 伸枝	文科科研 基盤研究(C)	地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割と評価指標	新規
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究(C)	重症心身障がい児を養育する家族への地域ケアロードマップとケアモデルの開発	新規
岩田 裕子	文科科研 基盤研究(C)	妊娠期から産後6か月までのアクティグラフを用いた父親の睡眠と産後うつの縦断的研究	新規
飯野 理恵	文科科研 基盤研究(C)	住民との共働による生活習慣病予防活動のための教材開発と普及に関する研究	新規
小川 俊子	文科科研 若手研究	介護拒否のある療養者に対する食用ゴマ油を用いた口腔清拭手法の確立と効果の評価	継続
仲井 あや	文科科研 若手研究	早産児の呼吸の安定と自己調整機能の成熟を支える看護援助モデルの構築	継続
下屋 聡平	文科科研 若手研究	18・13トリソミーの子どもの治療・ケアの包括的意志決定の看護支援モデル作成	新規
坂井 文乃	文科科研 若手研究	育児を対象としたヘルスリテラシー概念の解明とその発展を促す支援指針の開発	新規
霜越 多麻美	文科科研 若手研究	組織学習に着目した地域組織活動支援ガイドの作成	新規
山崎 由利亜	文科科研 若手研究	暮らしの場における dementia-friendly な環境評価ツール日本版の作成	新規
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症療養者の日常生活上の困難を改善する訪問看護ケアモデルの開発	新規
雨宮 歩	文科科研 若手研究(B)	歩容評価システムの開発とせん断応力圧力比を考慮した胼胝予防介入効果の検証	継続
舘 祥平	文科科研 若手研究(B)	精神障害者の地域移行・定着支援を担うピアサポーターの地域生活に関する実態調査	継続 (延長)
鈴木 悟子	文科科研 若手研究(B)	30歳代男性の生活習慣病予防のための対話型健康学習支援ツールの開発	継続
森 恵美	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	超高齢妊婦の妊娠初期から育児期における多職種連携システムの構築	継続
宮崎 美砂子	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	原発被災地域住民の安心・生きがい・尊厳を支える超学際的地域包括ケアシステムの構築	継続
石橋 みゆき	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	災害シチズンサイエンス研究手法の開発	新規
前原 邦江	三菱財団研究助成金	生殖補助医療によって妊娠した女性とかわる看護職者に向けた研修プログラムの開発	継続
宮崎 美砂子	厚生労働科学研究費補助金	災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証	継続

3. 共同研究

1) 国際共同研究

〈2019年1月～2019年3月〉

〔成人看護学〕

(1) 研究プロジェクト名：超高齢社会における市民 - 専門職連携型エンドオブライフケア教育研究拠点
Centre of Excellence for End-of-Life Care: Cooperation with the public and the professionals in an aging society

① 本学における研究代表者：増島麻里子（千葉大学大学院看護学研究科）

② 海外におけるパートナー：Sonja McIlfatrick（Ulster University, UK）

③ 開始年度：2016年度

④ プロジェクトの概要：本研究の目的は、超高齢社会における我が国の未来を見据え、高齢者個人のみならず地域全体で包括的にエンドオブライフケアを展開する市民－専門職連携型教育研究拠点を形成することです。高齢者が人生を豊かに生ききることを支えるエンドオブライフケアの実現を目指し、1) 市民－専門職連携型エンドオブライフケア教育開発・展開、2) EOLC 国際教育研究拠点の形成、3) エンドオブライフ対話プログラムの開発と展開、4) 高齢者の EOLC 現状解明と教育研究への往還、を目標に、学際的な研究者で協働し取り組んだ。主な研究推進者 23 名は以下の通り。

酒井郁子、石橋みゆき、飯田貴映子、池崎澄江、石丸美奈、佐藤奈保、辻村真由子、渡邊美和、高橋在也、井出成美、藤沼康樹、石川崇広、小林美亜、黒岩眞吾、梅澤猛、大武美保子、秋田典子、関谷昇、川瀬貴之、磯野史朗、田口奈津子、雨宮歩、関根裕子

https://www.n.chiba-u.jp/adult-gerontological/eolc/study/study_2.html

⑤ 資金・助成等：千葉大学グローバルプロミネント研究基幹リーディング育成プログラム

⑥ 主な成果：(2019年1月～3月)：

・ Mariko Masujima, Miwa Watanabe, Miyuki Ishibashi, Naho Sato, Takeshi Umezawa: Assessing the usability of a web-based advance care planning education tool for adults: a pilot study, The 7th international advance care planning conference, Rotterdam, 2019.

*Poster Award 候補にて Oral presentation 演題

・ Miwa Watanabe, Mariko Masujima: Changes in End-of-life Discussion between Patients with Advanced Cancer and their Family Members after Implementation of the Nursing Program, The 7th international advance care planning conference, Rotterdam, 2019.

*Poster Award 候補にて Oral presentation 演題

・ Ayumi Amemiya: Intravenous feeding self-withdrawal prevention system. Patent Pending (to be acquired by January 2019) (in Japan)

⑦ その他特記すべき事項（受賞、シンポジウム等）：

・ 2019/3/30 開催：第4回エンドオブライフケア国際シンポジウム End-of-life Care Competency for Nurses working in Long-Term Care Facilities

〔訪問看護学〕

(1) 研究プロジェクト名：高齢者の在宅見守りロボットの開発研究と社会実装における倫理的課題

① 本学における研究代表者

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

② 海外におけるパートナー

フィンランド／セイナヨキ応用科学大学／Helli Kitinoja、Jaakko Hallila、Marika Toivonen

フィンランド／パルガス市／Camilla Bergman-Kärpijoki

アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly

③ 開始年度

平成28年度（アイルランド）、平成29年度（フィンランド）

④プロジェクトの概要

本研究は、認知症対策に熱心な日本、アイルランド、フィンランドの要介護高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職を対象とした質問紙調査を実施し、在宅高齢者の見守りのためのロボットやセンサーに関する倫理的課題をどのように認識しているかを明らかにすることを目的としている。以下に示す学際的研究チームで取り組んだ。

辻村真由子、石丸美奈、兪文偉、高橋絵里香、井出博生、島村敦子

⑤資金・助成等

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団第26回（2017年度）国際共同研究助成

⑥主な成果

日本、アイルランド、フィンランドの国際比較に用いる自記式無記名による調査票を日本語、英語、フィンランド語、スウェーデン語で開発し、郵送法あるいはインターネットにより調査を完了した。

〔ケア開発研究部〕

- (1) 「ドイツと日本における看護職の文化対応能力の向上」, 野地有子 (千葉大学大学院看護学研究科・教授), ドイツ・シャリテ医科大学病院・Judith Heepe 看護部長, FY2019~2021, 第2回グローバルヘルス国際セミナー開催.
- (2) 「サンディエゴ大学と千葉大学の高度実践看護管理に関する共同教育」, 野地有子 (千葉大学大学院看護学研究科・教授), アメリカ合衆国・サンディエゴ大学・Jane Georges 看護学部長/Kathy Marsh 副看護学部長, FY2019~2021.
- (3) 「タイと日本における看護職の文化対応能力の向上」, 野地有子 (千葉大学大学院看護学研究科・教授), タイ王国・コーンケン大学・Pakvilai Srisaeng 看護学部長, FY2019~2021.
- (4) 「韓国と日本における融合教育に関する共同研究」, 野地有子 (千葉大学大学院看護学研究科・教授), 韓国・漢陽大学・Tak 看護学部長/ Yi 看護研究所長, FY2019~2021.

〈2019年4月~2020年3月〉

〔訪問看護学〕

- (1) 研究プロジェクト名：高齢者の在宅見守りロボットの開発研究と社会実装における倫理的課題

①本学における研究代表者

諏訪さゆり (千葉大学大学院看護学研究科)

②海外におけるパートナー

フィンランド/セイナヨキ応用科学大学/Helli Kitinoja, Jaakko Hallila, Marika Toivonen

フィンランド/パルガス市/Camilla Bergman-Kärpijoki

アイルランド/アイルランド国立大学ダブリン校/小舘尚文, Sarah Donnelly

③開始年度

2016年度 (アイルランド)、2017年度 (フィンランド)

④プロジェクトの概要

本研究は、認知症対策に熱心な日本、アイルランド、フィンランドの要介護高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職を対象とした質問紙調査を実施し、在宅高齢者の見守りのためのロボットやセンサーに関する倫理的課題をどのように認識しているかを明らかにすることを目的としている。以下に示す学際的研究チームで取り組んだ。

辻村真由子、石丸美奈、兪文偉、高橋絵里香、井出博生、島村敦子

⑤資金・助成等

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団第26回（2017年度）国際共同研究助成

⑥主な成果

日本、アイルランド、フィンランドにて収集したデータの分析を行った。結果の一部について、67th Annual and Scientific Meeting of the Irish Gerontological Societyにおいて、口演発表を行った。

⑦その他特記すべき事項（受賞、シンポジウム等）

ファイザーヘルスリサーチ振興財団2019年第26回ヘルスリサーチフォーラムにおいて、研究成果の発表を行った。

(2) 研究プロジェクト名：介護ロボットの社会実装モデルに関する国際共同研究～人・ロボット共創型医療・介護包括システムの構築に向けて～（HARP・RoCS）

①本学における研究代表者

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

②海外におけるパートナー

アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚文、Sarah Donnelly、Hasheem Mannan

アイルランド／アイルランド王立内科医協会、学務長／Diarmuid O'Shea

フランス／フランス国立保健医学研究所／Boris Hauray

フランス／フランス国立科学研究センター／Sébastien Dalgalarondo

フランス／フランス国立社会科学高等研究院パリ日仏財団、所長／Sébastien Lechevalier

香港／香港中文大学／陳智豪、張美珍

③開始年度

2019年度

④プロジェクトの概要

介護ロボットと人間の共創にむけて、日本発の社会実装モデルの実現・輸出を目指す第一歩として、日本・アイルランド（愛）を核とする国際研究チームを作り、政策実務家他へのヒヤリング調査、そして実証実験を行う。以下に示す学際的研究チームで取り組んでいる。

辻村真由子、湯本品代、兪文偉、尾林和子、増山茂、坂田伸裕、田島誠一、鈴村豊太郎

⑤資金・助成等

公益財団法人トヨタ財団2018年度研究助成プログラム特定課題「先端技術と共創する人間社会」

〔ケア開発研究部〕

(1) 「ドイツと日本における看護職の文化対応能力の向上」、野地有子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）、ドイツ・シャリテ医科大学病院・Judith Heepe 看護部長、FY2019～2021、第2回グローバルヘルス国際セミナー開催。

(2) 「シャリテ IPIKA-CHIBA プロジェクト：シャリテ医科大学と千葉大学の協働による国際化に能力を発揮できる若手リーダーの育成」、野地有子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）、ドイツ・シャリテ医科大学病院・Judith Heepe 看護部長、FY2019。

(3) 「サンディエゴ大学と千葉大学の高度実践看護管理に関する共同教育」、野地有子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）、アメリカ合衆国・サンディエゴ大学・Jane Georges 看護学部長/Kathy Marsh 副看護学部長、FY2019～2021。

(4) 「タイと日本における看護職の文化対応能力の向上」、野地有子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）、タイ王国・コーンケン大学・Pakvilai Srisaeng 看護学部長、FY2019～2021。

(5) 「韓国と日本における融合教育に関する共同研究」、野地有子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）、韓国・漢陽大学・Tak 看護学部長/Yi 看護研究所長、FY2019～2021。

IV. 社会貢献活動

1. 学協会等への貢献

学協会の役員等について、就任した教員（教授、准教授、講師、助教）ならびに特定雇用教員（技術専門職員・技術職員を含む）の延べ数。

(延べ数)

	件 数			
	学術団体役員 (理事、評議員)	学術集会長	学術団体等委員会 委員	計
2019 年度	91	2	117	210

2. 国及び地方公共団体等への貢献

国及び地方公共団体等の機関等が設置する審議会委員・科研費審査委員などに学識経験者として参加した教員（教授、准教授、講師、助教、特定雇用教員）の延べ数。審議会については名称を記載。

1) 国の機関等

(延べ数)

	件 数			計
	審議会委員	科研費審査委員	その他	
2019 年度	12 件 (★)	12	9	33

★

文部科学省大学設置・学校法人審議会
 文部科学省高等学校職業教育教科書審議会
 厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会
 厚生労働省医政局看護基礎教育検討会
 文部科学省職業実践力育成プログラム（B P）書面審査委員
 文科省科学技術人材育成費補助事業
 「ダイバーシティ研究環境実現 イニシアティブ事業（牽引型）」

2) 地方公共団体等の機関等
(延べ数)

	件 数				
	審議会委員	医療保険等の 審査委員	財団等の役職 (理事, 評議員)	その他	計
2019 年度	11 件 (★)	2	9	23	45

★

千葉県感染症対策審議会
 千葉市社会福祉審議会
 千葉県医療審議会
 日本看護協会
 千葉県男女共同参画苦情処理委員
 千葉市精神保健福祉審議会
 千葉県地方精神保健福祉審議会
 習志野市健康なまちづくり審議会
 千葉市健康づくり推進協議会

3. メディア・報道等を通じた貢献

一般メディア及び報道機関等に取り上げられた件数。

	件 数						
	全国紙 (ネット上含む)	地方紙等 (ネット上含む)	テレビ	ラジオ	オンライン 誌	その他	計
2019 年度		1				4	5

4. 公開講座

日程：令和元年10月5日（土）13:00-15:10

会場：千葉大学大学院看護学研究科 講義・実習室

テーマ：「私らしい生き方」をあらためて考えてみる

超高齢化社会の中で、認知症と人生の最期の迎え方は、医療職だけでなく市民一人一人が考えなくてはならない問題である。公開講座が、この問題について考えるきっかけになることを期待し、テーマを設定した。

講演者：石丸美奈教授「地域活動における認知症への対応ー私らしい地域の中での生き方ー」

増島麻里子准教授「健やかな時から考えるー私らしい人生の終い方ー」

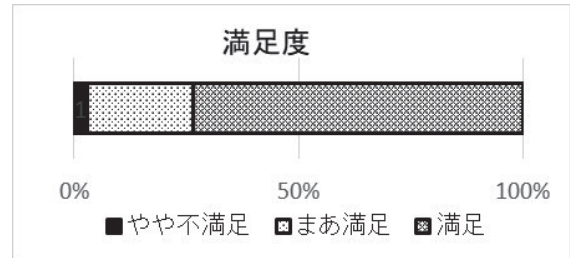
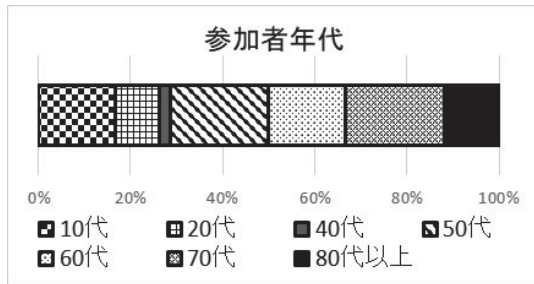
参加者人数・感想

看護や健康に関心のある高校生、市民の方が千葉県内外から約 50 名参加し、熱心に聴講、議論を行った。参加者どうして話し合う時間もあり、活発に意見を交換していた。

42 名からアンケートへの回答があった。回答した 42 名の年代は 10 代から 80 代以上と幅広く、親子で参加された方もおり、年代を超えて関心の高いテーマであることがうかがわれた。参加者のほとんどが講座に満足したと回答していた。

自由記載にあった主な感想は以下のとおりである。

- ・認知症に対する初期対応やサポートについて知ることができた。家族だけでなく地域でサポートできたらよいと思った。
- ・今まで深く考えることのなかった自分や身近な人の死、認知症の方への関わり方について詳しく知り、学ぶことができた。
- ・答えのない問題ではあるが、講座をきっかけにいろいろな考え方があることを知った。また考える機会になった。
- ・年代の違う人と話し合うことで、いろいろな意見が聞け、勉強になった。



V. 国際交流

1. 海外への渡航者数

2019.1-2020.3

	教員		大学院生	
	研究・研修等	学会参加	研究・研修等	学会参加
<アジア>				
中国	8	4		1
シンガポール		5		6
韓国		2		
台湾	1	3		
タイ	1	2		4
インドネシア	2			
<オセアニア>				
オーストラリア	3			
<北米>				
アメリカ	5	7	2	
カナダ		2		
<欧州>				
イギリス	8			
ドイツ	7	1	3	
オランダ		2		
スイス	1			
ポルトガル		1		
フランス	1			

中南米, 中近東, アフリカは0名

2. 海外からの来訪者数

2019. 1-2020. 3

国名	所属機関名	来学目的	人数	受入日数
インドネシア	なし	調査準備のため	1	9
米国	University of Cincinnati	公開セミナーでの講演等	1	11
英国	Coventry University	公開セミナーでの講演等	1	12
ドイツ	シャリテ医科大学病院	公開セミナーでの講演等	1	6
韓国	ソウル国立大学病院	公開セミナーでの講演等	1	3
韓国	ソウル国立大学看護学部	公開セミナーでの講演等	1	3
タイ	チュラロンコン大学	公開セミナーでの講演等	2	7
タイ	チェンマイ大学	Act as an instructor of JBI Systematic Review Training program	1	5
韓国	Inje University	亥鼻 IPE の Step4 の見学	4	3
インドネシア	ガジャマダ大学	研究打合せ	5	5
中国	Suzhou smart advanced coatings technologies co., ltd.	共同研究検討のため	1	1
ドイツ	シャリテ医科大学病院	研修講師	1	5
中国	香港大学	留 学	3	10
タイ	コンケン大学	留 学	2	15
イギリス	アルスター大学	国際シンポジウム	1	5

3. 海外の大学との協定

1) 大学間協定

2019年4月現在で約250の大学間協定があり、そのうち看護学研究科が締結に関係した協定を掲載する。

国	大学	締結年
韓国	ソウル国立大学 (ソウル市)	2011
タイ	コンケン大学 (コンケン)	2017
タイ	プリンス オブ ソンクラ大学 (ソンクラ)	1996
台湾	台北医学大学 (台北市)	2017
中国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)	2010
中国	大連医科大学 (遼寧省大連市)	2015
中国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)	2013
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)	1984
アメリカ	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (カリフォルニア州ロサンゼルス)	1996
カナダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州シャーロットタウン)	2016
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)	2000

2) 部局間協定

(1) 現在の協定大学

国	大学（場所）	締結年
韓国	ソウル国立大学看護学部 （ソウル市）	2016
タイ	コンケン大学看護学部 （コンケン）	2015
中国	大連医科大学看護学部 （大連市）	2016
中国	大連医科大学附属第一医院 （大連市）	2019
中国	復旦大学看護学院 （上海市）	2017
中国	北京大学看護学院 （北京市）	2007
中国	香港大学看護学部 （香港）	2018
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 （アラバマ州バーミングハム）	1990
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 （カリフォルニア州サンディエゴ市）	2011
イギリス	アルスター大学看護学部 （北アイルランド）	2019

(2) 過去に協定があった大学

国	大学（場所）	協定期間
中国	天津医科大学看護学院 （天津市）	2007-2017
アメリカ	ミシガン大学看護学部 （ミシガン州アナーバー）	1996-2018

編集後記

千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2019 を刊行しました。本年報は、千葉大学看護学部紀要第 1 号（昭和 54 年 3 月発行）～第 32 号（平成 22 年 3 月発行）、そして、千葉大学大学院看護学研究科紀要第 33 号（平成 23 年 3 月発行）～ 第 41 号（平成 31 年 3 月発行）の後継となるものです。

経費のスリム化の流れもありますが、教職員一体となって、看護学研究科の教育、研究と社会貢献の活動内容をしっかりと情報発信し、さらにデータベースとしての位置付けを強化していくことを目的に、紀要から年報へ変更しました。

千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科の「今」を発信し、その「歩み」を蓄積して、今後の発展に繋げてまいります。発行までの事務を円滑に調整いただきました小島規子様をはじめ、事務部の皆様に御礼申し上げます。

図書・紀要委員会 委員長 石丸美奈

以下、委員

池崎 澄江、今村 恵美子、小川 俊子、中水流 彩、正木 治恵（五十音順）

千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2019

2020（令和 2）年 3 月発行

発行者 千葉市中央区亥鼻 1 丁目 8 番 1 号

千葉大学大学院看護学研究科

Tel : 043-222-7171（代）

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

